

---

# **仮面ライダーオーズ×真・恋姫†無双 映司とアンクと恋姫達**

西森

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仮面ライダー オーズ×真・恋姫†無双 映司とアンクと恋姫達

### 【NZコード】

N6894X

### 【作者名】

西森

### 【あらすじ】

人の欲望を食らう怪人・グリード。そして仮面ライダー オーズこと火野映司と鳥糸怪人のアンク。二人が力を合わせた時、新たな物語が始まる。（オーズファンには駄作かもしれませんがあろしくお願いします）

## 1 「映画と謎のグリードと異世界」（前書き）

西森「どうもはじめての人ははじめまして西森です。通算五作目の作品です。本来なら響鬼の話を書く予定でしたが前に書いた電王の感想の中にオーズ×恋姫でという感想がありましたので書いてみました。完結までもつてありますのでよろしくお願いします」

## 1 「映司と謎のグリードと異世界」

その日使う分のお金と履くパンツがあればいいという欲望のない人間・火野映司こと仮面ライダー オーズ

メダルを食らうことと1日一本アイスを食べること以外興味がほとんどの鳥系怪人のアンク

二人は元々目的は違うものの協力しあつていたが現在はある出来事があつてコンビを解消している。

これはそんな二人が再びコンビを組んで戦う物語である。

映司が住み込みで働いている多国籍料理店・クスクシエ

映司「よつと！」

パサツ！

今日もいつものように映司はパンツを天日干ししていると

映司「そういえば最近グリードが現れないな」

グリード…800年ほど前に生み出された怪人。アンクもその一人であり他に昆虫系怪人のウヴァ、猫系怪人のカザリ、水棲系怪人のメズール、重量系怪人のガメルがいる。

ところがここ最近グリードが現れていないのだ。

いや、現れていなければおかしい。現れたと思われる場所に行つて  
みてもいいのだ。

それなら逃げただけだらうと思う人もいるだらうが何故か現れた場  
所には激しい戦いの跡があつたのだった。

映司「これでグリードも残るはアンクだけか。大丈夫かなあいつ」

映司が心配していると

トウルルーツ！

いきなり映司の携帯が鳴り出した。

ピッ！

映司が電話に出ると

鴻上「ハロー火野君」

電話の相手は鴻上ファウンデーションの会長である鴻上光生であつ  
た。

鴻上先生…メダルについて詳しい人物。何故かメダルを欲しがつて  
いる。オーズが戦闘や移動に使うメダルシステムを提供した人物。  
ケーキ作りが趣味

鴻上「忙しいかもしぬないがちょっと（会社）に来ててくれたま  
え」

映司「はいっ！わかりました」

## 鴻上ファウンデーション

鴻上「よく来たね火野君。まあ座りたまえ」

映司「俺に何か用ですか？」

スツ

と聞きながらも座る映司

鴻上「本来なら後藤君にやつてもらうのだが彼は忙しいので直接君に来てもらつことにしたんだよ。里中くん、例のものを」

里中「はい会長」

里中エリカ：鴻上の秘書であり後藤の上司。仕事には時間主義な性格だが実力は高い。鴻上の作るケーキを食べさせられているが本人は辛党

スツ

そして里中は映司にケーキの入った箱とトランクを渡した。

映司「これ何ですか？」

映司が聞くと

鴻上「見ての通りケーキとトランクだよ。中身は後で見たまえ、今

日が君にとつて新たな出会いを迎えるかもしれないからね

映司「はあ？」

この時、映司は鴻上が何をいっているのか全然わからなかつた。

そんなときー

ピギーッ..ピギーッ！

タカカンドロイドがバツタカンドロイドを連れて現れた。

映司「何でこんなとこー？」

バツ！　スタッ！

そしてタカカンドロイドがバツタカンドロイドを床に落とすとバツタカンドロイドが起動した。

後藤「こちら後藤です！見知らぬグリードがアンクと戦っています！俺も戦いましたが敗れてしましました！」

後藤慎太郎：仮面ライダーバースの装着者。眞面目な性格

話を聞いた映司は

映司「アンクだつて！？今すぐいかなきや！それじゃあ俺はこれで失礼します！」

ダダッ！

映司は鴻上からもらったケーキとトランクを持つて走り出した。

映司が去った後

里中「会長、火野さんに話さなくてよかつたんですか？」

鴻上「里中くん、それでは面白くないだろう。今日が火野君にとつてハッピーバースデイ！になるかもしれないのだから」

何かをたくらんでいる鴻上であった。

その頃、映司は

映司「えへっと、自販機どじだ？…あつた！」

映司は黒い自販機のようなものを見つけると

チャリンッ！ ポチッ！

ポケットからメダルを入れて真ん中のボタンを押した。すると…

ガチャガチャンッ！

黒い自販機はいきなりバイクに変形した。

ライドベンダー…メダルを入れることによりバイクになつたりカンドロイドを出すことができる。ただしどちらもメダルが必要

ブォンッ！ブォンッ…！

映司はバイクに乗り込んで先を急いだ。

映司「待つてろよアンク！」

その頃、現場では

ドドーンッ！

アンク「ちつ！メダルの気配を追つて来てみればとんでもないやつ  
だつたとはな！？」

バササツ！

鳥系怪人であるアンク（完全体）がグリードから逃げていた。

アンク…鳥系怪人。映司と共に戦い、主にメダルを渡すサポートをして  
いたが現在はコンビを解消している。現在アンクのコアメダル  
は6枚

グリードの体の中板はコアメダルで形成されており9枚揃えた場合  
完全体となる。

そのアンクが逃げている相手とは…

バーンッ！！

見たこともないグリードで鬼の一一本角を頭から生やし、体は山伏の  
ような鎧を身に纏い、足は獣の足で尻尾が9本ある黒いグリードだ  
った。

? 「他の奴らはすべて倒した！ 残るはアンク、お前だけだ…おとなしくコアメダルをよこせ！」

アンク「そうか。カザリ達を殺つたのはお前だな。誰がお前なんかにコアメダルを渡すかよ！」

ドドーンッ！

アンクは手から火炎弾を放つが

? 「フンッ！」

バサッ！ シュンッ！

謎のグリードが手を振るつた瞬間、火炎弾が打ち消された。

アンク「ちつ…この化け物め！」

バサッ！

敵わないと感じたアンクは空を飛んで逃げよつとするが

? 「逃がしはしない！」

スッ！

謎のグリードが手をアンクの方に向けると

ギュイイーンッ！！

アンク「うわっ！？」

謎のグリードの手からまるで電気掃除機のような吸引力がアンクの体を吸い込もうとしていく。

ジャラジャラッ！

アンク「うおっ！？」

謎のグリードの吸引力はアンクの体を形成するセルメダルはおろかコアメダルをも吸い込んでいく！

？「これで終わりだアンク！」

謎のグリードがアンクに止めをさそうとした時

プロローッ！

？「なにっー？」

ドカッ！！

？「ぐおっー？」

いきなり現れたライドベンダーが謎のグリードにぶつかり

アンク「がはっ！？」

これによりアンクの吸引は阻止されたもののアンクの残りコアメダ

ルは2枚にまで減つてしまい

シユンツ！

アンクの体は完全体から人型である泉信吾の体へと変わった。

アンク「ちつ！コアメダルを大量に奪われちまつたな」

そんなアンクの元に

ブロローッ！ キキイッ！

映司「アンク大丈夫か！？」

ライドベンダーから降りた映司が現れた。

アンク「映司、何で来やがった！」

アンクが言うと

映司「何でつて、お前を見捨てられるわけないだろ。だつてお前は

⋮ 「

映司が最後まで言おうとする

ムクッ！

?「おのれ！」

謎のグリードが立ち上がった。

映司「アンク！？何だよあいつ！？」

アンク「知るか！メダルの気配を探つていたらあいつに出くわしたんだよ！それより映司、あいつはカザリ達のメダルを持つてるぜ！」

「

映司「えつ！？じゃあカザリ達がいなくなつたのってあいつの仕業！？」

驚く映司であつた。何故ならカザリ達だつて弱くはないはずなのにそれを倒すこいつは一体！？

？「お前から多数のメダルを感じる。俺によじせ！」

謎のグリードは映司の持つメダルホルダーを狙つていた。

映司「悪いけどこれをやるわけにはいかないよ」

パカッ！

そして映司がメダルホルダーからメダルを取り出そうとすると

？「今だ！」

スツ！ ギュイイーンッ！

パツ！

映司「あつー？」

映司が油断した隙にメダルホールダー（多数のメダル入り）は謎のグリードに奪われてしまった。

? 「ありがとよ！」

映司「しまった！？」

アンク「お前バカか！ みすみす取られやがって！」

アンクが映司を責めていると

? 「これでこの世界に用はなくなつた。さらばだ！」

“ガ”“ガ”“ガ”…！

謎のグリードは空間に穴を開けてどこかに行こうとする。

アンク「待てつ！俺のメダル返しゃがれ！」

映司「待てつてアンク！？」

謎のグリードからメダルを取り返すため追いかけるアンクとアンクを追いかける映司

ガシッ！ ガシッ！

そしてアンクが謎のグリードの手をつかみ、映司がアンクをつかんだ瞬間

キュインツ！

アンク「なつ！？」

映司「うわっ！？」

二人は空間に吸い込まれてしまつた。

しばらくして

映司「うへん…」

映司が目を覚ますと

映司「あればライドベンダー（バイクモード）がありそして

近くにはライドベンダー（バイクモード）がありそして

映司「アンク！？」

アンク「う…」

アンクまで近くに倒れていた。

アンク「くそつ…」「アメダルだけでなくセルメダルまで奪われたから回復が遅いぜ。おい映司、ここどこだ？」

映司「何言つてんだよお前、ここは街角…」

だがあらためて映司が回りを見てみると

ガラーンツ！

回りは荒野になっていた。

映司「エリゼー？」

アンク「知るか！」

再びもめ出す二人。だが、悪いと同時に悪いことは重なるものである。

ザツ！

？「おい、そこのお前ら！」

映司「えつ？」

ぐるつ

声に反応した映司が声のした方を向いてみると

バーンツ！

そこには黄色いバンダナをした三人組がいた。

アニキ「妙な格好しやがって！」

チビ「金田のものを置いてきなーそいつすりや命だけは助けてやるぜ！」

デク「だな～！」

ジャキンッ！

三人組が脅すために剣を抜くと

映司「この剣よくできていますね。まるで本物みたいだ！」

剣に興味を持つ映司。それを見た三人組は

アニキ「バカ野郎！ 本物に決まってるだろうが！」

チビ「痛い目みたくないやさつさと金田のものをよこしな！」

デク「だな～！」

ジャキンッ！

三人組は更に映司に剣を突きつける。

映司「もしかして強盗！？」

アンク「今頃気づいたのかよ！ 鈍いのは相変わらずだな」

アニキ「さつさと金田のものをよこせー！」

スツ！

更に映司に剣を突きつける三人組

映司「わかりました渡しますから許してください！？」

スッ！

そして映司がポケットから出したものは

パンツ！

一枚のパンツだった。

映司「俺にとつては金田のものです！だから許して…」

もちろんパンツなんかで三人組が許すはずがなく

三人組『ふざけるなーっ！』

逆に怒らせてしまった。

映司「ひいっ！？アンクどうしよう…？」

アンク「知るか！」

開始早々、危機に陥る一人であった。

その頃、鴻上ファンデーションでは

鴻上「そろそろ火野君達はあっちについた頃かな？ 出会いは新たな誕生日となる。頼んだよ火野君、私が渡した物を十分に活用したまえ！」

と言しながら今日もケーキを作る鴻上であった。

# 1 「映司と謎のグリードと異世界」（後書き）

SCOUTS MEDALS

現在、映司とアンクの持つメダルは

タ力 2

## 2 「闇羽と御遣いと『ソルジャー復活』（前書き）

前回の三つの出来事

一つ、アンクを除くグリード達が突然喪失

二つ、アンクが謎のグリードに襲われる

三つ、メダルを奪った謎のグリードを追いかけた映司とアンクが異世界に飛ばされいきなり賊に襲われる

## 2 「闘羽と御遣いとコアヒ復活」

アーチキ「ぶつ殺してやるぜ！」

ボンツ！！

アーチキの振るった剣が映司に降り下ろされる。

映司「ひつー？」

サツ！

それをなんとか紙一重で避ける映司。

映司「アンク、お前も見てないで何とかしろよー！」

映司はアンクに言つが

アンク「ふむけるなー何でこの俺がお前を助けなくちゃならないんだ！」

以前は「コンビを組んでいた」の一人はわけあって今は別離中なのだ。

アンク「（それに今、俺のメダルは2枚しかないからな）」

謎のグリードにメダルを奪われてしまいコアメダルが2枚しかない  
今のアンクは火炎弾を撃つことも、空を飛ぶこともできなくなり、  
左腕一本しか変身できないのだった。

チビ「この金髪野郎！何余所見してんだよ！」

ブォンッ！！

アンクに田をつけたチビが剣を振るつてへる。

アンク「ちつー！」

スツ

アンクは構えようとするが間に合わない！そんなとき…

映司「アンク、危ない！」

ドンッ！　ズバッ！

映司「いたつ！」

映司がアンクを突き飛ばしてアンクを庇つた映司が逆に斬られてしまつた。

アンク「お前、何バカなことしてやがるー！」

アンクが映司に対しても感謝ビシリか激怒すると

映司「たとえ今は分かれていても一時はコンビを組んだお前を見捨てるのはないだろ。だってお前は俺にとつて…」

映司が最後まで言おうとする

アーニキ「一人仲良くなればりな！」

ブォンツ！！

アーニキの剣が一人に降り下ろされる。

まだ2話目なのにもう完結なの！？と思われたその時

？「そここの賊よ、待てい！」

何処からか声が聞こえてきた。

アーニキ「誰の声だ？」

きょひきょひ

賊達が辺りを探していると

？「その者に手を出すことは私が許さんぞ！」

ダダダッ！

誰かが映司の方に向かつて走ってきた。

映司「あれは女の子！？来ちゃ危ないよ！」

映司は向かつてくる人が女の子だとわかり警告するが

アーニキ「女が男に歯向かうなんていい度胸してんじゃねえか！」

チビ「アーチキ、美人だつたら捕まえて今晚のおかずにしましょ」つや

』

『デク「だな」』

賊達は相手が女の子でも手加減する気は全くない。

アーチキ「野郎共！いくぜ！」

チビ・デク『おおーっ！』

『ドドドオーッ！』

賊達は一斉に声を出しながら女の子の方に向かっていへ。

映司「ああ、もう見てられない！」

パチツ

さすがに女の子が男にやられのを見たくない映司は口を開じる。

ドカツー・ドカカツ！

映司「（ああ、俺達を助けに来たばかりに女の子が痛い口…）

』

聞こえてくる攻撃される音に映司は驚く。

だがちらりと口を少し開けてみてみると

賊達『助けてくれ〜！』

映司「えつ！？」

ボコボコにされていたのは賊達であった。

一方女子の方は

?「口ほどにもない奴らめ！とつととの場から立ち去れ！」

ドンッ！

三人の賊相手に全くの無傷だった。そして女子が手に持っていた偃月刀が地面に落ちて鳴り響くと

賊達『失礼しましたーっ！』

ビュンッ！

賊達はあつという間に走り去っていった。

映司「なんだつたのあいつら！？」

アンク「俺が知るか！」

二人が驚いている

スツ

女子が映司達に近づいてきた。

そして…

? 「お初にお目にかかります。天の御遣い様」

ペコリつ

女の子はこきなり映司とアンクに頭を下げた。

映司「えつー?」

アンク「つていうよりお前誰だ?」

アンクが聞くと

関羽「申し遅れました。我が名は姓は関、名は羽、字は雲長でござります」

読みづらいがつなげると関羽雲長である。

関羽が言うと

映司「関羽つてもしかしてあの三國志の!?」

関羽「失礼ですが三國志とは一体?」

映司は多少なりとも三國志の知識があった。それによると関羽は髭面の男として有名な人物。だが目の前にいる関羽はそれとは正反対のかわいい女の子である。

映司「（ああっ！たまたま名前が一緒なだけか）助けてくれてあり  
がとう俺は火野映司。こつちはアンク」

とつあえず映司はややこしいのドリ國志の関羽と同じ名前とこいつ  
とでまとめることにした。

関羽「はじめましては早速なのですが…」

関羽が最後まで言おうとする

? 「愛紗ーっ！」

ドーディオーッ…！

何処からか声が聞こえてきて遙か彼方から誰かが土煙を舞いあげて  
こちらに向かつてきていた。

しばらくすると

? 「愛紗ーっ！」

ドーンジー

赤髪の小さな女の子が関羽に抱き（タックル？）ついてきた。

関羽「お前は鈴々ー？」

飛ばされた関羽はぶつかってきた女の子をよく見て確かめる。

鈴々「一人で先にいくなんてずるいのだ！鈴々も天の御遣いに会いたいのだ！」

鈴々といつ女の子が関羽に言つと

関羽「何を言つているのだ！だいたいお前には姉上の護衛を頼んだであろうー。」

鈴々「桃香お姉ちゃんなら鈴々のすぐ隣に…」

くるり

鈴々といつ女の子はすぐ隣を見るが

ぽつん

当然の！」とく誰もいるはずがない。

関羽「鈴々！姉上を置いて勝手に来たな！」

鈴々「桃香お姉ちゃんが遅いのがいけないのだ！」

鈴々といつ女の子が言つと

映司「まあまあ二人とも、喧嘩はダメだよ！」

映司が止めに入る。

鈴々「にやつ？お兄ちゃんは誰なのだ？」

関羽「鈴々、この方が占いで言われていた天の御遣い様だ」

関羽が言つと

鈴々「にゃにゃーつ！？御遣いのお兄ちゃんよろしくなのだ！鈴々は張飛翼徳なのだ！」

映司「（今度は張飛！？変わった名前が多いな）よろしく俺は火野映司。んでこっちがアンク」

鈴々「アンコ？」

アンク「その呼び方で言つたな！ どつかの奴を思い出しまつぜー。」

「

アンクは一度トヽにてアンコと呼ばれたことがあるのだ。

みんなが話しあつていると

？「愛紗ちゃんーん！ 鈴々ちゃんーん！」

遙か彼方からまた誰かがやつて來た。

映司「今日はよく人に会つ日だな！？」

しばらくして声の主である女の子がやつて來た。

？「ハアハア…ひどいよ鈴々ちゃん、私を置いて先にいくなんて

声の主である桃色の髪の女の子が息を切らしながら言つと

鈴々「ごめんなのだ桃香お姉ちゃん」

すぐに謝る鈴々といふ女の子

桃香「といひで愛紗ちゃん！天の御遣いさんは見つかった？」

桃香といふ女の子が聞くと

関羽「姉上、あちらにおられるお方が天の御遣い様です」

スツ

関羽は映司とアンクを指差した。

桃香「はじめまして御遣いさん！私は劉備玄徳ですよりしくね」

ぎゅっ！

桃香といふ女の子が映司の手を握ると

映司「……いかがなれ！」

いきなりのことに驚く映司だった。

アンク「それよりお前ら！」がどこだか知ってるなら教えろ

アンクが乱暴口調で聞くと

関羽「この場所ですか？ここは幽州の五台山の麓ですがそれが何か

?」

関羽が言つと

映司「えつー、じじつて夢見町（オーブの舞台）じゃないの！？」

関羽「夢見町？何ですかそれは？」

映司「夢見町じゃないの！？あれ？そりゃ天の御遣いつてなんなの？」

桃香「今度は私が話すよ。天の御遣いつてのはね」

桃香という女の子の話によると管轄といつ占い師が

『流星が落ちた地に天の御遣いという乱世を静めるものあり』

桃香「つて言つてたけどさ」

桃香という女の子が言い終えると

アンク「フンッ！あてが外れたようだな。俺達はそんな乱世を救うなんて奴じゃないぞ！」

アンクが言つと

桃香「（ガーンッ！？）」

ものす』ショックを受ける桃香

映司「アンク！たとえそうでもはしきつと言つなよ！」

アンク「実際事実だる。メダル集めが目的の俺とパンツしかいらぬ  
いお前に何ができる？」

映司「それはそうだけど……！？」

ホントはもう一つできることがあるのだが今はそれができないのだ  
った。

映司が言つと

桃香「ああ、天の御遣いさんがいれば私の夢を手伝ってくれると思  
つたのに……」

映司「どうこういひこと？」

映司が聞くと

桃香「私の夢はね、戦いがなくなつてみんなが笑顔で過ぐせる世界  
を作りたいの！」

アンク「フンッ…そんな世界がつくれるわけがな……」

映司「余計なこと言つくなよ！いい夢だね応援するよ！」

桃香「ありがと！」

桃香が言つと

? 「その欲望を解放しろ」

バンッ！

映司「お前は！？」

いつの間にか謎のグリードが桃香の後ろに立っていた。

桃香「えつ！？誰なの！？」

？「欲望を解放しろ」

シユツ！

そして謎のグリードが桃香の額にセルメダルを投げると

ウインツ！

桃香の額からメダル挿入口が出現し、

カチャーンツ！

挿入口にセルメダルが入った。すると…

ズズズツ！

桃香の後ろから黒のヤミーが生まれだした。

ヤミー：人間の欲望から生まれた怪物。欲望を叶えて体内のセルメダルを増やす。グリードによつて様々な種類がいる。

そして桃香から生まれた黒のヤミーに

? 「お前の欲望はなんだ?」

謎のグリードが質問すると

黒ヤミー「俺の欲望は…世界を平和にすること。そのためには…」

ピキッ!

ヤミーがいつ度に体がひび割れていき

バキーンッ!

黒鬼ヤミー「人間の抹殺だ!」

黒の体から黒鬼ヤミーが生まれた。

アンク「ああ、いうタイプは珍しいな」

映司「解析してる場合かよー。ヤミー倒さないと」

映司はヤミーを倒すべく飛び出そうとするが

アンク「待て映司、オーズになれないお前に何ができる?」

映司「で…でも」

悩む映司。だがそんなとき

関羽「貴様！姉上から離れる！」

鈴々「お姉ちゃんから離れるのだー！」

ボンツ！！

関羽と鈴々が黒鬼ヤミーに攻撃を仕掛ける。だが…

ガシッ！！

黒鬼ヤミー「そんな攻撃効かない。平和のためお前らを殺す！」

関羽「くつー？」

鈴々「はなせなのだー！」

二人は武器を捕まれているためすぐ避けることができない。

映司「ああじうじょじうー？メダルさえあれば」

己の無力さにおどおどする映司

アンク「フンッ！お前がメダルホルダーを奪われるから…」

アンクが最後まで言おうとする

映司「ああーつー？思い出した！」

ガサガサツ！ バツ！

映司は懐を探つて取り出したのは

バーンッ！

一枚のパンツだった。

アンク「こんなときにパンツ出してる場合かー！」

アンクが突っ込むと

映司「違つて！いつかまたお前と組んだときのために…」

ガササツ！

パンツを探つて何かを探す映司。そして取り出したのは

チャリンッ！

映司「この2枚だけパンツの中に入れておいたんだ！」

パンツの中にはトライアッタメダルが入つていた。

アンク「お前、コアメダルをパンツに入れやがつて！」

アンクが怒りうるとすると

映司「そんなことよりアンク、また俺とコンビを組んでくれー！お前の力が必要なんだ。俺はお前にメダルをやるからお前は俺をサポートしてくれー！」

映司が言つと

アンク「仕方ない！」

シユツ！

アンクは自分の体の一部であるタカメダルを一枚取り出すと

アンク「絶対取られるなよ！」

シユツ！

メダルを映司に渡した。

パシッ！

うまくメダルを受け取った映司は

力チャ力チャンッ！

オーズの変身に必要なオーズドライバーに三枚のメダルをセットする。

そして 力チャツ！ キンキンキンッ！

オーズドライバーを右ななめ上にしてオースキャナーにメダルを当てて

映司「変身！」

映司が叫ぶと

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ショーションッ！

映司の周りをメダルが映司を守るように回り

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

（音が違うといつもミスは控えてください。）

ジャンッ！

映司の体は仮面ライダー オーズ・タトバコンボへと変身した。

## 2 「関羽と御遣いと『ソシヒ復活』（後書き）

### SCOUNTS MEDAL

現在、オーズの持つメダル

タカ	2
トラ	1
バッタ	1

### 黒ヤミーの特徴

どんな欲望にも係わらず破壊や殺人を目的とする。  
体内のセルメダルで屑ヤミーを生み出せる。

オーズの専用道具については後に説明しますが、今すぐ知りたい人はオーズで検索するかDVDを見てください。

### 3 「オーズとパンシとケーキ」（前書き）

前回の三つの出来事

- 一つ、賊に襲われそうになつた映司とアンクを関羽が救出
- 二つ、桃香の欲望から黒鬼ヤミーが出現
- 三つ、映司とアンクが再びコハビを組んでオーズに変身

### 3 「オーズとパンツとケーキ」

黒鬼ヤミーを倒すため再び共闘してコンビを組むことにした映司と  
アンク

そしてアンクからメダルを受け取った映司は

力チャカチャンッ！

メダルをオーズドライバーにセットして

力チャンッ！

ドライバーを右ななめ上に傾け

キンキンキンッ！

腰にあるオースキヤナーでメダルを交差させると

映司「変身！」

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

映司の周りをメダルが守るように回り、タカ・トラ・バッタのマーケが映司の前に集まると

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャキンッ！

映司は仮面ライダー オーズへと変身した。

オーズ「よし！いくぜ」

ダダッ！

オーズに変身した映司は黒鬼ヤミーに向かっていく

アンク「フンッ…せつせつやつつけてメダルを稼げ」

その頃

関羽「くつ…？」

鈴々「離すのだ！」

武器を黒鬼ヤミーに捕まれて動けない二人

どう考へても武器から手を離せば逃げられるのだが愛する武器を一人  
人は離すことはなかつた。

黒鬼ヤミー「世の中を平和にするには…人類が滅びてしまつ方がいい！」

むちやくぢやな理由である。

黒鬼ヤミー「お前達もくたばれ！」

スツ

黒鬼ヤミーが一人を倒そつと手を向ける。

だが、その時！

オーズ「そりやつ！」

バツ！

オーズが正面から向かってきて

ドカッ！！

黒鬼ヤミー「ぐほつ！？」

黒鬼ヤミーを蹴り出した。

ズザザーッ！

オーズの蹴りに飛ばされて黒鬼ヤミーはつかんでいた武器も離して  
しまう。

オーズ「二人とも大丈夫！？」

オーズが関羽と鈴々に近寄ると

関羽「大丈夫ですが…」

鈴々「あんたは誰なのだ？」

いきなり現れたオーズに驚く二人

オーズ「俺は火野映司だよ そしてこの姿は仮面ライダー オーズ!  
正義の味方さ！」

声で正体が映司だと確信した二人は

関羽「かめんらいだー？」

鈴々「何だかわからないけどカツ『いいのだ！』」

それぞれで反応するのであった。

その頃

? 「まさかまだコアメダルがあったとはな！？ 黒鬼ヤミーよ、そいつからコアメダルを奪い取れ！」

黒鬼ヤミー「わかった！」

バツ！

謎のグリードに命令されてオーズに襲いかかる黒鬼ヤミー

オーズ「おつといけない！」

バツ！

黒鬼ヤミーが向かってくるのに気付いたオーズはすぐさま構える。

黒鬼ヤミー「おらつ！」「

オーズ「ハツ！」

ガシッ！

取つ組み合いになる二人

黒鬼ヤミー「そりやーつ！」「

ブォンッ！！

オーズ「うわつ！？」「

だが力は黒鬼ヤミーの方が上のようではオーズは投げ飛ばされてしまう。

オーズ「ひつ！？」「

バンッ！

しかも飛ばされた先には大岩がありこのままではオーズはぶつかってしまう。

そんなとき！

ジャキンッ！！

オーズは両腕のトラームからトラクローを展開させると

オーズ「ハツ！」

ズバツ！ ドッカーンッ！

オーズは大石をトラクロードで切り裂いた。

黒鬼ヤミー「おのれー」つなれば…」

ゴガガッ…！

黒鬼ヤミーが力み出すと

ヌバアツ！

黒鬼ヤミーからカララのような怪物が生まれた。

アンク「あいつ…？ 肩ヤミーまで出せるのか…？」

肩ヤミー…オーズの世界における戦闘員的存在。欠けたセルメダルで作ることが可能。戦闘力は低く、今のアンクですらも倒せる。（本編ではウヴァアが使用）

黒鬼ヤミー「いくがよいー！」

黒鬼ヤミーが肩ヤミーに命令すると

肩ヤミー達『ギギギ…』

肩ヤミー達はオーズ目掛けて襲ってきた。

オーズ「くつ！？数が多すぎるとよ！？」

他のメダルがあれば何とかなるのだがあいにく今は三枚しかない。

オーズにピンチが迫ったその時！

ズバッ！

肩ヤミー「ギツ！？」

関羽「…」

肩ヤミーは関羽に斬られた。

関羽「オーズ殿、微力ながら助太刀いたします！」

鈴々「鈴々も手助けするのだ！」

オーズ「二人ともありがとうございました。じゃあ肩ヤミーの方はお願ひね！俺はあっちの…」

オーズは黒鬼ヤミーを見ると

オーズ「黒鬼ヤミーをやるからさー！」

ジャキンッ！

オーズは腰からオーズの世界の剣であるメダジャリバーを取り出した。

オーズ「うおーつ！」

ダダツ！

メダジャリバーを構えながら黒鬼ヤミーに突っ込むオーズ！

屑ヤミー「ギギギッ…」

しかしそれをみすみす見逃す屑ヤミー達ではない。屑ヤミー達はオーズの行く手を阻もうと動くが

関羽「お前達の相手は我々だ！」

鈴々「鈴々がやつづけてやるのだ！」

行く手を関羽と鈴々に阻まれた。

そしてオーズは

オーズ「せいやつーせいやつー！」

ズババツ！

メダジャリバーで黒鬼ヤミーを切りつけるが

黒鬼ヤミー「そんな攻撃はきかん！」

メダジャリバーはセルメダルをセットすることで威力を發揮する。今のメダジャリバーにはセルメダルがセットされていないのでたいした威力ではないのだ。

オーズ「アンク！セルメダル貸してくれ！」

オーズはアンクにセルメダルを出すよつ言つが

アンク「出せるかバカが！」

今のアンクは体を構成するセルメダルの数が少ないので出さなかつた。

アンク「遊んでないでさつさと決めちまえ！」

アンクが言つと

オーズ「別に遊んでいる訳じゃないのに！仕方がない！」

スッ

オーズは腰からオースキヤナーを取り出すと

キンキンキンッ！

オーズドライバーにスキャンさせ

ドライバー『スキニングチャージ！』

ドライバーから音が出た瞬間

バチバチッ！

オーズの脚がバッタ脚に変わり

オーズ「ハツ！」

ビヨンッ！

驚異的なジャンプ力で高く跳ぶと

パパパツ！

黒鬼ヤミーまで通る道に赤・黄・緑のリングが出現し、

スススッ！

オーズがリングの道を通ると

オーズ「せいやーつ！」

キイーンッ！

オーズが必殺のタトバキックを繰り出した。

（迫力がない！、全然違う！と思う人もいると思いますがそれは西森の文才不足が原因です）

黒鬼ヤミー「なつー？」

スッ

そしてオーズは

ドッカーンッ！！

タトバキックを黒鬼ヤミーにぶち当てた。

黒鬼ヤミー「ぐおーつ！？」

キーンンッ！ドッカーンッ！！

ぶつ飛ばされた黒鬼ヤミーは爆発した。

その衝撃で

ジャララーッ！

大量のセルメダルが辺りにばらまかれた。

アンク「セルメダルは俺がいただくぜ！」

シュシュシュッ！

空から落ちてくるセルメダルを拾いまくるアンク

?「ちつーまさかこの世界にオーズが現れるとは予定外だったな。  
オーズよ、また会おう！」

スッ

そして謎のグリードはどうかへと消えていった。

パツ！

桃香「あれっ！？私どうしてたの？」

先程まで動いていなかつた桃香が動き出した。

“どうやら謎のグリードのヤミーを出した人間は動きが止まるようだ。

シユンツ！

そしてオーズの変身が解けて映司に戻ると

関羽「やはり御遣い様でしたか！？」

鈴々「お兄ちゃんす、」いのだ！」

桃香「何があつたの！？」

驚かれる映司であった。

しばらくして

桃香「私から怪物が出たなんて！？」

平和を望む自分が破壊活動をする怪物が出たことにショックを受け  
る桃香だった。

映司「落ち込むことないよ！誰にだつて欲はあるんだからさ

アンク「まあ平和にしようなんて欲は珍しいがな」

欲望はヤミーを産み出すもの、～したいといつのも立派な欲なのだ。

桃香「でも私から怪物が出たなんてショックです」

しづしづ

泣き出す桃香に

スツ！

映司は一枚の布を渡す。

映司「泣かないでよ。俺に手伝えることがあるなら何だつてするよ。  
何だか訳がわからないけど天の御遣いにだつてなるからさ」

映司が言つと

アンク「おい待て映司！なに勝手に決めてやがる！俺達は奪われた  
メダルをあのグリードから奪い返すだけでいいんだ！天の御遣いな  
んかに構つていられるか！」

アンクが怒鳴ると

映司「アンク、俺達はこの世界について何も知らないんだぜ。ここ  
は協力しても彼女達にこの世界についてもらつた方がいいだろ

アンク「…確かにそうだな（この娘達にはまだまだ利用できるから  
な。せいぜいメダル集めに利用させてもらつとするか）」

アンクは何かを企んでいた。

そして

スツ

桃香は映司から布を受けとると

桃香「ありがとうございます御遺い様」

ふきふきつ

涙を布で拭くのだが

桃香「んっ？」

布がおかしいと感じた桃香が布を広げてみると

バサツ

桃香「これって／／／」

映司「あつー？」

映司はハンカチを渡したつもりだつたが

渡したものは想像がつく人もいると思うが…

ジャーンツー！

パンツだった。

映司「「めんなさー！」」

サッ！

映司は桃香からパンツを奪い取ると

ズンシ！ ディッシュ！

うつかり手が当たつてライドベンダーを倒してしまいました

パカッ！

その拍子にライドベンダーの荷物入れが開いてしまった。

そしてその中には

映司「えつー？」

ぐぢやぐぢやになつた鴻上会長のケーキが入つていたのだが

ケーキには

『HELLO 恋姫世界』

と書かれていた。

アンク「えつーあの野郎何か知つてやがつたのか」

その頃、鴻上フュンティーシヨンでは

鴻上「それではあとは頼むよ貂蝉くん

? 「んもう光正ちゃんつたら 貂蝉ちゃんつて呼んでくれなきゃ 嫌

よん

」

バッ！

その先が出る前にバッタカンンドロイドのスイッチを切る鴻上了った。

鴻上「さて新たなる外史の始まりを祝おうじゃないか！」

### 3 「オーズとパンジーとケーキ」（後書き）

ヤミーファイル

黒鬼ヤミー

桃香の『世の中を平和にする』という欲望（願い）から生まれたヤミー。力が強い

#### 4 「真名と頑固と存在感」

映司「そういえば前から気になっていたんだけじゃ」

関羽「どうされました御遣い様？」

映司「その御遣い様つてやめてくれない。あのさ、張飛ちゃんの名前を関羽さんは違う名前で呼んでいたけど何で？」

映司はわざわざから張飛を鈴々と呼ぶ関羽が気になっていた。

関羽「説明が遅れましたね。私が呼んだのは<sup>まな</sup>真名といつものです。真名とは神聖なる名でたとえ知っていても許可をもらわなければいけません。もし言えれば首を切られても文句を言えません」

それを聞いてぞくつ…?と驚く映司だった。

アンク「映司、首の皮一枚で繋がったな。もし言つてたら切られてたぞ！」

関羽「そんな!/?御遣い様を切つたりなぞしません!では話しておきましょう。私の真名は愛紗です」

鈴々「鈴々の真名は鈴々なのだ」

桃香「私の真名は桃香だよ」

みんなから真名を授けられた映司は

映司「ちょっと待つてよ！？そんな大事なものを俺に授けていいの！？もしかしたら君達を殺すかもしない…」

愛紗「それはありえません！人の目を見ればどのような人か一目でわかります。御遣い様は…」

映司「ダメだよ！御遣い様なんて呼ばないでってばー俺のことは普通に映司と火野って呼んでいいからさ」「火野

だが

愛紗「そりはいきません！」

桃香「御遣い様を名前で呼べないよ」

桃香達も中々認めてくれないので

映司「わかつた！君達が俺を名前で呼ばないのなら俺も君達を真名で呼ばない！」

愛紗「なつ！？」

普通それはおかしいのだ。何故なら真名を授かりながら真名を言わないなんて侮辱に等しいのだから

アンク「あきらめなお前ら、映司はこうなつたり何いっても聞かな  
いぜ」「

映司をよく知るアンクだから分かることだ。

愛紗「わかりました。そちらがその気ならぜひもう少しありますよ御遣い様」

愛紗もなかなか頑固だつたりする。

映司「それよりさ、俺達はどうに向かってるの？」

映司が桃香に聞くと

桃香「私の友達で太守をやつてこ公孫贊つていう人のところだよ。せつかくだから雇つてもらおうと思つてね。でもまだ先は長いから大変だな」

映司「へえ……」

映司が運んでいるライドベンダーを使えばもっと早く着くのだが、あいにく一台しかなくバイクの五人（映司、アンク、愛紗、鈴々、桃香）乗りはいくらなんでも危険である。

そして一行は公孫贊の城に向かつ。

一日目の夜

テントや寝袋なんて持つてこはずがなく当然の”とく野宿をしていると

映司「そういえば鴻上さんがくれたトランクの中って何だろ？？」

映司はこの世界に来る前に鴻上から渡されたトランクの中身が気になっていた。

アンク「どうせあいつの」とだからフォークとかくだらないもんだ  
ろ」

映司「そつかもしれないけど中身が気になるじゃん」

パカッ！

そして映司がトランクを開けると

映司「これって！？」

アンク「あんつ？」

ジャーンッ！

トランクの中身はカンドロイドの詰め合わせだった。

映司「よかつたなアンク、これでメダル使わずにカンドロイドが使えるぞ！」

アンク「まあ少しは役に立ちそうだな」

今までにはライドベンダーを自販機に戻してからセルメダルを入れていたためどうしてもセルメダルを消費するのだった。（おまけに再びバイクに戻すときもセルメダルが必要）

映司が喜んでいると

ガバッ！

鈴々「お兄ちやせわいひあかひいねーだー！」

寝ていた鈴々が起きてきて文句を叫んだ。

映司「あつー、ゴメンね張飛ちゃん！」

鈴々「鈴々はお兄ちやせわいひあかひいねーだー！」

だ「

鈴々が叫ぶと

映司「確かにそうだね鈴々ちゃん！」

鈴々「いやまつ！」

アンク「ガキだな！」

そして一行が旅を続けてようやく

バーンシー！

桃香「とうとう公孫贊さんの城が見えてきたよー？」

一行は公孫贊の城にたどり着いた。

城内

ダダッ！

桃香が玉座の間にへと続く道を走り抜ける。

バタンッ！

そして桃香は扉を開けると

桃香「白蓮ちゃんいる？」

だが玉座の間にいたのは

？「いきなり誰ですかな？」

白い服を着た水色の髪の女性がいただけであった。

桃香「あれっ？白蓮ちゃんビニ～！」

あよみあよみ

桃香は辺りを探すが見当たらない

ダダッ！

愛紗「桃香様びいられましたか？」

そこには愛紗達も駆け寄ってきた。

桃香「玉座の間にいると思つていた公孫贊さんがいないんだよ～！」

？」

鈴々「透明人間なのか！？」

映司「そんなわけないでしょ！-とりあえず探してみよう」

サササツ！

映司達も加わって探すがアンクは一人サボっていた。

映司「おいアンク！お前もサボってないで公孫贊さん探せよ！」

映司が言うと

アンク「フンッ！公何とかかどつか知らないが扉の裏で誰かがつぶれてるぜ」

映司達『えつ！？』

そして映司達が恐る恐る扉の裏側をみてみると

ペラ～ん

そこには潰された誰かがいた。

桃香「白蓮ちゃん！？」

映司「えつ！？つてことはこの人が公孫贊さん！？」

この人こそ桃香が会いたがっていた公孫贊（真名を白蓮）である。

何故彼女がこうなっているかといふと

公孫贊が出ようとした時、いきなり桃香が扉を開いて現れたため扉に潰されたのだった。

白蓮「いたた」

そして潰されて氣絶していた公孫贊が目を覚ますと

桃香「白蓮ちゃん大丈夫！？」

白蓮「お前は桃香、そうだ！私が外にいこうとしたら急に扉が開いて裏側に潰され…って趙雲！お前は知つていただろうが！」

白蓮は白い服を着た水色の髪の女性を指差して注意すると

?「いや～、白佳（公孫贊の字）殿は影が薄いから気が付かせんでしたよ」「

女性はしごりを切らうとするが

映司「それにしてもアンク、よく気づいたな

アンク「当たり前だろあの白い服を着た奴が扉をじっと見てたからな」

白蓮「お前な～！」

桃香「まあまあ白蓮ちゃん落ち着いて…？それよりお願ひがあるんだけどじょ」

白蓮「お願い？」

桃香は白蓮に話すと

白蓮「なるほどやうござつ」ならじぱりく我が軍にてやるよ」

桃香「ありがと白蓮ちゃん」

白蓮「なあに、私とお前は同じ教室で学びあつた仲ではないか」

白蓮が言つと

桃香「えつ？ 私と白蓮ちゃんつて同じ組だつたつけ？ 同じ私塾だつたのは何となく覚えてるけどさ」

桃香にすり替わられていた白蓮だった。

白蓮「まあいい、それより桃香がつれているのは誰だ？」

白蓮が映司達を指差すと

愛紗「申し遅れました。我が名は闘羽」

鈴々「鈴々は張飛なのだ」

映司「俺は火野映司。んでこいつちがアンク」

アンク「フンッ！」

映司達の会話を紹介が終わると

白蓮「私はこの城の主、公孫贊だ。そしてこいつが密将の……」

趙雲「お初にお目にかかる。我が名は趙雲と申す以後お見知りおきを」

「

白蓮達も血口紹介をした。そして

桃香「折角だから城の中を見てもいい？」

白蓮「いいだろ？ 案内してやるからついてきな」

白蓮が桃香に城の案内をすることになつたのだが

30分後

白蓮「桃香の奴はどうしたんだ！」

存在を忘れてしまい白蓮は一人になつていた。

白蓮「それにしてくそつ…どいつもこいつも私は影が薄いとバカにしやがって！ ホントは私だつて目立ちたいんだ！」

さつきまで影が薄いとバカにされていた白蓮が怒りをはらすべく誰もいない廊下で叫ぶと

？「その欲望、叶えてやる」

バンッ！

いつの間にか謎のグリードが白蓮の後ろに立っていた。

白蓮「お前……」から入った…」「

シユツ！ チヤリング！

白蓮が言いつぶやく終わる前に謎のグリードは白蓮にセルメダルを入れると

ピキピキンッ！

白蓮の体は石のように動かなくなり

ズズウツ！

白蓮の体からヤミーが生まれた。

? 「お前の欲望はなんだ？」

謎のグリードがヤミーに聞くと

ヤミー「俺の欲望は……目立つこと。そのためには

バキーンッ！

「……」  
ヤミーは真の姿に変身した。

そして

ガシツ！

石のよづで動けない白蓮の顔をのづひやひマーがつかむと

「よづで」

のつぱりひやひマーの顔が変化していく

ジヤーンシ――!

白蓮「じやあ……こいつへくるか――」

？「言葉遣こに元氣を付けろ

## 5 「偽者とい推理とカマキリ」（前書き）

前回の三つの出来事

一つ、愛紗は映司に真名を授けるが映司はそれを拒否

二つ、公孫贊こと白蓮の存在が薄いことが判明

三つ、白蓮の欲望からヤミーが生まれて白蓮に変化する。

## 5 「偽者と推理とカマキリ」

桃香と白蓮が出ていった後

映司「劉備ちゃんと公孫賛さん遅いな」「

アンク「フンッ！あのとぼけた奴（桃香）のことだ。道に迷ったのかもな」「

愛紗「まあ公孫賛殿もいるからそれはないと思つが少しばかり心配だな」「

姉を心配する愛紗だった。

趙雲「それはともかく、やつこへばお主達は「れを「存じか？」「

スツ

趙雲は握っていた手を広げると

チヤリンッ！

その手にはカマキリ・コアメダルがあった。

それを見た途端

ガツ！

アンク「おいお前、このメダルをどこで手にいたれた？」「

アンクが趙雲に聞くと

趙雲「賊退治をした帰りに拾つたものだ。しかし何だあれは？」

趙雲は「アメダルをじつと見つめる。

趙雲「カマキリ 蟻アシナガバチが描かれているようだが？」

アンク「それよりも早くそれをよこせ」

「

スツ

アンクが趙雲からメダルを奪おうとする

サツ！

趙雲がそれを避けていった。

趙雲「この硬貨について何か知つているならば話してくだされ、でな」と渡しませぬぞ

趙雲が言うと

映司「わかつた話すよ。でも驚かずに聞いてくれ」

メダルを返してもう一つため映司は事情を話すこととした。

しづらいくして

趙雲「ほう、やみーとかいう化け物とおーすとかいう戦士がいるのですか？」

いきなりそんなこと言われても信じてもらえないのが普通である。

映司「そういうわけだからさメダル渡してくれない？」

映司が再び頼むと

趙雲「ダメー…と言いたいところですが」の硬貨は私が持つていても無駄なようですし差し上げましょう」「

映司「ありがと」

スツ

映司が趙雲からメダルを受け取るのになると

バタンッ！

いきなり扉が開いて

桃香「大変だよー? 白蓮ちゃんがいなくなっちゃった! ?」

桃香が入ってきた。

とこうよつもいなくなつたわけではなく桃香が存在を忘れただけである。

そして桃香が入った後

バタンツ！

再び扉が開いて

白蓮「誰がいなくなつたつて！」

いきなり白蓮が怒鳴りながら入つてきた。そして白蓮は趙雲に近づくと

白蓮「趙雲、このようなものを拾つておきながら私は報告せぬとは  
！」

サツ！

白蓮は趙雲からメダルを奪つ。

映司「あつー？それは…」

映司が言おうとする

白蓮「あんつーこの城の主は私だぞ！それにお前達は私の家来にな  
つたはずだろ家来が城主に逆らつていいくのか！」

ドンツ！

白蓮の迫力に

映司「すいませんでした」

大人しくなる映司だった。

アンク「バカ！何謝つてやがる！せつとメダルを取り返せ！」

アンクが映司に文句を言つと

白蓮「貴様は私に逆らひといつのか？だつたらこんなコアメダルなんて破壊するぞ！」

白蓮が言つと

アンク「！？」

アンクが何かに気づいた。

スッ

そしてアンクは映司に近寄ると

アンク「映司、こいつは公何とかの偽者だ！」

映司「うそつ！？つていうか何でわかるんだよ！？」

映司が聞くと

アンク「俺がいつ公何とかにコアメダルって言つたよ？」

映司「！？」

アンクの一言で映司も気づいた。何故なら映司達はここに来てコア

メダルの「ことなんて一言も言つていない。それを知つていろとこいつ」とは…

アンク「嘘だと思ひながらコラカンドロイドを起動してみな」

映司「よしつ」

パカッ！

映司はトランクから『コラカンドロイドを取り出してスイッチを入れる。『コラカンドロイドにはヤミーが近くにいると

『コラカンドロイド』ウホウホッ..』

とこいつよつて知らせる機能がついているのだ。

映司「やつぱり！？みんな、早く公爵とかから離れて…そいつはヤミーだ！？」

映司が叫ぶと

愛紗「なつー？」

桃香「白蓮ちゃんが！？」

ササツ！

みんなは白蓮から離れだしていく

すると

白蓮「ちつ！もうバレちまうとはな、だがあの方が欲しがっていたコアメダルが手に入つたのだからよしとしよう」

ズブブツ！

## 白蓮の姿が変化していき

「……………」

バーニッ!

ペリヤリツアリに変化していく。

趙雲  
— 白雀殿が化け物に！？

愛紗 - あれがヤミーというもんだ

桃香 あんなのが私から出たたなんでせよ!! シミッケだよ!!

みんながそれそれ反応していくと

「」の意味は「」と「」の組合せです。

ズブブツ！

のペリペリヤハヤハヤは体から離ヤハヤを出現させて襲つてくれる。

映司「アンク、メダル！」

アンク「フンッ！奴からメダルを取り返せ！」

シユツ！ パシツ！

アンクは映司にメダルを投げて映司がそれを受け取り

力チャツ！

メダルをオーズドライバーにセットして

キンキンキンッ！

オーススキヤナーを交差させると

映司「変身！」

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャンッ！

映司は仮面ライダー オーズに変身した。

趙雲「なんと！？あのがオーズとは！？」

愛紗「その通りだ。そして我々の相手はあいつらだ！」

ビシッ！

愛紗は青龍偃月刀で脣ヤミー達を振り

趙雲「なるほど。わよひびこー、我が力を見せてやひー。」

バツ！

趙雲は脣ヤミーに突っ込んでいった。

愛紗「桃香様はやー」でお待いへだせこー・アンク殿は桃香様をお守つ  
くだせー。」

鈴々「アンコのお兄けやん頼むのだ！」

ダダッ！

そして桃香をアンクに託して愛紗と鈴々も向かつていぐ。

アンク「ふざけるな！何で俺がこいつをやうなきやいけないんだ！」

「

桃香「よろしくねアンクちゃん

アンク「ちゃん付けするなー。」

その頃、オーズは

オーズ「ハツ！」

ドカツ！

のつペらぼつヤミーに攻撃を仕掛けしていくが

サッ！

のつペらぼつヤミー「そんなものが効くものか！」

オーズ「くつ！？見かけより素早い！？」

意外と器用に動くのつペらぼつヤミーにオーズは苦戦していた。

のつペらぼつヤミー「それではこっちからこくゼ！」

ガシッ！

のつペらぼつヤミーはオーズの頭をつかむと

ズブブツ！ パツ

オーズ「じゃーん！」

オーズに変身した。

オーズ「えつ！？俺がもう一人！？」

オーズ「姿だけではないぞ力や声まで一緒になのだ！」

ドカッ！

オーズ「ぐはつ！？」

ドサッ！

オーブにドロップキックを食らってしまいオーブがぶつ飛ぶ！（？）

鈴々「お兄ちゃんが一人になつてているのだ！？」

趙雲「どちらが本物だ？」

趙雲が聞くと

オーブA「俺だよ！」

オーブB「俺だつてば！」

「」の小説を見ている人もどちらが本物か考えてください。

愛紗「（どちらかが偽者なのは分かつてているのだがどっちだ？それさえわかれれば斬りつけられるのに…そうだ！）」

愛紗が何かを閃くと

愛紗「二人とも、こちらを見なされ！」

オーブA・B『えつ？』

二人のオーブは愛紗の方を見ると

愛紗「映司殿」

と愛紗が聞いた瞬間

オーナー「何だよ？」

オーナーB「やつと呼んでくれたね！」

この瞬間

愛紗「お主が偽者だ！」

ズバッ！

オーナーA「ぐはつー？」

愛紗はオーナーAを斬ると

オーナーA「何故俺が偽者だとわかつたー？」

オーナーAが聞くと

愛紗「私が映司殿と呼んだのは実はさつきが初めてだったのだ。それには聞き慣れていた貴様が偽者というわけさ」

見事な頭脳プレーである。

オーナーA「くそつー？」

ボンッ！

愛紗に斬られた衝撃でのっぺらぼうヤニーが元の姿に戻った瞬間

オーズ「今だ！」

パシッ！

のっぺらぼうや//「あつ！？」

オーズはのっぺらぼうや//からカマキリメダルを奪い取った。

オーズ「油断大敵つてやつだね それじゃあいくぜ！」

力チャツ！

オーズはトラメダルをカマキリメダルに入れ換えて

キンキンキンッ！

オーススキナーを交差させると

ドライバー『タカ・カマキリ・バッタ』

ジャンッ！

オーズの腕がトラアームからカマキリアームへと変化してタカキリバにコンボチェンジした。

コンボチェンジ…オーズが使う戦法。メダルを入れ換えることで様々な戦闘が可能になる。（その数は100を越える）

オーズ「ハツ！ハツ！ハツ！」

ジャキンッ！

ズバズババッ！

のっぺりゅうひや//「ぐえつ！？」

愛紗に斬られて動きの鈍くなつたのっぺりゅうひや//にオーズは力マキリソードを立てて斬りつけしていく。

スッ！ キンキンキンッ！

そしてオーズは止めを指すべくオーズドライバーをオースキヤナーで交差させると

ドライバー『スキヤニングチャージ』

バチバチッ！

オーズのカマキリアームに力が溜まつていき

オーズ「ハーッ！せいやーつ！」

ズバッ！

渾身の一撃でのっぺりゅうひや//を切り裂いた。

のっぺりゅうひや//「へつそーー？」

ドッカーンッ！

切り裂かれて爆死するの。ペリカンツヤミー

そしてのっぺりぱりぱりヤミーが倒されて少しすると

バタンツ！

白蓮「何が起きたんだ！？」

ヤミーが倒されたことにより元に戻った白蓮がいきなり入ってきた。

桃香「白蓮ちゃん！？本物かな？」

白蓮「は？」

何が起きていたのかは白蓮にはわからないが

白蓮「何だよこの有り様はーっ！？」

ボロッ

ヤミーとの戦いで玉座の間がボロボロになっていたのには驚いたといつ。

愛紗「公孫贊殿も大変だな」

愛紗が公孫贊を心配していると

ザツ！

そこに変身を解いた映司が近づいてきて

映司「さつきはありがとうね愛紗さん」

愛紗「えつー？」

映司「前に言つたでしょ。君が俺を映司って呼んだら俺も君を愛紗  
つて呼ぶつて」

確かにそのような約束をしていた。

愛紗「あれば！？偽者を見つけるための策でして！？」

映司「それでもいいの、よろしくね愛紗！」

二人が仲良くしている頃、アンクは

アンク「（この世界に）コアメダルがあるということはあの謎のグリ  
ードが落としたといふことか？だつたら一枚だけとは考えられない  
な）」

このアンクの考えは当たつていた。

同時刻

陳留

? 「あら？ この硬貨は何かしら？」

建業

? 「冥琳（めいりん）、お金拾ひちゃつた？」

洛陽

? 「この硬貨は何かな？詠ちゃんなら知ってるかな？」

各地に何故かばらまかれていたメダルが拾われるのであった。

## 5 「偽者と推理とカマキリ」（後書き）

### COUNTS MEDAL

現在、オーズの持つメダル

タカ	2
トラ	1
バッタ	1
カマキリ	1

## 6 「バイクと孔明とすつかわり」

公孫贊」と白蓮の元で働く映司と桃香達

そして働きはじめてから一週間が経つたある日のこと

桃香「黄巾党？」

白蓮からりの言葉に？を浮かべる桃香

白蓮「そなんだ。最近そういうような賊が暴れているらしい。我が軍でも被害者が続出していてな」

白蓮の話によると

黄巾党とこつ賊は頭に黄色のバンダナを巻いた集団で兵達はみんな怪しげな言葉を言っているらしい

白蓮「そんでもって朝廷から黄巾党を殲滅しろって命令が出されたんだ。すまないが私は忙しいので桃香達が黄巾党を何とかしてくれないか？」

白蓮が聞くと

桃香「わかったよ任せといて！それじゃあ兵達を少し借りるけどいい？」

桃香が聞くと

白蓮「兵達だと…？」

いきなり驚く白蓮

何故かと云ふと

映司「ちよつと桃香、」の前に」と忘れたの？」

実はこの前、賊を壊滅させるために桃香が白蓮から兵を借りたのだが…、なんと！？白蓮の兵士達が誰一人として残らず桃香についてしまったのだ。

おまけに桃香の性格（来るのは拒まず）のせいで戻すこともできなくなり、白蓮の城は桃香達が帰るまで兵が一人もいない日々が続いたのだった。

その事が白蓮にはトラウマになっていた。

それを思い出した桃香は

桃香「白蓮ちゃん、兵はいらないよ！うちには愛紗ちゃんに鈴々ちゃん、映司さんにアンクちゃんがいるからさー！」

といふことでこの場は丸く収まったのだった。

そして現在、廐の前

愛紗「桃香様も無茶しそぎです。五人でじつやつて黄巾党を殲滅するというのですか？」

愛紗が桃香に説教すると

桃香「愛紗ちゃんめんね、白蓮ちゃんの顔を見たら兵がほじつて言えなくてや」

もし言つていたら白蓮は再び白くなつていただろう

鈴々「それにしてもお兄ちゃんはまだなのかなのだ？」

映司は少し準備があるとこつこつで愛紗達を先に厩に向かわせていた。

そしてじょりくすると

ボンボンッ！

どこからかバイクの音が聞こえてきたかと思つと

ボンボンッ！！

バツ！

桃香達『うわっ！？』

いきなりバイクが桃香達の後ろから現れた。

愛紗「鉄の獣か！？」

スッ！

愛紗はバイクに青龍偃月刀を向けると

? 「『めん』『めん』」

バイクに乗っている人が話しかけてきた。

パカッ！

そしてバイクに乗っている人がメットを外すと

映司「驚かせて『めんね』」

バーンッ！

そこには映司がいた。

愛紗「映司殿！？」

鈴々「お兄ちゃん、この鉄の獣は何なのだ？」

映司「これはバイクといつ乗り物だよ。俺は馬に乗ったことが少ないからね」

映司が言つと

アンク「映司、さつさといくぞ」

映司の後ろに座っていたアンクが映司を急かす。

映司「とりあえず行こう！」

そしてようやく映司達は黄巾党の殲滅に向かつてござりまするのだが……

鈴々「お兄ちゃんだけずるいのだ！ 鈴々もばいくに乗りたいのだ！」

「

桃香「あつ、鈴々ちゃんずるーい！ 私も乗りたーい！」

映司「えつー？ ちょっと待つてよー！？」

珍しいものを見ると反応する一人に駄々をこねられてしまい出発が少し遅れてしまったという

しばりくじ

桃香「わーい

」

映司「あんまり暴れちゃ危ないよ

」

じゃんけんで勝った桃香が映司の後ろに乗っていた。

鈴々「桃香お姉ちゃんずるーいのだ！」

「

愛紗「鈴々はまた今度乗せてもうえよかねつ

」

アンク「フンッ！ ガキかよ

」

ちなみにアンクは愛紗の後ろに乗っていた。

しづらいくじて

桃香「この先が黄巾党の本部なんだね！？」

桃香達は黄巾党の本部近くの荒野に来ていた。

アンク「映司、黄巾党なんてすぐ倒しちまえ、なんだつらトライドベンダーで暴れるか？」

アンクの手にはライドベンダーをパワーアップせせるトライドロイドが握られていた。

トライドロイドをライドベンダーにセシマスドライドベンダーはトライドベンダーにパワーアップするのだが

映司「ダメだつてートライドベンダーはリリーフーターでしか操れないだろ」

映司の言つ通りトライドベンダーは勝手に暴走するためリリーフーター一ゴンボでしか制御できないのだつた。

愛紗「映司殿、さつきから言つておいた『ひとつ』といふ何ですか？」

愛紗が映司に聞こつとすると

アンク「簡単に言つとオーズの強化形態だ。他にもいくつかあるが使用したら体に負担がかかるがな」

映司の代わりにアンクが言つ。

鈴々「おーすつてす！」のだ！鈴々も早く“うとうたー”を見てみたいのだ」

喜ぶ鈴々に対して

愛紗「バカ者！」

ビビンツ！！

愛紗が怒声を発する。

愛紗「アンク殿も言つていただろつ”」んぼ”は体に負担がかかると一面白半分で楽しみにするんじゃない！」

ビシッ！

愛紗が鈴々に言つと

鈴々「そうだったのだ、『めんなのにお兄ちゃん』

映司に謝る鈴々

映司「仕方ないよ俺も体は慣れた方だから少しねら平氣だしね。それよりも黄巾党を何とかしないとね」

映司が場を收める言ひ方をした直後

ピクンツ！

映司が何かを感じた。

映司「アンク、メダルを渡してくれ！」

アンク「はあ？ 何言つてやがる？」

映司のいきなりの言葉にアンクが？ を浮かべると

映司「早くしろつて！」

映司が急かしてきた。

アンク「何する気だよ？」

シユツ！

仕方なくアンクは映司にメダルを渡すと

カチャカチャンッ！

キンキンキンッ！

映司「変身！」

メダルをオーズドライバーにセットした映司は

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャキンツ！

仮面ライダー オーズへと変身した。

オーズ「ハツ！」

ダダッ！

オーズに変身した映司はいきなりどこかに走り出していった。

アンク「どこ行く気だよ映司！？」

愛紗「我々も後を追いましょう。アンク殿はばいくをお願いします

」

アンク「ちつ！」

そしてみんなもオーズが走つていった方角を追つていった。

オーズが向かつていった先には

?「お婆さんしつかりしてくだしゃい」

?「この先にいけばきっと大丈夫でしゅからー？」

二人の小さな女の子が黄巾党の大軍に追われているお婆さんを助けていた。

お婆さん「ありがとう、でも私はもういいから二人だけでも逃げてちょうだいな」

諦めムードのお婆さんに

? 「何をいいてるのですかお婆さん！」

? 「生きていればいつかは神様が助けてくれましゅよ！」

二人が言つと

ザッ

いつの間にか周りを黄巾党に囲まれていた。

黄巾兵「神様が助けてくれるだと？ 笑わせるなよ！」

黄巾兵「お前らはここで死ぬ運命なのさー！」

ボンツー！

黄巾兵の一人が剣を降り下ろす！

? 「はわわ～！？」

? 「あわわ～！？」

二人はお婆さんだけでも助けられるよう盾にならうとするがそのくらいで防げるわけがない！

もうおしまいだと二人が思つたその時…

ガキンッ！！

剣が急に止まつた。何故ならば…

黄巾兵「誰だよお前！？」

バンッ！

オーズがメダジヤリバーで黄巾兵の剣を押さえていたからだ。

いきなりのオーズの出現に黄巾兵が驚くと

オーズ「こんな小さな女の子を殺すなんて許さない！」

ジャキンッ！ ボキッ！

オーズはトランクローを展開させて黄巾党の剣を折つた。

黄巾兵達『バ…化け物だ…！？』

ダダーン！

オーズの力にびびった黄巾兵達が逃げていくと

ガチャンッ！ シュンッ！

映司はオーズの変身を解いて

映司「大丈夫でしたか！？」

お婆さんと二人の女の子の方に向かっていった。

? 「はわわ！？人間が固い剣をへし折った！？」

? 「あわわ！？怪人がいきなり人間に変わった！？」

いきなりのオーブにびびる二人

映司「驚かしてごめんね！？これで汗を拭いて」

スツ

映司は懐からハンカチを取り出して一人に渡す。

? 「ありがとうございました」

ふきふきつ

一人の女の子が汗を拭いていると

? 「ごわごわして変わった布でしゅね？」

ハンカチに不信を感じて広げてみると

バーンッ！

? 「はわわ～！？」

予想がついている人もいると思うがそれはハンカチではなくパンツ  
だった。

映司「う…うめんー?」

バツ!

映司は女の子からパンツを奪い取ると  
映司「そういうえばまだ名前聞いてなかつたよね。俺は火野映司、君  
達は?」

名前を聞くことにし、二人の女の子は

孔明「わ…私は諸葛亮孔明でしゅ」

鳳統「ほ…鳳統士元でしゅ」

と答えた。

その頃、黄巾党アジトでは

黄巾兵「お頭、お頭が言つていた怪人が現れましたぜ!?」

一人の黄巾兵が慌てながらお頭に報告する。

張曼成「どうか。よしやく出やがったか」

黄巾党アジトのお頭・張曼成

張曼成「お前達は本部のお頭にこの事を伝えろ!俺がその怪物を倒  
してやるぜ」

黄巾兵「わかりやした！」

ダッ！

そして黄巾兵は駆け出していく。

張曼成「フフフシ… やはり来たかオーズよ！」

ズブブツ… バンッ！

張曼成の姿が謎のグリードへと変身した。

? 「この地が貴様の墓場となるのだ！」

ちなみに本物の張曼成は石のようじに固まっていた。

## 7 「軍艦と鎌鼬と法則」（前書き）

前回の三つの出来事

一つ、白蓮に頼まれて映司達は黄巾党に接近

二つ、向かった先で映司は一人の少女、孔明と鳳統を助ける。

三つ、黄巾党の幹部・張曼成はすでに謎のグリードにすり変わっていた。

## 7 「軍艦と鎌鼬と法則」

? 「さて、オーブが現れたとなるとそろそろ仕掛けたヤミーが動き出す頃か」

張曼成に成り済ましていた謎のグリードが黄巾党を操つて暗躍している頃

その頃、映司達は

映司「えつー? 悪いけどもう一度名前をいつてくれない! ?」

映司が助けた女の子に再び名前を聞いてみると

孔明「はわわ、諸葛亮孔明でしゅ」

鳳統「あわわ、鳳統士元でしゅ」

再び女の子の名前を聞いた瞬間

映司「(確かに孔明と鳳統って有名な軍師じゃないか!?)」

Jの小説の映司は多少三国志の知識があります。

映司が驚いていると

ダダツ!

愛紗「映司殿、どうされました! ?」

遅れて愛紗達がやつて來た。

桃香「あれっ？その子達は誰なの？」

桃香が孔明と鳳統を見て聞くと

孔明・鳳統「は・あ）わわ～！？」

二人はいきなり桃香を見て驚き出した。

桃香「何なの！？私の顔に何かついてるの！？」

鈴々「目と鼻と口がついてるのだ」

愛紗「鈴々、古いボケはやめろ」

一応突つ込む愛紗だった。

孔明「もしかしてあなたは劉備さんでしゅか！？」

桃香「そうだけど、どうして私の名前を知ってるの？」

桃香が聞くと

鳳統「この辺りじゃ有名でしゅよ！近くにいた賊を多数の兵を引き連れる優しい人だつて！」

桃香は自分が知らない間に有名になっていた。

愛紗「桃香様が有名になるとはな」

鈴々「お姉ちゃんすうじいのだ！」

とは言つてもまだほんの一部である。

映司「それより君達、この辺りは黄巾党の本部に近いから逃げた方がいいよ」

映司が話を戻すと

孔明「逃げるなんてできません！」

鳳統「私達は困つてている人を助けてに来たんです！」

きつぱりといふ人に

アンク「ハンッ！バカなやつらだ。他人を助けて自分が死んじゃ元も子もないだろ」

映司「おいアンク！」

二人をバカにするアンク

孔明「確かにそこの金髪頭さんの言う通り死んでしまったなら何もありませんが、あの時ああすればよかつたなんて後悔はしたくありません！人を助けて自分が死ぬならそれが本望でしゅ…だから劉備様に仕官しにきたのでしゅ！」

鳳統「私も同じ気持ちでしゅ！」

孔明・鳳統『だから劉備様…私達を軍に加えてください！』

』

バンッ！

はつきりという二人

アンク「フンッ！くだらんな」

映司「こいつのことは気にしなくていいからさ、わかつたよ二人がそこまで言つのなら仲間は多い方がいいし、俺達の仲間になりなよ！いいでしょ桃香」

桃香「うんっ！それがいいよ」

二人は賛成するが

愛紗「桃香様も映司殿もお待ちください…このように幼きものを加えるなんて何を考えているのですか！」

映司「鈴々だつて小さいじゃん…」

愛紗「鈴々には武力がありますからいいのです！見たところの二人には武力の欠片はありません！」

はつきりという愛紗

アンク「確かに愛紗の言つ通りだな、そんなチビ共にできる」といえば逃げ回るくらいだな」

孔明「そんなことありますん！」

鳳統「そりでしゅー私達には……」

鳳統が最後まで言おうとする

ビューッ！

いきなり風が吹いてきた。

その瞬間

ギュインッ！（小音）

映司「！？」

風の音がわずかに違うと感じ取った映司は

映司「孔明ちゃん、鳳統ちゃん危ない！？」

ドンッ！！

孔明・鳳統『ひやうつー！？』

いきなり孔明と鳳統の二人を弾き飛ばすと

ズバッ！！ ブシュッ！！

映司「ぐわつー！？」

いきなり映司の背中が斬られた。

愛紗「映司殿！？」

鈴々「何が起きたのだ！？」

ダダッ！

みんなは慌てて映司に駆け寄る。

そしてその時

ギランツ！

一瞬刃物のようなものが桃香に迫つてきた。

アンク「そこかっ！」

シユツ！

それに気づいたアンクはクジャクカンドロイドを投げつける。

カシャンツー ギュイーンツー！

クジャクカンドロイドはアーマルモードに変形して刃物のようなものに迫る。

アーマルモードになつたクジャクカンドロイドには回転する刃がついているのだ。

ガキンツ！！

そしてアンクの投げたクジヤクカンドロイドが何かにぶつかると  
ぼや～つ

それまで何もいなかつた場所に何かが現れ出した。

するとそこには

鎌鼬ヤミー「シャウーッ！！」

カマイタチ  
鎌鼬ヤミーが現れた。

孔明「はわわ～！？あの化け物はなんでしゅか！？」

愛紗「説明してくる場合ぢゃない！」

鈴々「とりあえず今は傷付いたお兄ちゃんを守るのだ！」

スツ～！

鎌鼬ヤミーに對して構える愛紗と鈴々だが

鎌鼬ヤミー「シャツ！」

シユンツ！

愛紗・鈴々『！？』

鎌鼬ヤミーは一瞬で消えると

パツ！

鎌鼬ヤミー「シャウーッ！」

いつの間にか愛紗達の後ろに現れた。

鈴々「消えるなんてするこのだ！」

愛紗「違うぞ鈴々、あいつは消えたのではない我々の田で追い付けられない早さで走っているのだ！？」

愛紗の言つ通り鎌鼬ヤミーは消えたのではなくもののすゝじで早さで走っていたのだ。

それも武人である愛紗達の田にも止まらぬ早さで

愛紗達を通りすぎた鎌鼬ヤミーは

鎌鼬ヤミー「オーズ、殺す！」

ジャキンッ！

傷付いた映司めがけて迫っていく

アンク「ちつ！映司、変身しろ！」

映司「そうか！？」

映司はすでに前回アンクからメダルを受け取っていた。

力チャカチャンッ！

キンキンキンッ！

メダルをセットした映司はオースキヤナーをオーズドライバーに交差させると

ドライバー『タカ・トラ・バツタ』

バツ！　ドカツ！

鎌鼬ヤミー「ギャツ！？」

ドライバーから出てきたメダル状エネルギーにぶつかる鎌鼬ヤミー  
このドライバーにメダルをセットしたときに現れるメダル状エネ  
ルギーは実態を持っているため今回のように攻撃したりヤミーの攻  
撃を防ぐ盾にもなるのだ。

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャキンッ！

そして映司は仮面ライダーオーズに変身した。

鳳統「あれはさつきの怪人！？」

愛紗「怪人などではない」

鈴々「正義の味方の仮面らいだーなのだーお兄ちゃん、そんな奴軽く倒すのだ」

オーズを応援する鈴々だが

ズキンッ！

オーズ「ぐつーーー？」

オーズに変身したからといって傷が治るわけではなかつた。

鎌鼬ヤミー「シャツー！」

シュンッ！

そしてオーズがうまく動けないのをこことし、鎌鼬ヤミーは

ズバズバッ！

オーズ「がはつーーー？」

オーズに対して遠慮なく切りかかってきた。

愛紗「やまつりヤミーが早すぎるーーー！」

鈴々「あんなに早いんじゃ当たらぬのだーーー！」

そんなとき

アンク「（おかしい、こいつなんでも早すぎだぜ。ヤミーのアリヤー  
そんな力が…？）」

アンクはヤミーが早すぎることに疑問を感じていた。

そしてその答えは

アンク「映司、おそらくそいつの体にはコアメダルが入っている。  
そいつが早すぎなのはそのためだ奪い取れ！」

アンクは指示するが

オース「んな」と言つたつて…？「こんな素早い奴からビックりやつてメ  
ダル取るんだよ…？」

鎌鼬ヤミーの動きが早すぎて奪い取るのが難しいのだ。

鈴々「こいつなつたら三対一で戦うのだ！」

愛紗「やめろ鈴々…悔しいが我らの実力では足手まといになるだけ  
だ！」

ホントは愛紗だつて向かいたいがいつてる通りなので仕方ないのだ。

ズバズバッ！

オース「がはつ…？」

「ひしてこむ間にもオースに切りかかつてくる鎌鼬ヤミー

鎌鼬ヤミー「俺の早さにつけこまれまー！」

ズバズバッ！

そんなとき

孔明「（じへつ）」

戦いを見ていた孔明が

孔明「おーすさんーおもいつきり拳を右ひぶち！」んでくださいー！」

孔明がオーズに向かって言つと

オーズ「何だかわからぬいけど…えいつー！」

ジャキンッ！ ブォンッ！！

オーズはアクロローを開かせて渾身の一撃を繰り出した。すると

ザクリッ！

鎌鼬ヤミー「ぐほつー！」

アクロローは鎌鼬ヤミーに当たった。

オーズ「当たつたーー？」

ズボツ！

そしてオーズが腕を鎌鼬ヤミーから引き抜くと

キランツ

トラクロードの爪の間から「アメダルが出てきた。

トラクロードは敵に突き刺すことで敵の中にあるアメダルを引き抜くことができるのだ。

オーズ「このメダルは！？これならば！」

力チャカチャンツ！

オーズはバッタメダルを抜いて手に入れたチーターメダルに入れ換えた。

キンキンキンツ！

そしてオーズドライバーをオースキナーでスキャンさせると

ドライバー『タカ・トラ・チーター』

ジャキンツ！

オーズの脚がチーターレッグに変化した。

鎌鼬ヤミー「おのれっ！」

シュンツ！

鎌鼬ヤミーは再び高速で移動する。

オーズ「もつとの手は食らわないよー。」

オーズが言つと

ブショーッ！

チーターレッグからいきなり煙が出てきた瞬間

シュンッ！

オーズの姿が消えた。

鈴々「お兄ちゃんが消えたのだー？」

愛紗「だからそつではなく早すぎて見えないだけだと言つていいだ  
るわー。」

愛紗の言つ通りオーズも高速で動いてるので消えてるみたいに見え  
るのである。

シュンッ！

鎌鼬ヤミー「俺の早さにつけこまれまー。」

鎌鼬ヤミーが走りながら言つと

オーズ「それはどうかな？」

バツ！

オーズが鎌鼬ヤミーの隣を走っていた。

鎌鼬ヤミー「なつー？　」

鎌鼬ヤミーが驚いている隙に

ガシツ！

オーズ「この距離なら絶対はずさないよ　」

オーズが鎌鼬ヤミーを掴むと

オーズ「せいやーっ！！　」

シユシユシユツ！！

目にも止まらぬ早さで鎌鼬ヤミーを蹴りまくるオーズ

鎌鼬ヤミー「ほほほっー！？」

これにはさすがの鎌鼬ヤミーもたまらなかつた。

そして

オーズ「ハツ！」

ドカツ！

オーズが鎌鼬ヤミーを遠くに蹴り飛ばした時

鎌鼬ヤミー「ぐほーつ！？」

ドカーンッ！

鎌鼬ヤミーは爆発していった。

オーズ「やった…」

何とか鎌鼬ヤミーを倒したオーズだったが

ぱたりっ！

倒した瞬間背中の痛みを思い出してオーズは倒れた。

しばらくして

映司「すじく効くもんだな！？」

変身を解いた映司は鳳統の手当てを受けていた。

アンク「それにしても黄色チビ（孔明）、何であそこに鎌鼬ヤミーが出るってわかったんだ？」

アンクが聞くと

孔明「それはでしゅね、あの怪物は一定の法則で切りつけていたんでしゅ！」

つまり鎌鼬ヤミーは切る場所をA、B、C、A、B、Cといったように繰り返していたのだ。

愛紗「あんな短時間で法則を見つけるとは大した頭脳だな。先程の言葉を詫びよう、お主達は我が軍に必要な人材だ！」

孔明「えつーー？」

鳳統「つてことは…！？」

二人が聞くと

映司「今日から仲間つてことだよ！」

これを聞いた二人は

孔明「やつたー！」

鳳統「よかつたね！」

喜ぶ「一人だった。

孔明「仲間になつたといつことで真名を預けます。私の真名は朱里でしゅ」

鳳統「私の真名は離里でしゅ！」

この後、映司とアンク以外は真名を交換しあつのだつた。

その頃、黄巾党アジト

張曼成「ん…俺は何してたんだ？」

鎌鼬ヤミーが倒されたことにより本物の張曼成が元に戻った。  
だが

張曼成「あれつ！？手下共はどうしたんだよ！？」

手下共は全員本部に向かっているためこの場には張曼成しかなく黄巾党の一部が解散するのだった。

## 7 「軍師と鎌鼬と法則」（後書き）

### COUNTS MEDAL

現在、オーズの使えるメダル

タカ	2
トラ	1
バッタ	1
カマキリ	1
チータ	1

ヤミーファイル

のっぺらばつヤミー

相手の顔に手を触れるだけで相手の姿になり、外見や声を真似る。  
意外と素早い

鎌鼬ヤミー

高速で両手に持った鎌で切りつけてくる。早さは現段階では一番早い

8 「始まつと曹操と覇道」（前書き）

タイトルの通り、ついに華琳が出ます。

## 8 「始まりと曹操と覇道」

桃香率いる映司一行に新しく名軍師・朱里と雛里が加わり黄巾党本部を田指す一行。

その頃、黄巾党本部では

黄巾党本部

黄巾党「大変です！？張曼成さん率いる部隊が義勇軍に壊滅されました」

一人の黄巾党が言つと

？「え～！もうあのおじさんやられちゃったの～！？」

？「ちい達が逃げ…戦つまでもたせなさいよね！」

？「すぐさま部隊を編成してくださいー！」

黄巾党「わかりました！」

ダダッ！

そして黄巾党の男が去つていった後

？「ねえちいちゃん、人和ぢやんびいじよつー？」

？「どうじよつたって、あのバカ（張曼成）が義勇軍を引き付けて

いる間に逃げるのが作戦でしょー。どうすればいいのよー。」

? 「どうしてこんな」と云ふ。

この彼女達は黄巾党の首領である。上から順に張角（天和）、張宝（地和）、張梁（人和）なのだ。

彼女達がこうなつてしまつた原因には理由がある。

元々彼女達は売れない旅芸人をしていたのだが、数週間前化け物の姿をした男に『この書物には貴様らを有名にする方法が書かれている。これを読んで大陸を支配するがよい』て言られて書物を開いた結果、売れない旅芸人が一転して人気アイドルと化してしまつたのだ。

そこまでなら別によかったのだがその先に問題があった。

アイドルと化した彼女達はある日に開いたライブにて『服がほしい!』と言つた瞬間、ライブ終了後ファン達から山のような服が送られた。

そしてそれからも『あれが食べたい!』『宝石がほしい!』と言つたびにファン達から贈り物が届けられ、ついには『大陸がほしい!』と調子にのつてしまいこれを聞いたファン達は

ファン達『任せてくれ!』

ジャキンッ!

ファン達は黄色の布を頭に巻いて大陸の侵略を開始した。これが黄

巾党の始まりである。

地和「天和姉さんが悪いのよ！最初に服がほしいなんて言つから  
！」

天和「ひつど～い！それを言つなら大陸がほし～いなんて言つたち  
いちゃんが悪いんじやん！」

姉妹喧嘩を始める二人に

人和「落ち着きなさい姉さん達！今は姉妹喧嘩している場合じゃな  
いでしょ！早くなんとかしないと義勇軍が攻めてくるんだから！？  
噂では幽洲の公何とかの密将である劉備と陳留の曹操が来るらしい  
けどどうすればいいのよ！？」

悩みまくる人和。

だが彼女達は知らなかつた。彼女達がアイドルと化したあの日から

ボコボコッ！

黒い泡のようなものが増え続けていることを

その頃、映司達は

バンッ！

よつやく黄巾党本部が見えるといつまでやつて來た。

映司「ようやくここまで來たんだな」

桃香「いよいよ黄巾党との決戦だね！」

鈴々「これでこの小説も終わりなのだ」

嘘です。

映司「それじゃあ行こうか」

スツ…

そして映司が足を進めようとすると

シユンツ！ ザクツ！

映司「おわっ！？」

愛紗「何者だ！」

ぐるり！

愛紗が矢が飛んできた方向を見てみると

バンツ！

そこには水色の髪の女性が弓を構えていた。

桃香「いきなり飛ばすなんてひどいじゃん！」

桃香が文句を言つと

? 「あら、私より先に攻めこもつとしたあなた達が悪いのよ」

スツ

水色の髪の女性の後ろからくるくる金髪の女の子が現れた。

愛紗「お主は何者だ！」

愛紗が叫ぶと

曹操「あら、いざれ天下をとるこの曹操孟徳を知らないなんてね

映司「曹操だつて！？」

曹操といえば三國志の中心人物の一人である。

映司が曹操に驚くと

バツ！

? 「でえいっ！」

映司「ひつー？」

曹操の後ろからいきなり黒髪長髪の隻眼の女性が現れて

ブオンツー！！

映司に向かつて大剣を振るつてくれる。

映司に危機が迫つたその時！

ガキンツ！！

愛紗が偃月刀で大剣を防いで映司を助けた。

映司「ありがとう愛紗！？」

へたへた～

いきなりのことに驚いて腰が抜けた映司

愛紗「なあに、いつも助けてもらつてお礼ですよ。貴様、いきなり何をするのだ！」

愛紗が叫ぶと

？「知れることを…この者が華琳様を曹操と呼び捨てにしてから斬りつとしたままでよ…」

江戸時代じやあるまいし無茶苦茶な理由である。

バツ！

隻眼の女性は愛紗から距離をとると

？「華琳様呼び捨て罪で死ねーっ！！！」

バツ！

再び映司に斬りかかってくるが

曹操「やめなさい春蘭！」

ピタリッ！

曹操がやめないと、隻眼の女性の動きがいきなり止まった。

曹操「今は決戦だからやめなさい！」

？「しかし華琳様……」

それでも斬りつけたい隻眼の女性に

曹操「どうしても斬るところのない、しばらくなねや闘に来るのを禁止にするわよ！」

曹操が言つた瞬間

？「命拾いしたな！」

スツ

隻眼は大剣を收めた。

曹操「うちの部下が悪かったわね、いま斬りかかるつとした隻眼が夏侯惇、そしてこいつの『使いが…』」

夏侯淵「夏侯淵と申す。姉者がすまなかつたな」

自己紹介をする一人

夏侯惇「華琳様へ、何で斬るのを邪魔したのですか？あんな奴なんて一太刀で斬れますよ！」

曹操「うるさいわよ春蘭！（それくらいわかっているけどもしそんなことしたら……）」

スッ

曹操はアンクの方を見る

ジャラツ！

そしてアンクの手にはメダルが握られていた。

もしあのまま夏侯惇が映司を斬ろうとしたらすかさずアンクは映司にメダルを投げていたであろう。そしてオーブズによつて夏侯惇は倒される。

とにかく曹操はもしあのまま戦ついたら夏侯惇が危ないと直感して止めたのだつた。

桃香「もしかして曹操さんも黄巾党を退治しに来たんですか？」

桃香が曹操に聞くと

曹操「もちろんそうよ、それ以外にこんな場所に来るはずないでしょ！私はこの戦いで名を世に知らしめるのよー！」

ぐつ！

拳を握る曹操。

曹操「と、いうわけだからあなた達は邪魔だから出ていきなさい！」

この曹操の言葉に

愛紗「何を言うのだ！貴様に指図される筋合いはない！」

鈴々「愛紗の言つ通りなのだ！」

夏侯惇「貴様らーーー！」

主人である曹操をバカにされて怒る夏侯惇

だがここで斬りかかるうとすれば曹操からどんな罰が下されるかわかつたものではない。その為夏侯惇はむやみに動けなかつた。

曹操「あなた達はバカなのかしら？たつた7人でどうやって黄巾党的大軍に勝つというの？」

黄巾党的兵力は少なくとも数万人はいるのだ。

曹操がバカにすると

映司「それはわからないよーーー！」

映司が口をはさんだ。

映司「小さな数でも大きなものを倒すことだってできるときもあるんだ」

映司が言つと

曹操「甘いわね、数が小さきものは大きなものには勝てないものなのよ。その証拠に私は今まで相手より多い数の兵を用意して圧倒的勝利をおさめてきたのよ。全ては私の霸道のためにね」

映司「霸道ってそんなに大事なものなの？相手より多い数で挑んでも勝利した理由にはならない。君は負けたことがないからそんなことが言えるんだよ」

次々と曹操に口答えする映司に

ピキンッ！！

とうとう曹操がキレた。

曹操「あなた、死にたいよね」

ジヤキンッ！

映司「ひつー？」

曹操は映司に鎌を突きつける

愛紗「映司殿！？」

鈴々「お兄ちゃん！？」

愛紗と鈴々は映司を助けようと近づくが

スツ！スツ！

夏侯淵「悪いがここを通すわけにはいかん！」

夏侯惇「貴様らの相手は我々がしてやる！」

夏侯姉妹に道を塞がれた。

桃香「やめてください曹操さん！今は黄巾党との決戦でしょう！私達が争つても無駄なはずです！」

曹操「そういうわけでもないわ、こいつを放つておいたら危険な気がするのよ。危ない芽は早めに潰さないとね！」

アンク「ちっ！」

スツ

アンクは映司にメダルを投げよいつとするが

ピクンッ！

アンクは曹操から何かを感じ取った。

「アンクー（まさかこいつ、コアメダルを持つていいのか！？）」

黄巾党との決戦の前に小さな争いが始まっていた。

## 8 「始まりと曹操と覇道」（後書き）

西森「何だか最近（10／31）になってきて自分の中のライダー  
ランキングは以前までは

- 1、電王
- 2、オーズ
- 3、クウガ

だつたのですがフォーゼが始まつた途端

- 1、電王
- 2、フォーゼ
- 3、オーズ

になつてきています。

フォーゼ×恋姫の小説があれば教えてください！

## 9 「兵數とじ索と昆蟲コンボ」（前書き）

前回の三つの出来事

- 一つ、黄巾党首領・張三姉妹の後ろに潜むヤマリーの卵
- 二つ、黄巾党本部に向かっていた映司達は曹操と出会いつ
- 三つ、曹操を馬鹿にした映司が斬られそうになるが曹操がコアメダルを持っていてそれをアンクが発見する

## 9 「兵數と志染と咲田」ンボ」

ギラソツー！

曹操の突きつけた死神鎌・絶が映司の首を斬りつくる。

曹操「私を馬鹿にしたことをあの世で後悔しなさい」

映司「くつー？」

桃香「映司さん！？」

映司に危機が迫ったその時！

アンク「ちよつと待ちなー！」

アンクが止めに入った。

映司「アンク、お前ってやつぱりいい奴…」

映司は自分を助けようとしてくれるアンクに感動してこると

アンク「そいつの首ならいへりでもくれてやるー！」

ズコッ！

結構薄情な態度のアンクに映司達はすつこけた。

アンク「そんなことより曹操、お前メダルを持っていいだろ？！」

アンクが曹操に聞くと

曹操「”めだる”って何かしら？」

アンク「いつももんだよ」

スッ

アンクはコアメダルを曹操に見せる

曹操「ふう～ん、それが”めだる”といつものならば確かに最近拾つたわよ」

スッ

曹操は懐に手を入れると

曹操「へんな虫が描かれた硬貨をね！」

バンッ！

曹操は懐からクワガタメダルを取り出してアンクに見せつけた。

ちなみに曹操がへんな虫と言っているのはクワガタを知らないためである。（おそらくこの時代にはいないため）

アンク「メダルはお前が持つていても何の役にも立たないからよこしゃがれ！」

アンクが言つと

曹操「いやよつ！何でこの私があなたの言つことを聞かなきやなら  
ないの？…どうしてもほしけりや、この男（映司）の首を切らせるか、  
关羽をこす…」

曹操が最後まで言おうとする

兵士「曹操様、大変でござります！？」

一人の兵士がいきなり現れた。

夏侯惇「貴様、華琳様に何の用だ！」

夏侯淵「落ち着け姉者、それでどうした？」

夏侯淵があらためて兵士の話を聞く

兵士「それが、黄巾党の奴らを見張つていたら、いきなり大きな天  
幕が破れて化け物が暴れてるのです！」

曹操「何ですつて！？」

黄巾党本部

現在この場所では

黄巾党「うわーつー？」

ダダーッ！－

大勢の黄巾党達が逃げていた。

何に逃げていたのかといつと…

土蜘蛛ヤミー「ギャシーツ！！」

いきなり中央にあつた巨大天幕が破れてそこから多数の土蜘蛛ヤミつちぐもーが現れたのだった。

こいつらは黄巾党首領である張三姉妹の有名になりたいという欲望から産まれたのだった。

ちなみにその張三姉妹はといふと

天和「いや～ん！はなしてよー！」

地和「ちい達にこんなことしてただですむと思つてゐるの！」

人和「蜘蛛は嫌い」

三人は土蜘蛛ヤミーの出した糸に捕まっていた。

これを見た映司達と曹操達は

曹操「何なのよあの化け物は！？」

映司「説明は後にするよー アンク、メダル！」

アンク「しつかり稼いでこいよ！」

スツ！

アンクが映司にメダルを渡そうとする

夏侯惇「華琳様、あの化け物は私にお任せください…いくぞ者共…」

「

ダダーッ！！

夏侯惇がたくさんの中を連れて土蜘蛛ヤミーに向かっていく。

曹操「春蘭！？ しようがないわね、秋蘭、春蘭を援護しなさい！」

夏侯淵「わかりました」

そして土蜘蛛ヤミーに向かっていった春蘭達は

兵士「この化け物めーつ！！」

ギランシッ！！

一人の兵士が土蜘蛛ヤミーに剣を向ける。

土蜘蛛ヤミー「ペギーッ！！」

ブシュッ！！

だが土蜘蛛ヤミーが吐き出した紫色の液体が兵士に当たると

ジユジユーツー！

兵士「ああーつー？……」

兵士は剣も鎧も骨も残らずに溶かされてしまった。

それを見た兵士達は怯え出す。

兵士「ここつと戦つたら溶かされてしまいだぞー！？」

兵士「冗談じゃない！怪我ならともかく骨すら残らないなんて嫌だつー？」

ダダーッ！！

恐怖を感じた兵士達は次々と逃げていく。

夏侯惇「こひ貴様ら！逃げるでない！」

残つたのは夏侯惇ただ一人だった。その夏侯惇も逃げた兵達を追つていった。

そしてその様子を見た曹操は

曹操「何でなのー？数ではあきらかにこいつが上だとこいつのにー？」

「

あんなにたくさんいた兵士が逃げていったのを曹操は驚いていた。

映司「俺のいったことがわかったかい？いくら数が多くても恐怖つ

てのは伝染するものなんだよ！」

簡単に言つと一人が怯えると他の人まで怯えるといつことなのだ。  
(分かりにくくてすみません)

だが曹操は

曹操「兵がいかないのなら私が行くわ！」

バツ！

兵士が全員逃げたのにもかかわらず、一人で戦おうとする曹操。だが…

土蜘蛛ヤミー「ペギー・ツー！」

ブシュツ！

土蜘蛛ヤミーの吐き出した毒液が曹操の鎌に当たり

ジユジユーッ！

鎌は柄を残して溶かされてしまった。

曹操「私の鎌が！？」

そんな曹操に追い討ちをかけるよつこ

ザザツ！

土蜘蛛ヤニー達が曹操を囲む。

夏侯惇「華琳様！？」

あのまま一斉に毒液を噴射されたら曹操が溶かされてしまつ！？

夏侯惇が叫んだその時

映司「一つ訂正しておくれ、確かに恐怖は伝染するけれども……」

シユツ！ パシツ！

アンク「フンツ！」

映司はアンクが投げたメダルを受けとると

映司「勇氣つてのも周りに伝染するんだよね」

力チャカチャンツ！

キンキンキンツ！

映司「変身！」

映司はメダルをオーズドライバーにセットしてオースキヤナーでスキンянせると

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャキンツ！

映司は仮面ライダー オーズに変身した。

夏侯惇「何なのだ貴様は！？」

オーズ「話は後で、それじゃ」

バツ！

オーズは曹操を助けるために土蜘蛛ヤミーに向かう。

オーズ「ハツ！」

ズバツ！

オーズはトラクロード真空の刃を作り出して土蜘蛛ヤミーを切り裂いていく。

オーズ「曹操さん大丈夫！？」

曹操「その声、あなたはさつきの男！？その姿は何なの？」

オーズ「説明は後で…」

曹操「いま言いなさい！でないと首を切るわよ！」

オーズ「簡単に言つとここれは仮面ライダー オーズだよ！」

曹操「おーす？」

二人が話している間に

土蜘蛛ヤミー「ギャシーッ！！」

土蜘蛛ヤミー達が一人を囲もつとする。

愛紗「映司殿、回りを囲まれてますぞー！」

オーズ「えつ？」

愛紗の声を聞いたオーズが回りを見てみると

ズラリッ！！

回りは土蜘蛛ヤミー達に囲まれていた。

オーズ「しまったー？」

オーズが今さら驚くと

ブショュシュッ！！

土蜘蛛ヤミーの吐き出した毒液が一人に襲いかかる。

オーズ「うわっ！？曹操、捕まつて！？」

曹操「何なの？」

ガシッ！

オーズは曹操を抱くと

バチバチッ！ ビヨンッ！

脚をバッタに変化させて跳んだ。

ジユワツ！

オーズ「ぐはつ！？」

だが腕に毒液がかかつてしまつた。

アンク「映司、メダルを換えろ！」

シユツ！ パシッ！

アンクが投げたメダルを受けとるオーズ

カチャツ！ キンキンキンッ！

そしてメダルを入れ換えてスキヤンさせると

ドライバー『タカ・カマキリ・バッタ』

ジャキンッ！

オーズはタカキリバに変身した。

オーズ「ハツ！」

ズバッ！

そしてオーズは着地地点にいた土蜘蛛ヤミーをカマキリソードで切り裂いていく。

だが土蜘蛛ヤミーの方が数が多い

オーズ「これじゃあきりがない！？」

オーズが困っていると

アンク「ちつ！映司、曹操から無理矢理メダルを奪い取れ！…そうすりやあんなヤミーなんて軽く倒せるんだよ！」

曹操の持つクワガタメダルを奪うよう映司に言ひアンク、だが優しい映司にそんなことができるわけがない。

そんなとき

スツ

曹操「私の考えが間違っていたのを教えてくれたのと私を助けてくれたお礼にくれてあげるわ」

曹操が映司にクワガタメダルを渡した。

アンク「最初から寄越せばいいんだよ！映司、それを使え！」

アンクが指示すると

オーズ「ありがとう曹操」

力チャツ！ キンキンキンッ！

そしてオーズはメダルを入れ換えてスキヤンさせると

ドライバー『ガタガタガタキリバ！ ガタキリバ！ バッタ』

ドライバー『ガタガタガタキリバ！ ガタキリバ！』

ジャキンッ！

オーズは新たな形態、ガタキリバコンボに変身した。

愛紗「姿が変わった！？」

鈴々「もしかしてあれが”こんば”つてやつなのかなのだ！？」

夏侯惇「あやつは一体何なんだ！？」

夏侯淵「落ち着け姉者、とりあえずあやつを見守ろうではないか！」

そしてガタキリバに変身したオーズは

ヴィンヴィンッ！！

多数の分身体を作り出すと

ガタキリバコンボは自分の分身を最大50体まで作ることが可能なのだ。

オーズ達『ハツ！』

ババッ！！

一斉に土蜘蛛ヤミーに向かっていく。

ズババッ！！

そして数で圧倒する土蜘蛛ヤミー相手にオーズ達は土蜘蛛ヤミーを切り裂いていく。

土蜘蛛ヤミー「ギャシーッ！？」

ガササッ！！

そして負けそうになつた土蜘蛛ヤミー達が逃げようとする

オーズ達『逃がすかよ！』

キンキンキンッ！

ドライバー『スキンニングチャージ！』

一斉にスキニングチャージしたオーズ達は

オーズ達『ハツ！』

ババッ！

バッタの脚力で高く飛び上がり

オーズ達『せいやーつ！！』

バババッ！！

一斉に必殺のガタキリバキックを繰り出していった。

ドカ力カ力カツ！！

そして見事オーズ達のキックが土蜘蛛ヤミー達に命中し、

土蜘蛛ヤミー達『グギャーッ！？』

ドッカーンッ！！

爆発していった。

カチャンツ！ シュンツ！

そしてオーズが変身を解いて映司に戻ると

映司「久々のコンボは疲れた！」

バタリツ！

映司はその場に倒れた。

じぱいくして

映司が倒れている間に他のみんなは土蜘蛛ヤミーの糸に捕まつて、  
た張三姉妹を救出し、彼女達から事情を聞くと

曹操「だつたらこの娘達の処分は私に任せてもらうわ、悪いようこ  
しないから安心しなさい」

張三姉妹は曹操に引き取られることになった。

そして桃香達は

桃香「私達も早く白蓮ちゃんのところへ帰るつか」

鈴々「帰りは絶対鈴々が”ばいく”に乗るのだ！」

愛紗「こり鈴々！映司殿は疲れているからまた今度にしておけ！」

アンク「フンッ！ガキが！」

映司「はははっ！」

そして映司達が去ろうとする

曹操「ちよつと待ちなさい！」

曹操が映司を呼び止めた。

曹操「あなた、名前は何で書つの？」

今さらだが曹操が映司に名前を聞くと

映司「俺の名前は火野映司。真名ってのはない」

と言つた映司に対し

曹操「助けてくれたお礼に私の真名を預けるわ、私の真名は華琳よ。覚えておきなさい映司」

スツ

そして華琳は去つていった。

夏侯惇「華琳様を助けてくれたお礼に私も真名を預けよう。私の真名は春蘭だ」

夏侯淵「では私も華琳様を助けてくれたお礼に真名を預けよう。私の真名は秋蘭だ」

こうして曹操達から真名を預けられた映司だった。

9 「兵数とじやくと昆虫コンボ」（後書き）

COUNTS MEDAL

現在オーズの使えるメダルは

タカ	2
トラ	1
バッタ	1
カマキリ	1
チータ	1
クワガタ	1
1	1

## 10 「政務と竹籠と黒幕」（前編）

9 話題を少し改良してみました。

黄巾党を事実的に壊滅させた映司達は無事に白蓮の元に帰りつゝ、仕事を続けることにした。

### 白蓮の城

桃香「ふえ～っ！疲れるよ～！」

最近まで黄巾党を攻めていたためたまつていた仕事に苦戦する桃香しかも桃香の場合、行く前から仕事を溜め込んでいたためその量は映司達より多いのだ。

今の桃香達の身分は白蓮の密将（雇われ兵）だが、仕事を覚えるために仕事をする桃香だった。

映司「ほら桃香頑張ってよ！俺も手伝ってるんだからさ」

桃香「大体どうしてみんなは仕事していないの？」

ブクーッ！

桃香が膨れつ面をしていると

アンク「当たり前だろ？がお前と違つて映司達は出掛けの前にあらかじめ後から来る仕事も終わらしていったからな、サボつて町に行つてお前とは違つんだよ」

アンクの言つ通り桃香は仕事をこつそつ抜け出しては町に遊びにいって子供達と遊びまくっていたのだ。

だがそんな手が何度も続くと仕事が溜まり、仕事の納期がやつてしまつたため今日中に終わらせてはならない仕事がたくさんあるのだった。

鈴々ですら毎日遊んでるよう見えていたが武官なので文官より仕事が少なく、愛紗に言われて仕事をしていたため仕事は終わっている。

愛紗や映司は眞面目タイプなため仕事は早めに終わらせていく。

アンクは仕事をしていない（アンクいわく、何で俺が仕事しなくちゃいけないんだ！のこと）

朱里と離里は最近やつて来たばかりなので仕事はない

ところがで仕事があるのは桃香だけなのだ。

桃香と映司が桃香が残した今日中にやらなければならぬ仕事をしていると

ガチャリッ！

政務室の扉が開いて

鈴々「お兄ちゃんー遊びなのだー！」

鈴々がいきなり入ってきた。

映司「鈴々、いま俺は桃香の仕事を手伝つてゐるからまた後でね」

映司が言つと

鈴々「嫌なのだー！昨日お兄ちゃんが勉強したらバイクに乗せてくれる約束したのだ！」

実は昨日、どうしてでもバイクに乗りたいといつ鈴々に対して映司が『それじゃあ勉強したら乗せてあげるよ』と言つてしまい鈴々はバイクに乗りたいがために勉強したのだった。

駄々をこねる鈴々

映司「仕方ない、その辺走つてくるからひょっと抜けるね」

スツ

映司が政務室から出ていくとあると

アンク「映司、用心のために一応持つときな」

シユツ！ パシッ！

アンクが投げたのはタカ・トラ・バッタのコアメダルとバッタカンドロイドだった。

映司「サンキューアンク！」

アンク「フンッ…お前が死んだらメダル集めができないからだ。行くならさつとといけ！」

映司「わかったよ」

ガチャーンッ！

そして映司は出ていった。

桃香「ふえ～ん！アンクちゃん手伝ってよ～ー！」

アンク「ちやん付けするなー！」

もちらんアンクは桃香の仕事を手伝わなかつたという

そして映司達は

プロローグ！！

鈴々「キヤツホーーなのだ～！」

町の外をライドベンダーで走っていた。

映司「（それにしても最近現れてないけど俺とアンクをこの世界に連れてきたあいつは今ごろ何してるんだらうな～？）」

実際は映司達が出会っていないだけで謎のグリードはこの世界で暗躍しているのだ。

鈴々「お兄ちやん、もっと早く走るのだ！」

映司「わかったよー。じぱすからしつかり捕まつていでね」

ブロローッ！

ライドベンダーのスピードをあげる映司

そして夢中になつてこる間にもう田が暮れてしまった。

鈴々「お兄ちゃん、急がないと」「飯が食べられないのだ！」

映司「待つでよー。」

町中ではバイクを走らせたら事故になりかねないのでライドベンダーを押す映司

そんなとき

?「ちよつといの兄さんー。」

映司「えつ？」

映司は近くにいた露店商に呼び止められた。

?「そこの兄さん、竹籠たけかご買つてくれへんか？いまなら割り引きするで」

竹籠を買つようすめでくる露店商

さいわいにも映司は愛紗から少しのお金をもらつていたので優しい

性格の映司は

映司「一つ買います！」

竹籠を買ひにいった。

? 「毎度ありやで、それにしても兄さんすゞに絡繰り（カラクリ）を持つてゐるやな～」

露店商はライドベンダーを見つめる。

映司「これはバイクといつ乗り物だよ。それじゃあまたね！」

そして映司は去つていった。

? 「ばいぐねえ～、いずれウチもあんなん作つてみるかな～」

露店商が考えていると

? 「真桜ちゃん！」

「真桜！」

ダダッ！

露店商の元に全身に傷のある銀髪の女の子と眼鏡をかけていて海老の尾のような形に髪を結んだ橙色オレンジの髪の女の子がやって来た。

真桜「おおーっ！沙和に屈かいな、見てみい親切な兄さんが買つてくれて竹籠一つ売れたでこれでウチの勝ちやな！」

真桜が威張ると

沙和「ちっちっちっ！真桜ちゃん甘いの、沙和も小さな二人連れの女の子に買つてもらつて一個売れたから沙和と真桜ちゃんの勝ちなの」

「

真桜「何やで！？ほな凪がビリつけで決定やな」

沙和「最下位の人はみんなに晩御飯を奢るつて約束だつたなの」

にたにた

にやけながら凪の方を見る一人

凪「悪いが私は黒髪のきれいな人から竹籠を二個買つてもらつたら断じて私はビリではないぞ」

ビシッ！

凪が言うと

ガーンツ！？

ショックになる一人

沙和「こうなつたらじゃんけんで決着をつけるなの〜！」

真桜「のぞむとこや！負けた方が晩御飯奢るんやで！」

凧「どうでもここから早くしてくれ

結局この後、一人のじゃんけんは相子が続きまくり決着がついた頃には夜になっていたという

### 白蓮の城

映司「あれっ！？みんなも買ひやつたの！？」

帰ってきた映司はみんなの手に竹籠があるのに驚いていた。

愛紗「露店商の話を聞いていましたら同情しちゃいましてつい

朱里「私達はやおい…本を買つているのを見られてしまって止め料として買つちやいました」

桃香「いいなー！みんなはお出掛けできて

プクーッ！

まるで口の中に何かを入れたハムスターの類袋のように膨れる桃香

愛紗「何いっているのですか！もとはといえば桃香様が仕事を溜め込んでいたせいでしょうが！今日中に出さなくてはならない仕事もありますから今夜は徹夜ですよー」

桃香「ふえーんー！愛紗ちゃんの鬼～！」

今日も映司達は平和だった。

それから数日が経ち

白蓮「元気でな桃香」

桃香「白蓮ちゃんも元気でね」

桃香達が白蓮のもとから去る日がやつて來た。

そして

趙雲「では伯佳殿、私も去らせてもらひ

趙雲が言つと

白蓮「待てよ趙雲！？お前まで去るのか！？」

驚く白蓮に対して

趙雲「さよつゝ、この者達にはこの城を助けてくれた借りがありますのでな、その借りとして私がこの者達の仲間になるのが普通でしょう」

といつ趙雲だが本音は

趙雲「（これ以上伯佳殿のところにいたり出番が減るかもしけぬからな）

であった。

白蓮「仕方ない、お前に口で勝てるわけないし桃香達に恩を返すの

が普通だから行つていいーーー

趙雲「ありがとひざわこました

スツ

そして趙雲は桃香達につけていくことになった。

趙雲「劉備殿、我が名は趙雲子龍、真名を星と申します。以後お見  
知りおきを」

桃香「ありがとひづけ星ちゃん 私の真名は桃香だよ」

そして愛紗達も星と真名を交換しあい、

映司「俺は火野映司、よろしくね星ーーー」

星「じゅうじゅです映司殿 それとひづけアンコウ殿でしたかな  
?」

アンク「俺の名はアンクだーーわざと間違えるんじゃねえよぶつ殺す  
ぞーーー」

桃香達に笑い風が吹いたのだった。

そしてその頃

名も無き城

?「くそつーーー

ドンッ！

この場所で謎のグリードが怒り狂っていた。

? 「やはり生半可な欲望じや強いヤミーは産まれないか、おまけにアンクが飛び掛かったときにコアメダルを数枚落としたのは誤算だつたぜ！」

謎のグリードが強いヤミーが産まれないことにイラついていると

? 「貴様の力はその程度なのかラグル！」

何処からか声が聞こえてくる。音の出を探してみると

ゴポゴポッ

縁の液体が入った培養ケースの中に入っていた。

ちなみにラグルとは謎のグリードの名前である。

ラグル 「わかつてるよ、あんたが俺を石版の中から出してくれた上に外史の存在を教えてくれたおかげで俺は好きに暴れられるんだからな」

ラグルは元々強力な力を持つていたため800年前、メダルが作られてすぐに石版に封印されたのだった。

だが培養ケースに入っていた人物が封印を解いてしまったためこの外史にやって来たのだった。

? 「仮面ライダー、俺にとつて腹はらが立つ存在だ！奴には恨みはないが同じ仮面ライダーなのだから然程まあほど変わらないだろう。それよりもうすぐ大きな戦いが起きる。それを利用すればオーブなんて軽く倒せるぜ！」

ラグル「わかった。ありがとうよ左慈」

バンッ！

培養ケースに入っていた人物、それは西森の別作品『俺、参上！』に登場し、電王一刀に敗れて爆死したはずの左慈であった。

左慈「（電王に敗れた時は死ぬかと思ったがその時発生した時空の歪みに入つて脱出した先がオーズの世界だったとはな、まあそのおかげでラグルを復活させ仮面ライダーに逆襲するという俺の野望が叶つたわけだがな。だが体のダメージがでかすぎていまはこうしてセルメダルによつて回復しなくてはいけないが待つてろよ仮面ライダー！お前は必ず俺の手で殺してやるぜ！）

意外な黒幕がいたのだつた。

## 10 「政務と竹籠と黒幕」（後書き）

ヤミーファイル

・土蜘蛛ヤミー

多数で発生するタイプのヤミー。吐く糸は強力な強度をもち、吐く毒液は鉄や骨すらも溶かすほど強力

・ラグル

鬼の頭・天狗の鎧・九尾の狐の脚を持つ妖怪系グリード。その力は強力でウヴァ達を一人で倒し、800年前に封印されたほど、ヤミーの産み方は様々である。

名前の由来は争いの英語であるストラグルから

## 11 「脱走と时间稼ぎと孙策」

白蓮の元を離れた桃香一行は旅を続けていた。

ちなみに桃香が城を出る時白蓮の城にいた兵士達全員が『劉備様と共にいきます!』と言っていたが白蓮の泣きによる説得と桃香が拒否したことにより兵士達をつれていかないことになった。

そして映司達があてもない旅をしている頃、

吳の国・建業

? 「雪蓮! 雪蓮はどこだ! 」

眼鏡をかけた黒髪色黒の女性が誰かを探していた。

とその女性のもとへ

スツ

? 「どうしたのだ冥琳? 」

桃色のショートカットっぽい髪型(西森に知識がないだけです)をした女性が現れた。

冥琳「これは蓮華様、失礼ですが雪蓮を知りませんか? 」

冥琳という女性が聞くと

蓮華「姉様か？今日はまだ見ていないがどうしたのだ？」

〔冥琳〕「あの人ときたらこれから袁術殿と会わなければならぬのに『つるさいがきんちょの相手なんてしてられないわよ！』という書き置きを残して勝手に城を出ていかれたのです！」

蓮華「何だと！？」

蓮華は驚く。実は雪蓮という女性はショッちゅう城を抜け出すため城の者はみんな困り果てていたのだ。

〔冥琳〕「早く見つけないと袁術殿のことだからわがままを言いまくるに違いありませんよ！」

頭を悩ませる〔冥琳〕

蓮華「仕方がない、袁術殿には次期王である私がお会いする。その間になんとしてでも姉様を探し出してきてくれ！」

指示を飛ばす蓮華

〔冥琳〕「わかりました」

急いで捜索隊の準備をする冥琳だが時はすでに遅く

兵士「周瑜様、袁術様がやつてござられました」

〔冥琳〕「もう来てしまったのか！？」

ちなみに周瑜とは冥琳の名前であり、冥琳は真名である。

そしてとうとう袁術が玉座の間にたどり着いてしまった。

玉座の間

そこにいたのは

? 「七乃へ、孫策はまだかえ？」

七乃「お嬢様、孫策さんはお嬢様に会う準備に時間がかかるんですよ。のろまな家来を持つと大変ですね～」

? 「大変なのじゃ～」

このお嬢様と呼ばれている金髪の小さな女の子が袁術（真名は美羽）、七乃と呼ばれているバスガイドみたいな格好をしている女の子が袁術の側近の張勲である。ちなみに孫策とは雪蓮の名前である。

二人が少し待つていると

蓮華「これはこれは袁術様、ようこいらっしゃいました」

袁術を出迎える蓮華

美羽「お主は確か孫策の妹の…」

七乃「お尻が大きいので有名な孫權さんですよお嬢様」

美羽「おお、そうじやつたケツでかオババの孫權じやつたな～」

なんでじやがいも頭の五歳児の台詞を知つてゐる?

わざわざからケツでかと言われ、いつもならすぐ怒る蓮華だったが

蓮華「確かにその通りですね」

「シリ

その顔は笑顔だった

…のだが

ピキピキッ

こめかみの方に青筋が立ちまくつていた。

蓮華「（なんて子なの！姉様が会いたくない気持ちもわかるわ）

」

蓮華が美羽に対して怒りを感じていると

美羽「とにかく孫策はどうにあるのじゃ？」

きょわきょわ

この場にいない孫策を探す美羽

すると蓮華は

蓮華「孫策姉様でしたら胸が重いせいできつくり腰になつたみたい

です」

自分を美羽に当てた罰としてでたらめを言つ蓮華

普通ならそんなわけがあるもんかと氣付くのだが

美羽「なんと…やはり胸が大きいと大変じゃな」

七乃「ですよね～お嬢様、ですから私はお嬢様みたいな貪乳がいいと言つてるじゃないですか」

美羽は少しばかり足りなかつたようで、七乃是わかつていてあえて言わないタイプだつた。

蓮華「（単純ね）ですから姉様の腰が治るまでこちらをお飲みください」

ガララーッ

蓮華が侍女に用意させたテーブルの上には

ジャーンッ！

大量の蜂蜜水がグラスに入れられていた。

これを見た途端美羽は

美羽「おおーっ！蜂蜜水なのじゃ～」

美羽は蜂蜜に目がなかつた。

美羽「早速飲みながら待つのじゃ七乃！」

七乃「はいっ！」

蓮華「（これでしばらく時間が稼げる）」「

呉の城が大変な頃、城を抜け出した雪蓮はといつと

雪蓮「あ～あ、せつかく袁術から解放されてのんびりしようと思つたらお金忘れたなんて災難だわ」

城を抜け出した孫策」と雪蓮はとある町に来ていた。だが財布を忘れてしまい大好きなお酒も飲めないでいたのだ。

雪蓮「王様の身分を利用してタダ飲みすると冥琳が怒るからなあ～、どうしましょ～う？」

雪蓮が考えていると

雪蓮「んつ？ あの人達見かけない人ね」

とある飲食店にいた映司達を見つけた。

アンク「ちつ！ 現在俺達が持っているコアメダルが6枚、あのグリード（ラグル）が数枚、残りのメダルはどこにあるっていうんだ？」

「

アンクがなかなかメダルが集まらないことに悩んでいると

鈴々「アンコのお兄ちゃん！」飯食べるのだー！」

アンク「うむせえ！ 黙つて食つてろー！」

じつに構つてくる鈴々を遠ざけるアンク

映司「それにしてもこれかうびつするの？」

桃香「うーん、といつてもあてもないしのんびり旅でもしようかな

」

愛紗「何を言つているのですか！ 桃香様はいづれ太守にならなければならぬのです！ そんな気分では困りますー！」

星「愛紗よ落ち着け、桃香様がのんびりなのは昔からなのだから。そういう性格は簡単には直らんのだから仕方あるまー！」

愛紗「それでは困るのだー必ず太守になれば…」

愛紗が最後まで言おうとする

雪蓮「太守つてそんなにいいものなの？」

ヌツ

雪蓮がいきなり輪に加わってきた。

朱里「はわわー！？ あなたは誰ですか！？」

雪蓮「そんなことより…」

よろづつ ぐきゅーつ！

雪蓮「お腹空いた」

バタリツ！

映司達の前に倒れ混む雪蓮

しばらくして

ガツガツッ！

雪蓮「フーッ！満腹満腹、じちそつせん」

映司「驚いたよ今どき空腹で倒れる人がいるなんて！？」

雪蓮「あら、私だって驚いたわよ見ず知らずの私にご飯おごる人がいるなんてね」

映司「困ったときはお互い様だよ、人間助け合わなくっちゃさ」

空腹で倒れた雪蓮を助けようといったのは映司だった。

アンク「つたく映司のお人好しにもホントに呆れ…」

アンクが最後まで言おうとする

ピキンツ！

アンクは雪蓮から何かを感じ取った。

アンク「おい女！」

雪蓮「私の名前は雪蓮よ。何なの金髪鷄冠君？」  
トサカ

雪蓮的には「ちそうになつたお礼に真名を勝手に『えたのだつた。（本名を）言つと驚かれてしまつのも理由のひとつ）

雪蓮に言われたアンクは

スツ

アンク「お前からメダルの氣配を感じるんだよ。お前、こいつに似た硬貨を持っているだろう」

アンクは雪蓮にタカラメダルを雪蓮に見せると

雪蓮「どれどれ…ああ、これなら…」

スツ

雪蓮は自分の胸の谷間に手を入れると

雪蓮「これでしょ」

スツ

雪蓮は胸の谷間から一枚のメダルを取り出した。

映司「どうから出してるのー!?」

雪蓮「女の子は谷間に物を入れるものなのよ それよりこれは何なの?毛の生えた虎みたいな動物が描かれているけどさ?」

ちなみに雪蓮が取り出したのはライオンコアメダルである。

アンク「お前は知らなくていいんだよ…それをよこせー!」

シユツ!

ライオンコアメダルを見た途端アンクは雪蓮からメダルを奪うために襲いかかる。

だが

パシツ!

アンク「なにつー?」

雪蓮がアンクの手をつかみ

雪蓮「てえいつー!」

ブォンツー!!

アンク「つむつー!?

ドッシーンツー!

背負い投げの要領でアンクを投げ飛ばした。

アンク「くそつー何で」の世界の女はみんな馬鹿力なんだよー!?」

アンクが悔しがっていると

雪蓮「あなたねえ、私を誰だと思つてるの」

雪蓮「私は國の國・建業の王、孫策伯符なのよ」

雪蓮が言つと

映司「孫策だつてー?」

孫策といつが前に驚く映司だった。

## 12 「勘と核と猫系コンボ」（前書き）

前回の三つの出来事

- 一つ、雪蓮」と孫策が城から脱出
- 二つ、脱出した雪蓮が映司達と出会い
- 三つ、雪蓮はライオンコアメダルを持っていた

## 12 「勘と核と猫系コンボ」

孫策といつも前に驚く映司

「」の小説の映司は三国志の知識があります

映司「（確かに孫策つて、呉の国の王様で最後は曹操の兵が放った毒矢で命を落としたんだっけ！？）」「

じ～つ

映司が孫策こと雪蓮を見つめていると

雪蓮「あらやだつ！ いくら私が美人だからって見つめられたら照れちやうわ／＼／＼」

雪蓮が照れていると

アンク「照れてる場合ぢゃないだろ？ お前が持つていても意味がないんだからさつさとそのメダルを寄越しやがれ！ ジゃないとぶつ殺すぞ！」

アンクが乱暴的に言つと

雪蓮「いやよつ！ これを持っていたら何かいいことが起きるつて私の勘が冴えてるのよ。私の勘つて当たるんだから」「

アンク「はあ？ 勘なんか信じるなんてお前バカじや……」「

映司「よせよアンク！お前だってヤニーがメダルを持っているかも  
つていう勘があるだろ。人によつて勘は信じる信じないがあるんだ  
からいいじゃないか！」

雪蓮「きみつて案外良いことこのじやない」

雪蓮が映司を讃めると

ポイツ！

うつかりライオンコアメダルを投げてしまった。

アンク「今がチャンスだ！」

その隙をアンクが見逃すはずがなく

シユツ！

アンクは腕を飛ばした。

右腕だけが完全なアンクは体を残して右腕を飛ばすことができる  
のだ。

愛紗「アンク殿の腕が飛んだー！」

鈴々「おまけに腕が飛んだりきなりアンコのお兄ちゃんが倒れた  
のだー？」

アンクが腕を飛ばすと体を借りている泉信吾の肉体が倒れるのだった。（ちなみに腕が体から離れて数分経つと泉信吾は死ぬのだ。）

アンク「コアメダルはもうつたぜ！」

アンクがライオンコアメダルに触れようとしたその時

パシッ！

アンクの後ろから何かが追い抜いてきてコアメダルを奪つていった。

アンク「何者だ！？」

アンクが叫ぶと

水虎ヤミー「ゲシシッ！」

アンクを追い抜いたのは水虎ヤミーだった。

水虎<sup>すじこ</sup>…カツバの一種、姿は様々だがここでは虎に近い姿になつている。

映司「ヤミーが出るなんて！？」

雪蓮「あの化け物は何なの？」

みんなが水虎ヤミーに驚いている

水虎ヤミー「ゲシシッ！」のメダルを返してほしくば俺を倒すことなどな

ボワッ！

そして水虎ヤミーの後ろから脣ヤミー達が現れる。

アンク「ちつ！」

スツ

アンクは腕を体に戻すと

ムクッ！

アンク「映司、こんなヤミーなんてさつさと倒してしまえ！」

シユツ！ パシツ！

立ち上がったアンクは映司にメダルを投げ、見事受けとる映司

映司「ヤミー相手なら仕方がない！」

力チャ力チャンッ！

キンキンキンッ！

映司「変身！」

映司はメダルをオーズドライバーにセットしてオースキヤナーでスキンンさせると

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャキンッ！

映司は仮面ライダー オーズに変身した。

変身した映司を見て

雪蓮「あれって何なの！？」

一人驚く雪蓮

オーズ「説明はあとでするよ。ヤマリーは俺がやるからみんなは肩や  
ミーをお願い！」

愛紗「わかりました！」

鈴々「合点なのだ！」

星「御意！」

バツ！

ヤミー達に向かっていく映司達

桃香「私達は邪魔にならないうつに隠れてよしね」

朱里「はいでしゅ！」

桃香達が安全のため建物の陰に隠れようとしていると

雪蓮「（むずむずつ）」

離里「雪蓮さんどうしたんでしょうか？」

いきなり雪蓮の体が震えだし、離里が心配して聞いてみる。

すると

雪蓮「戦いは私に任せなさい！」

ジャキンッ！

雪蓮は隠れずに愛剣・南海霸王を片手に戦いの中に入つていった。

そして戦場では

オーズ「せやせやせやせやつー！」

水虎ヤミー「ぐほほつー？」

オーズが水虎ヤミーをトラクロード切りつけしていくが

水虎ヤミー「なーんてな、そんな攻撃は効かないぜー！」

ズブブツ

体を液体化できる水虎ヤミーに打撃技は効いていなかつた。

オーズ「こんなのがりなのー！？」

水虎ヤミー「ゲシシッ！俺に打撃と投げは効かないぜ！」

水虎ヤミー「苦戦するオーズ

アンク「くつ！ 使えそうなメダルがない」

今、この窮地を脱出できる方法があるとしたらそれは水虎ヤミーのもつライオンコアメダルの力である。

水虎ヤミー「ゲシシッ！ オーズ、お前には俺の取つて置きの技を食らつてもいいぜ！」

すると水虎ヤミーは

ズブブツ！

一度体を水にすると

水虎ヤミー「食らいやがれ！」

バシャツ！

オーズ「！？」

オーズに液体化した自分をかけた。その瞬間…

オーズ「なつ！？」

ズブブツ！

液体化した水虎ヤミーはオーズの体を包み込んでいく

オーズ「！」はつ！？息ができない」

今のオーズは水の中[に]いるのと同じなのだ。

水虎ヤミー「ゲシシッ！」のまま溺れ死なせるのもいいがもつと面白くしてやるぜ！」

水虎ヤミーが囁つと

めきめきつ！

オーズ「体が絞まる！？」

水虎ヤミーは水圧を変化させてオーズを潰そうとする。

愛紗「映司殿！？」

鈴々「お兄ちゃん！？」

ダダッ！

水虎ヤミーは水圧を変化させてオーズを潰そうとする。

愛紗「いま助け出しますからね！」

鈴々「引っ張り出すのだ！」

ずぱつ！

二人がオーズを水から引き抜くため水に触れた瞬間

ズブブツ！

愛紗「なつー？」

鈴々「引きずり込まれるのだ！？」

逆に愛紗達が水に引きずり込まれていく

星「愛紗！鈴々！」

雪蓮「いま助けるからね！」

ガシッ！

星と雪蓮は愛紗と鈴々が引きずり込まれないよう引っ張りあげるが  
どんどん引きずり込まれていく

水虎ヤミー「ゲシシッ！」のまま全員水圧で潰してやるぜ！

オーズ「ここのヤロー！」

じたばたつ

オーズは水虎ヤミーの中で必死に暴れまくる。

水虎ヤミー「んなことしたって俺は痛くも痒く（かゆく）も…」

ところがだ

ドカッ！

水虎ヤミーの中へ暴れていたオーズの腕が何かに当たり、その瞬間：

水虎ヤミー「ギャーッ！？」

シユバツ！

いきなり水虎ヤミーが痛がつてオーズから離れ出した。

しかもその時に

ポイッ！

持っていたライオンコアメダルまで投げてしまい

アンク「いただきだぜ！」

パシッ！

ライオンコアメダルはアンクに奪われてしまった。

愛紗「大丈夫ですか映司殿！？」

オーズ「ゲホホッ！助かったけど一体何が起きたんだ？」

オーズが水虎ヤミーが離れた理由を考えていると

朱里「わかりました！」

遠くで戦いを見ていた朱里が何かをひらめいた。

朱里「おそらく映司さんの攻撃が当たったのはヤミーの核（いわゆる心臓のようなもの）だったんですよ。だから痛がつて離れたんです！」

簡単にいうと水虎ヤミーは自分の体の中にオーズを入れたため弱点である核を攻撃されたため離れたのである。

オーズ「ってことは、核を攻撃すれば倒せるわけか…そうとわかればもう一度攻撃してやる！」

ところがそうもいかない

水虎ヤミー「ゲシシッ！弱点がわかつたからって勝てると思つなかわるかな？」

シユババツ！

水虎ヤミーは水を使って自分の分身体を大量に作り出した。

水虎ヤミー達『体に入れなければ俺達の勝ちだ！さて本物がどれだかわかるかな？』

確かに外からでは核の位置がわからないのであった。

だがさつきまでと違う点が一つだけあった。それは…

アンク「映司！多少体が辛いだろ？が持ちこたえる！」

シユツ！ パシツ！

アンクはオーズに一枚のメダルを渡し、見事受けとるオーズ

オーズ「確かに大変だけどコンボをやるしかない！」

力チャカチャンツ！

キンキンキンツ！

オーズはメダルをオーズドライバーにセットしてスキャンせると

ドライバー『ライオン・トラ・チーター』

ドライバー『ラタラタ、ラトワーダー！』

ジャキンツ！

オーズは新たな形態であるラトラーターコンボに変身した。

愛紗「あれが前に言つていた」らとらーたー”か！？」「

鈴々「カッコいいのだ！」

雪蓮「また変化するなんですか？じゃない！」

そしてラトラーターコンボにチョンジしたオーズは

オーズ「みんな離れて！」

全員『えつ？』

パアーツ！

いきなり全身を光らせると

ビカツ！！

川の水をも蒸発させる熱線・ライオディアスを放出させた。（変身  
したら勝手に放出するため制御不能）

桃香「あつい～つー？」

オーズ「めんなさい！」

オーズが予め教えたおかげでなんとか助かったがこの技は近くに人  
がいると危ない技である。

アンク「謝っている場合かー。ヤミーを見てみろ！」

もちろんライオディアスを食らったのは桃香達だけではなく

水虎ヤミー達『ギャーッ！？』

ジユジユ～ツ！！

熱線を食らった水虎ヤミーの分身体は水で作られているため次々と

蒸発されていき

水虎ヤミー「なつ！？」

残るは一人となつた。

しかも残念なことに

くつきり

熱線を食らつたせいで液体化ができなくなり隠されていた核が浮かび上がつてしまつた。

水虎ヤミー「ヤバイ！？逃げないと！？」

ダダツ！

水虎ヤミーは慌てて逃げようとするが

オーズ「逃がすかよ！」

シユンツ！

ラトラーラーになつたオーズは100mを3秒台で走る」とができるので

シユタツ！

水虎ヤミー「ゲツ！？」

逃げ切れるはずがなく前に回り込まれてしまつ。

そして

キンキンキンッ！

ドライバー『スキャニングチャージ！』

オーズがメダルをスキャンさせると

バチバチッ！

オーズ「ハアーッ！」

ダッ！

オーズは全身を光らせながら水虎ヤミーに近付き

オーズ「せいやーつ！」

ズバッ！

水虎ヤミー「ぐおーつ！？」

トランクロード十字に切り裂いた。

そして水虎ヤミーは

水虎ヤミー「がはーつ！？」

ドッカーンッ！！

必殺技のガッシュユクロスを食らった水虎ヤミーは爆発していった。

桃香「すつ」ーい！」

愛紗「お見事です！」

カシャツ！ シュンッ！

そしてオーズが映司に戻ると

映司「さすがに大変だつた！？」

バタリツ！

その場に倒れる映司

実はラトラーダコンボは一番体に影響を受けやすく普通はトライドベンダーと一緒に使って体力の消費を抑えるのだ。

愛紗「大丈夫ですか！？」

鈴々「お兄ちゃんが倒れたのだ！？」

倒れた映司に集まる桃香達

一方雪蓮は

雪蓮「あの”おーず”的力があれば我が孫家が袁術から独立する

のが早くなるわね」私は色仕掛けで仲間になつても「うつ

と」

そして雪蓮が映司に近づいてみると

ガシッ！

いきなり雪蓮の肩が捕まれた。

雪蓮「ちよつと…句をかくる…」

くわつ

雪蓮が肩をつかんだ人に文句を言おうとする

冥琳「やつと見つけたぞ」の馬鹿王が

「ガガガ…！」

そこにいたのは鬼の角を生やした冥琳だつた。

雪蓮「め…冥琳！？」

冥琳「お前という奴は！ いくら会いたくないからつて逃げ出すやつ  
がいるか！ 帰つたらしじまく酒は禁止だから覚悟しておけ！」

雪蓮「いや～ん！？」

そして雪蓮は冥琳に引きずられながら去つていつた。

呉の城

美羽「おお孫策よ、ぎりぐり腰は治つたのかえ？」

雪蓮「はあ？」

しばらくの間、美羽の相手をせられた雪蓮だった。

## 12 「勲と核と猫系コンボ」（後書き）

SCOUNTSMEDALS

現在オーズの使えるメダルは

タカ	2
トラ	1
バッタ	1
カマキリ	1
チータ	1
クワガタ	1
ライオン	1

### 13 「陰謀と脱獄とガメル復活」

桃香達があてもない旅を続けていた頃

世間では大変なことが起きていた。

洛陽

かつて平和だったこの国はもはや入っ子一人もなく、辺りを見れば

屑ヤミー「ギギーン！」

街は董卓軍の鎧を着た屑ヤミーで溢れていた。

そしてその状況を城から見ていた人達がいた。

洛陽の城

? 「ちうくしょーーあいつらこの国で好き勝手しあつてからにーー

」

董卓軍武将・張遼（真名を靈）

? 「我々の力が足らないばかりに！」

同じく董卓軍武将・華雄

? 「あんなやつを仲間だと言われてねねは悔しいのです！」

「

董卓軍軍師・陳宮（真名をねね）

? 「…でも従わないと月がひどい田にあわされる」

董卓軍武将・呂布（真名を志）

彼女達だって本当は暴れたいのだがそれをしない理由は主君である董卓がひどい田にあわされないためである。

牢屋

董卓「…」

? 「ゆえ月、元氣出しなよ」

この場所で董卓（真名を月）が軍師である賈駆（真名を詠）と一緒に捕らわれていた。

詠「あいつらつたらひどいわね…またこの街から住民が出ていったわ」

詠が言つと

月「詠ちゃん、私が悪かったのかな？私があの時しつかりしていてたら大丈夫だったかもしれないね」

詠「月…！」

ことの始まりは数日前、月が皇帝である劉弁、劉協兄弟に呼ばれて洛陽に来たときのこと

劉弁「董卓よ、今までよく頑張ってくれたな。ではこれより朕（ちん・皇帝が使う私）から褒美があるから受けとるがよいぞ」

まだ小さな皇帝兄弟から月が褒美をもらおうとする

スツ！ ガシツ！

劉協「うつー？」

劉弁「協！？」

月「あなたは誰ですか！？」

いきなり劉協が捕まってしまい捕まえた犯人はといふと

ラグル「俺の名はラグル、この街を俺に明け渡せ！さもなくばこのガキを殺す！」

現れた犯人はラグル（謎のグリードの名前）だった。そして劉協を縛め付けるラグル

劉協「兄上…こんな悪党に洛陽を明け渡したらダメです！」

捕まりながらも何とか拒否しようと劉協に対し

ラグル「ガキは黙つていろ！」

ギュッ！

劉協「うつー？」

ラグルは劉協を締め付ける手に力を込める。

劉弁「やめるのじゃーお主の話を聞くから協を離すのじゃー？」

それを聞いたラグルは

ラグル「最初から素直に聞けば良いんだよー。」

パツ！

ラグルは劉協を締め付ける手を離す

ラグル「用件はただ一つーこの街は今日から俺のものだ！邪魔な皇帝達はおとなしくしてもらひやー。」

シユバツ！

そしてラグルの後ろから現れた肩ヤニー達が現れると

ガシツ！ ガガシツ！

皇帝兄弟を捕らえる。

ラグル「そいつらは地下牢にでも入れときなー。」

肩ヤニー「ギギーンー！」

劉弁「離すのじゃー。」

「

劉協「朕達を離せ！」「

そして皇帝兄弟は脣ヤミー達に連行され地下牢に入れられた。

ラグル「さひと

そしてラグルは次に刃を見ると

ラグル「あんたには名前を偽つさせてもうつざー逆らつたら皇帝兄弟の命はないぜ！」「

月「へう～！？」

それから数日後

ガシャンッ！

洛陽の街では董卓軍の鎧を着た脣ヤミー達が暴れまくっていた。

脣ヤミー「これより洛陽は董卓様が支配する一意義をいつ奴は処刑だ！」

住民「ふざけるんじやねえ！」

無茶をいつ脣ヤミーに一人の住民が逆らおつとするが

脣ヤミー「お前は『董卓様反逆罪』で死刑だ！」「

ズバッ！－

住民「ぐはー！？」

住民はあつとこう間に斬られてしまった。

それからといふもの

『脣ヤミー』『洛陽呼吸税』を取る！

『脣ヤミー』董卓様への貢ぎ物としてこの家の食料をもつて。』

そして住民達の話のなかでは

『董卓はひどい奴だ！』

『横暴だ！』

とこう董卓の悪い噂が流れていた。

それからといふもの

ピュンッ！ ガツンッ！

兵士「いたつ！？」

住民「董卓は洛陽から立ち去れ！」

住民「お前らなんて死んでしまえ！」

住民の怒りが爆発し、その結果本物の董卓軍兵士にまで被害が及んでいた。

兵士「このつ！」

兵士「よせつ！董卓様が住民を傷つけてはいけないと言つていただろつ！」

真実を話したい兵士達だったが話したら月や皇帝兄弟の命がないと脅されているので何もできなかつた。

だが兵士の中には

兵士「（この事を他の諸侯に知らせて助けてもらひやつ！）

夜の闇に紛れて抜け出そうとするものがいたが

ラグル「お前、何をする気だ？」

兵士「へつ！？」

ズバッ！

抜け出そうとした兵士は次々に殺されていった。

とこうことがあつたのだった。

詠「月は悪くないよー悪いのはラグルっていう奴だよー！」

月「詠ちゃん……」

詠が月を励ましていると

ラグル「麗しき友情つてか　　」

ガタンッ！

いきなりラグルが現れた。

詠「いつたい何の用よ！　　」

ラグル「そう怖い顔をするなよ一つ話をさせに来たのを、ようやく準備が整ったからそろそろ諸侯にこの事を伝えにいくぜ！董卓が洛陽を地獄に変えたってな！」

実はこの日まで各諸侯が間諜スパイを送り込んで洛陽の様子を調べていたのだが脣ヤミーとラグルによつてみんな殺されたため誰一人として洛陽の様子を知る諸侯がないのだ。

つまりこのままでは月が悪人にされようとしている。

恐ろしい話を聞かされた月は

月「何でそんなことをするんですか！？私に何か恨みでもあるんですか！」

ラグルに向かつて叫ぶと

ラグル「恨み？そんなものはない！ただ俺はあるお方の命令を聞い

ているだけだ』

そのあるお方とは知つての通り現在は療養中の左慈である。

詠『アンタ！そんなことのために用を利用するなんて許さないわよ！』

ラグル「黙れ下等な人間め！では俺はしばらく去るが逃げられると思つたら大間違いだぜ！」

スツ チヤリンッ！

ラグルは自分にセルメダルを入れると

ズズズツ…！

ラグルから三体のヤミーが産まれた。

ラグル「お前達はこの城に潜んでいろ！歯向かう奴は殺せ！」

ヤミー達『かしこまりましたラグル様！』

ラグル「それじゃあ行つてくるぜ！」

そしてラグルは牢屋から立ち去つていった。

ヤミー「それじゃあ俺達も潜むとするか！」

ヤミー「ラグル様の命令だしな！」

ヤ//ー「肩ヤ//ー、しっかり見張りておけよ。」

そして三体のヤ//ーも見張りを肩ヤ//ーに任せ立ち去つていった。

ヤ//ー達が去つていた後

月「詠ちやんがひじよひー・このままじや洛陽が戦場になつちやうよ! ? 」

詠「落ち着きなさい月ーそれよつこいつを見てよ。」

スツ !

詠は月に何かが入つた袋を見せる。

月「詠ちやん、これつて何なの? 」

月が聞くと

詠「あの変な体をした奴ラグ儿が頭に入れていた硬貨が入つてゐる袋だよ。実はボク達が捕まつた時に一袋奪つておいたんだ。何に使うかわからなかつたから黙つていたけどまさか化け物を作る道具だったとわね! ? 」

実際はそうとも限らないのだが実際ヤ//ーを産み出すところを見た詠はそう思つていた。

詠「この袋があればとりあえずもう化け物は作れないはずだよ。これを持つて月は逃げなさい! 」

詠は月にセルメダルが入った袋を渡す

月「詠ちゃん、逃げるといつてもビーハヤッて逃げるの？牢屋の前に  
は見張りがいるよ」

月が聞くと

詠「それなら大丈夫 さっき思い出したんだけビの牢屋は……」

ググツ！

詠が一つだけ色の違う煉瓦を引っ張ると

ガラツ！

そこに小柄な月ならば通れる隙間が出現した。

詠「この牢屋、前に恋が鍛練した時に壊したまんまだつたのを思い出したのよーあの時恋が適当に直したお陰で助かつたわ」

確かに煉瓦を引っ張るだけで崩れるなら適当だといえよ。

詠「ああ月ー月くらいの体なら通れるから硬貨を持って逃げなさい  
！見張りはボクが引き付けておくから」

だが月は

月「ダメだよ！私が逃げ出したら詠ちゃん達がひどい目にあわされ

るよー？」

行くのを嫌がると

詠「ボク達なら大丈夫だよ。月のためなら死ぬのだって怖くないからさ」

月「でも…」

詠「平気だつて！月には前に拾つた変な生物が描かれた硬貨だつてあるんだしさ！それをボクだと思つて行きなよ！」

月「詠ちゃん…」

そして月は

月「必ず助けに来るからね！」

行く決意をした。

詠「待つてるよー！やーいつー！そこの見張り！」

肩ヤミー「ギッ？」

詠「か弱いボク達を捕らえる」としかできない馬鹿者め！」

肩ヤミー「ギーッー！」

そして詠が肩ヤミーを引き付けている間に

月「わよなり詠ちゃん！」

スツ

月は穴を通り牢屋から脱出した。

そして外に出た月は

月「とりあえずこの国の危機を人に知らせないと…」

洛陽の真実を知らせにこいつとする。

月「でもこの服じゃ動きにくく立つから…」

今月は通常服姿である。確かにこのままでは立つので悪いと思  
いながらも空き家の中に入つて服を頂戴することにして、町娘の服装  
に変えた。

月「それじゃあ急がなくちゃ！」

ダツ！

わつきよりかは動きやすい服に着替えた月は急いで洛陽を駆け抜け  
る。

しばりくして

月「ハアハア…もうダメ！」

洛陽は広く、あともう少しで抜けるとこついで月はへばってし

また。

だが月が急いでいると

肩ヤミー「ギギー！」

街をうひうひ歩いていた肩ヤミーに見つかってしまった。

月「見つかっちゃった！？」

ダツ！

慌てて逃げる月だが肩ヤミーとはいえ疲れた月が逃げ切れるはずがない

月「へうつー？」

バタツ！

うつかり転んでしまった。

ジャララーッ！

しかも転んだ拍子にセルメダルが入った袋も持っていた硬貨も落としてしまい月に危機が訪れる。

肩ヤミー「ギギー！」

月に迫る肩ヤミー

月「（「めんね詠ちゃん、必ず助けに来るって言つたのに）」

月が死を覚悟したその時

「ガガガッ…！」

肩ヤミー「ギッ！？」

月「何の音ですか！？」

偶然にも月が持っていた硬貨サイコアメタルがセルメダルの中に埋もれていたため

グニョニョッ！

セルメダルが人の姿に変化していき

スッ！

サイコアメダルが入った途端

バーンッ！

？「ウウウ…」

重量系怪人のガメルが誕生してしまった。

### 13 「陰謀と脱獄とガメル復活」（後書き）

ヤミーファイル

水虎ヤミー

体を液体化させたり水で分身を作る強敵だが核を攻撃されるとヤバイ

ガメル

重量系怪人。象の鼻と牙、サイの角を備えた頭部、ゴリラの腕とゾウの脚、厚い皮膚をもち屈強ボディの持ち主。そのパワーがグリードの中でもトップクラスなのだが頭が悪く幼稚っぽい

## 14 「ガメルと護衛と馬鹿」（前書き）

前回の三つの出来事

一つ、ラグルが董卓の名を語つて洛陽にて大暴れ

二つ、危機を知った董卓が洛陽から脱出

三つ、逃げ出した董卓に肩ヤミーが襲いかかるなかグリードの一人  
ガメルが出現した。

## 14 「ガメルと護衛と馬鹿」

ガメル「ウウウ……」

偶然にも月が持っていたサイコアメダルがセルメダルの中に埋もれていたためグリードの一人ガメルが復活してしまった。（グリードはたとえ倒されても核となる頭部のメダルと大量のセルメダルがあれば復活できるのだ）

屑ヤミー「ギギーン！？貴様はラグル様に殺られたガメル！？」

ガメル「ここどこ？メズールどこ？」

メズール：グリードの一人である女怪人。水の属性をもちガメルに気に入られている。

ガメルが辺りを見ていると

ガメル「んっ？」

月が屑ヤミーに殺されようとしているのを見たガメルは

ガメル「（あの子は確か……）」

ガメルはまだ自分がコアメダルの時のことと思い出していた。（グリードはコアメダルの時でも意識を持っているのだ）

数日前

月「詠ちゃん、変わった硬貨見つけたよー。」

詠「確かに変わっているけど見たことないからきっと偽金よ使えないじやない？」

詠が言うと

月「たとえ偽金としてもせつかく拾ったんだから私の宝物にするよ。」

それからといふもの、物を大事にする月は

暇があればコアメダルをみがき、時には話しかけるなどを繰り返していた。

月「私のお守りにしようと 私に何かあつたら助けてください。」

そしてコアメダルそう言った時、ガメルの心の中には

現在

ガメル「月を守るわー！」

月を守るという意識が芽生えていた。（もし他のグリードなら月を見捨てていたのかもしれない）

ガメル「うおーっ！」

ビデーツー！

ドンッ！！

肩ヤミー「ぐはつー？」

そして、ガメルは肩ヤミーに突進して突き飛ばした。

ガメル「月を…」

グググツ！！

ガメル「守る！」

ガバッ！！

ガメルにはグリード隨一のものすごい怪力がある。ガメルはそこら辺にあつた大岩を持ち上げると

ブンッ！！

肩ヤミー「ギギーツー？」

プチッ！！

肩ヤミーに投げつけて大岩の下敷きにした。

ズズズツ…

そしてガメルは月に近寄ると

ガメル「俺、月を守る！」

ちなみに今のガメルはコアメダルが一枚しかないので復活しているのは頭部だけで後は黒い体となつていて。この状態の場合ガメルを気味悪く思うのが普通なのだが優しい月は

月「危ない」といふを助けてくれてありがとうございます」

二〇三

につこり笑顔でガメルを見る月

ガメル - よろしく // //

それを見たがメルは顔を赤くするのだった。

月「そうだった！？」うしちゃいられない！早く洛陽の危機を知らせなくちゃ！」

月が急いでいると

ガメル「俺も行く！」

月についていこうとするガメルだが

月についてくれるのはありがたいですけどその姿じゃ…」

ガメルの姿ははつきりいつて怪人である。そのためおもいつきり目立つのだつた。

ガメル「大丈夫」

ガメルが言うと

スツ

ガメルの姿は怪人体から人間体であるシルバーの服を着た長身の男に姿を変えた。

ガメル「これで大丈夫！俺、月を守るためについていく！」

月「はあ…ありがとうございます！」

少々驚きながらもガメルを護衛につれていくことにした月だった。

その頃、袁紹の城では

？「麗羽様、洛陽からきた人が麗羽様に会いたいようです！」

緑の髪をした文醜（真名を猪々子）が主人である袁紹（真名を麗羽）に報告していた。

麗羽「洛陽？確かに送り込んだ間諜が戻つてこない未知の街でしたわね、いいでしょ通しなさい！」

麗羽の城・玉座の間

この場には麗羽と部下の猪々子、顏良（真名を斗詩）と洛陽から来た人以外誰もいなかつた。

麗羽「わたくしは忙しいです、用件があるなら早く話しなさい！」

「

と言つているがさつきまでおもいつきりくつろいでいた麗羽

人「では率直に申し上げます。実は袁紹様に洛陽を救つてほしいのです！」

人が言うと

麗羽「どう一ことですか？」

人「実は洛陽では董卓が住民から暴税をとつたり、虐殺したりと悪事を働いているのです！皇帝である劉弁様、劉協様が人質にとられているため逆らつとも許されないので！」

麗羽「何ですつて！？皇帝様が人質に！？」

人「私は仲間が逃がしてくれたので何とか逃げることができましたが洛陽を救いたいがため兵力、魅力が豊富で高貴な袁紹様に助けを求めたのでござります！どうか洛陽をお救いください！」

人が麗羽に伝えると

麗羽「兵力、魅力が豊富で高貴…。おーほつほつほつ！貴方は人を見る目がありますわね！わかりましたわ洛陽を救うためこの袁紹が一肌脱いで差し上げますわ！」

おだてられると調子にのつて何でも引き受けてしまつ麗羽だった。

人「ありがときお言葉でござります！だが董卓軍には猛者が勢揃い

ですでの袁紹様を危険にあわせるわけにはいきません。そこで辺りの諸侯に猛者共の相手をさせればよろしいかと

麗羽「確かにそうですわね、高貴なわたくしが怪我をしたら全人類が泣きますわ。猪々子、斗詩！すぐさま各諸侯に文を出しなさい！」

「

猪々子・斗詩『あらほらさつさー！』

ササツ！

そして部下の二人がいなくなると

くるつ

麗羽「貴方には部屋をとらせますのでゆつくりと…」

麗羽は洛陽から来た人の方を見るが

ぽつん

人はいなくなっていた。

麗羽「あら、気の早い人ねもうお帰りになつたのかしら？」

麗羽の城・屋根

人「左慈様の言つ通りあいつは単純な馬鹿だったな」

スツ

そして人はラグルへと姿を変える。

ラグル「後は洛陽での戦いを待つのみだな」

ラグルがそう言った時

ズキンッ!!

ラグル「ごふつー?」

急にラグルが苦しみだした。

ラグル「この感じはまさか!?」

スッ!  
ジャララツ!

そしてラグルは自分に入れておいたメダルを出してみると

ブルルッ!!

ゴリラメダルとゾウメダルが震えていた。

ラグル「やはり!?  
この感じはグリードが復活した証、このメダル  
が震えていたということはガメルが復活したということか!?

ラグルはメダルの異変に気づくと

ラグル「アンクが復活させるわけがないし、他のメダルは俺がほど  
んど持っている、そしてアンクと俺以外にメダルを知っている奴は

…「

ラグルが少し考えると

ラグル「董卓だ！？」

ビュンッ！！

ラグルは急いで洛陽の城に向かっていった。

それからしばらくして、

洛陽の城

スタッ！

ラグルが洛陽の城に着くと

ヤミー「これはこれはラグル様、お早いお着きで」

ヤミー「これで洛陽が戦場になればセルメダルが稼げますね」

ヤミー「さあかしあの方も喜ぶでしょう」

三体のヤミーが出迎えるなか

ラグル「董卓はどうした！？」

ラグルが聞くと

ヤマリー「あの小娘達なら肩ヤマリーに見張りがいるこありますが…」

ラグル「馬鹿野郎！！」

スツ

ラグルは牢屋に向かっていく

牢屋

肩ヤマリー「ギギギーッ！ラグル様！」さざんよ…

ラグル「退きやがれ！」

ドンッ！

ラグルは見張りをしていた肩ヤマリーを突き飛ばして牢屋を見てみると

バンッ！

牢屋の中に董卓（円）はいなく、詠しかいなかつた。

ラグル「しまつた！？逃げられた！？」

考えたくなかつた眞実に驚くラグル

詠「へんつーぞまあみなさいアンタの野望もこれでおしまこよー！」

牢屋にいた詠が言つと

ガチャリツ！

スタスタッ

ラグルは鍵を開けて牢屋に入り込むと

ドグボッ！！

詠「あやつー？」

力一杯詠を殴った！！

ラグル「なめるなよ下等な人間が！！　お前にはまだ利用価値があるから殺さないでやるぜー！」

スタスタッ

そしてラグルは牢屋から出ると

ラグル「お前達！必ずやオーブと董卓を見つけ次第殺せ！もし殺し損ねたら命はないものと思えわかつたな！！！」

ラグルが叫ぶと

ヤミー達『わかりました！？』

ラグルの気迫に怯えるヤミー達だった。

ラグル「俺はガメルを殺していく！貴様いらはせつと変身して準備しておけ！」

ヤミー達『りょ…』了解しました！？ 』

ズズズッ…

そしてヤミー達はミイラのような姿から

ジャキンッ！

怪物体へと変身してしていった。

普通ヤミーは欲望を叶える前は大抵ミイラのような姿をしているが時には怪物体へと変身するのだ。（テレビではウヴァやカザリ、アンク（ロスト）のヤミーのみ）

そして三体のヤミー達はそれぞれ

網切ヤミー、塗り壁ヤミー、牛鬼ヤミーへと姿をえていった。

牛鬼ヤミー「シ水闘には網切、虎牢闘には塗り壁がいけ！俺は万が一のため皇帝を見張る！」

網切ヤミー「わかつたダンス！」

塗り壁ヤミー「任せたダス！」

いよいよ二国志の中でも大きな戦いが始まろうとしていた。

#### 14 「ガメルと護衛と馬鹿」（後書き）

PS2版 真・恋姫†夢想

ついに発売しました。

もちろん西森は購入しました。完全クリア頑張ります。

## 15 「反董卓連合と総大將と大馬鹿」（前書き）

ついに洛陽での戦いが幕を開ける。

## 15 「反董卓連合と総大將と大馬鹿」

旅を続ける映司達はとある街にて

『洛陽が魔王董卓に支配された…我こそはといつ腕自慢は戦いに協力すべし!』

と書かれた立て札を見かけた。

鈴々「お兄ちゃん、これってどういふことなのだ?」

内容が理解できていない鈴々が映司に聞くと

映司「つまり董卓つていう悪い奴がいるから強い人は集まつてつて書いてるんだよ」

簡単な説明をする映司

桃香「洛陽の人々が苦しんでいるならほつとけないね!」

愛紗「私達も向かうとしましょ!」

そして桃香達は反董卓連合の本部に参加を申し込みに来た。

受付「え~つと、劉備に关羽、張飛、趙雲、諸葛亮、鳳統それと火野映司とアンクですね。わかりました」

何とか受付を済ませたかと思いきや

受付「では所属する軍を申してください」

桃香「へつ？」

受付「へつ？ではありませんよー少人数で来た者は軍に所属するこ  
とになっていますので」

桃香「え～っと、所属軍もなにも私達も一団なんですか？」

桃香が受付に言つと

受付「たつた8人で軍だつて！？からかうなら帰つてくれこいつだ  
つて忙しいんだ」

鈴々「鈴々達はからかつてないのだ！ホントのことを言つてるだけ  
なのだ！」

鈴々が受付に怒鳴ると

受付「子供は黙つていろー単独で戦いたいなら有名軍の推薦文でも  
持つてくるんだな」

受付が言つと

？「だったら私が推薦してあげるわよ」

後ろから声が聞こえてきたので受付が振り向くと

受付「そ…曹操殿！？」

そこには曹操（華琳）がいた。

華琳「私の推薦じやあ役不足かしら？」

受付「とんでもない！曹操殿の推薦ならば喜んで受け付けます！？」  
さあさつさと入れ！」

華琳の姿を見た途端、受付の態度があきらかに変わった。

そして何とか入れた映司達は

映司「ありがとう曹操」

華琳にお礼を言つと

華琳「あら、あなたには私の真名を許したはずよ。構わないから華琳と呼びなさい」

鈴々「じゃあかり」

華琳「あなたには真名を許してないわ！」

細かい華琳であった。

華琳「まあともかく正義感が強いあなた達なら悪人をほつとくはずがないと思つていたわ」

桃香「あれっ？曹操さんは違うんですか？」

華琳「私はあなた達とは違うのよ、私は自分の霸道のために連合に

参加しているのよーまあ今度は数に頼らないけどね

前の戦いは数だ!という性格から少しは改善された華琳だった。

華琳が映司達と話していると

?「あらつーあなた達!」

どこからか聞いたような声が聞こえてきた

雪蓮「久しぶりじゃない

映司「雪蓮!?

そこにいたのは孫策こと雪蓮だった。

華琳「あなた達、孫策と知り合いだつたとわね!?

そのことに驚く華琳

雪蓮「あなた達が来てくれたら百人力どころか千人、いや万人力よ  
!期待してるからね!」

それは少しオーバーである。

とそこへ

?「お前達久し振りだな!」

いきなり誰かがやって来た。

映司「えへっと、あなたは確か…公贊孫さん…」

鈴々「違うのだお兄ちゃん！孫公贊なのだ！」

アンク「ハムだろ？」

白蓮「わざとまちがえてるだろ？！私の名は公孫贊だ！」

実はわざとではなくマジだつたりする。

桃香「そつだよ名前を間違えるなんて失礼だよーごめんねパイパイ  
ちゃん」

白蓮「ぱいれん白蓮だ！」

親友であつた桃香にまで間違えられたことに怒る白蓮

愛紗「みんない加減にしろー早くしないこと軍議が終わつてしまつ  
だろ！」

しびれを切らした愛紗が怒鳴ると

華琳「うう…！？」

雪蓮「あつ…！？」

急に黙りこむみんな

映司「どうかしたの？」

映司が聞くと

白蓮「その…まだ軍議は始まつてないんだ」

白蓮が言った瞬間

朱里「何故です！事態は一刻を争うとこいつに！」

雑里「洛陽を早く救わないといけないのに…」

白蓮に朱里達が詰めかけると

白蓮「私が悪いんぢやない！文句なら直接袁紹に言つてくれ！」

白蓮から話を聞いた映司達は袁紹がいる天幕に集まった。

袁紹（真名を麗羽）「あら、あなた達も連合軍に参加して貰ひたるのね、手勢が増えて大助かりですわ！」

桃香「そんなことより早く軍議を始めましょうよ！」

桃香が言つと

麗羽「ダメですわ！まだ足りないものが一つありますもの…」

麗羽が言つと

朱里「足りないもののつて兵力ですか？」

鈴々「ご飯なのだ！」

映司「軍資金？」

映司達が足りないものを言つてみるが

麗羽「あなた達お馬鹿じやありませんの？足りないものそれはすな  
わち、みんなをまとめあげる総大将ですわ！だけども総大将なんて  
危なくて責任感のある役目を誰もやりたがらなくて困つてますの、  
ああ、この連合軍には高貴で美しく統率力もある、まるでわたくし  
のような人物が総大將にふさわしいというのに誰もやりたがらない  
なんて困りましたわ」

この話を聞いて映司達全員が思つた。

全員『（絶対この人がやりたいんだ！）』

だが麗羽は自分からではやらない性格である。

しかし「のまま軍議が開けないと何のために集まつたのかわからな  
くなるため

桃香「もうっ！それなら袁紹さんが総大將をしたらいいじゃないで  
すか！」

しびれを切らした桃香が言つと

麗羽「え～っ！？わたくしが総大將をするなんて困つてしまします  
わ！でも劉備さんがどうしてもといななり引き受けてもよろしくて  
よ！」

アンク「なあ映司、こいつって馬鹿だ…」

ガバッ！

映司「今はそんなこと言つなよ…」

その先を言おうとするアンクを止めようとする映司

もし目の前で言つたならこの場が戦場になりかねない

桃香「わかりましたお願ひします！」

桃香が麗羽に言つと

麗羽「おーほっほっほっ！劉備さんにそこまで推薦されたら仕方ありませんわね！わかりました。このわたくしが総大将を引き受けますわ！その代わり劉備さんはわたくしを総大將に無理矢理押しつけた責任としてわたくしの命令には絶対服従でお願いしますわ！」

桃香「はい…」

なんてことを言つてしまつたんだもんと今さら悔やむ桃香

そんな桃香に

ぽんつ！

映司「大丈夫だつて！俺達もフォロー…補助するからさ！」

愛紗「映司殿の言つ通りです」「

鈴々「鈴々も手伝うのだ！」

朱里・離里『私達もお手伝いしましゅ！』

星「皆が手伝うのなら私も手伝わなくてはなるまい」

桃香「みんな… ありがとう！」

優しき仲間に囲まれた桃香は幸福者だった。

アンク「フンッ！俺は協力なんてしないからな」

ただ一人を除いて

麗羽「劉備さん、なにをぐずぐずしますのー軍議を始めますから早くなさい！」

さつきまでぐずぐずしていた人に言われたくないセリフである。

そして全軍が一つの天幕に集まつた。

麗羽「おーほつほつほつ！この度総大将に推薦された袁紹ですわ！まずは皆さん自己紹介から始めましょー！」

麗羽が言つと

美羽「妾の名は袁術のじやーそしてこつちが部下の孫策なのじやー！」

雪蓮「はじめまして孫策よ　」

美羽「胸が大きすぎた嘘を真に受けていた。」（11参照）

美羽はまだ蓮華が言つた嘘を真に受けていた。（11参照）

だが馬鹿にされた雪蓮は

雪蓮「（このクソガキ！　覚えてなさい！攻め混んだ時にお漏らししても許してあげないんだからね！）　そうなのよ、もう胸が大きいと大変ね～　」

怒りを心の中に押さえ込みながら笑顔をするのだった。

華琳「陳留の曹操よ、ようしく　」

馬超「西涼の馬超だ！病に倒れている馬騰に代わってきたぜー。」

白蓮「私は公…　」

麗羽「それでは最後に…　」

麗羽が白蓮のセリフを遮る（ささえ込む）と

麗羽「この場にたつた八人しか来なかつた愚か者の劉備さんですわ！」

麗羽が桃香を馬鹿にするように紹介すると

馬超「八人つてマジかよ！？」

美羽「キヤハハッ！とんだお馬鹿よのう七乃」

七乃「はいお馬鹿ですねお嬢様」

回りが桃香を馬鹿にするなか

映司「じゃあその馬鹿に総大将にされた袁紹も馬鹿つてわけか」

麗羽「なつー？」

映司が麗羽に言い返した。

映司「人を馬鹿にするとその人も馬鹿だつていうからね（嘘です）」

「

アンク「ふつ！ 映司もなかなか言つじやねえか。確かにこいつ（桃香）を馬鹿にしたあいつ（麗羽）はもつと大馬鹿だ！」

麗羽「こ……このわたくしに對して無礼なこいつを捕らえなさい！」

「

散々馬鹿にされた麗羽は兵に命令するが

華琳「やめた方がいいわよ麗羽」

「

雪蓮「あの子の力はここにいる誰よりも強いからね

「

映司の力を知る華琳と雪蓮<sup>オーブ</sup>が言つと

麗羽「ならばわたくしを馬鹿にした罰として劉備軍に罰を下します！あなた達の力だけでシ水関を制圧しなさい！それができなければここから去りなさい！あなた達の力をわたくしに見せてくださいな！」

麗羽が言つと

映司「わかつたよ！ただし条件があるー！」

麗羽「なんですか？」

映司「もしシ水関を制圧できなら桃香に謝つてもいいですよ。」

バンッ！

桃香「映司さん…」

映司が麗羽に向かつて言つと

麗羽「いいでしきう！制圧できたら劉備をここに土下座でも何でもしますわ！」

麗羽が言つた瞬間

雪蓮「（袁紹つて袁術よりバカのよつね）」

華琳「（麗羽の土下座する姿が見れるなんて来たかいがあつたわ）」

「

アンク「（絶対あの馬鹿女を土下座させてやるぜ！）」

当然だが確實に麗羽が土下座すると思っていた三人がいた。

確かに人間相手ならばオーブに勝てる人なんて少ない

だが一つ誤算があつたとすれば

この戦いが人間の手ではなくグリードが絡んでいることをこの場にいる誰もが知らなかつたことだ。

その頃、ガメルを護衛に連合軍に真実を伝えに行つた董卓こと月は

月「こゝにビニですか？」

ガメル「俺、知らない」

道に迷つていた。

## 16 「シ水闘と叫びと猛獸バイク」（前書き）

前回の三つの出来事

一つ、桃香達劉備軍が反董卓連合に加わる

二つ、連合軍総大将に麗羽を推薦させてしまったため桃香は麗羽の命令に従わなくてはならなくなる

三つ、軍議にて麗羽が桃香を馬鹿にした発言をし、それに対しても司が麗羽に反論して劉備軍だけでシ水闘を戦つことを命じられる

## 16 「シ水関と叫びと猛獸バイク」

シ水関

この場所で華雄・霞率いる5万の兵々…

劉備軍8人の無謀な戦いが始まろうとしていた。

シ水関

映司「ごめんねみんな、こんな無謀ともいえる戦いにしちゃって」

映司は自分が麗羽を馬鹿にするような発言をしたことをわびると

愛紗「気にしないでください！」

桃香「そつだよおれを言つのはいつしかの方だよ。ありがとうございます映司さん

」

鈴々「鈴々達の力があの馬鹿（麗羽）に見せつけてやるのだ！」

星「それに映司殿が言わなくとも愛紗や私が言つていたでしょう。主君を馬鹿にされて黙っている方がおかしいですからな」

映司を慰めるみんな

朱里「とはいって、やはり戦力に差がありますね」

確かにいぐらなんでも戦力から考えて8人…いや、戦えない桃香と

朱里達とアンクを除けば残りは4人

対する董卓軍は5万

普通に戦えば絶対勝てないのだった。

だが忘れちゃいけない。劉備軍には最強の力があることを、それは…

アンク「オーズの力を使え！そつすりや何とかなるだらう」

こちらには普通の人間ならば相手にならないオーズがついているのだ。

映司「人間相手にオーズの力は使いたくないけど仕方ないか」

不本意だが映司だってオーズの力を使わなければ勝てないと感じていた。

鈴々「お兄ちゃん！ 緑の姿でいっぱい増やして戦うのだ！」

鈴々の言つ緑の姿とはガタキリバコンボのことである。

確かにガタキリバコンボは分身能力があるので数は何とかなるのだが

愛紗「馬鹿者！」“こんぼ”は映司殿に負担をかけることを忘れるな！ 映司殿、”こんぼ”はなるべくやめてください！

星「私は”らとらーたー”しか見ていないが確かにあの姿は体に負担がかかりすぎる」

桃香「それじゃあダメだよ！映司ちゃん、いんばは絶対禁止だからね！」

映司の体を遣つてコンボを禁止にするよつ言つ桃香達

映司「わかつたよコンボはござといつ時にしか使わないからさ！」

と言つていゐ間に

「オーンツー！

シ水闘から銅鑼の音ヒヨウが聞こえてきて

ドドドドオーツー！！

董卓軍が攻めてきた。

連合軍サイド

華琳「映司達は大丈夫かしら？」

雪蓮「さすがに無謀かもね」

映司達を心配する一人に対し

麗羽「おーほつほつほつーわたくしを馬鹿にした罰ですわー！」

高笑いをする麗羽

そして董卓軍が迫り来るなか映司が先頭に立つと

麗羽「あらつ、あのわたくしを馬鹿にした愚か者がいく氣ですか？」

そして映司は

アンク「映司、馬鹿女をびびらせてやれ！」

シユツ！ パシツ！

力チャカチャンツ！

キンキンキンツ！

映司「変身！」

アンクからメダルを受け取りオーズドライバーにセットしてスキヤンさせると

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジヤキンツ！

映司は仮面ライダーオーズに変身した。

そしてその姿を見た連合軍は

馬超「何だよあれ！？」

美羽「姿が変わったのじゃ！？」

一部を除いたみんながオーブの姿に驚くなか麗羽はとこうと

麗羽「フンッ…どうせあんなの見かけだけですわ！中身はどうせく  
つぽい…」

負けず嫌いな麗羽がオーブを見てみると

オーブ「めんなさい！」

ドカッ！

兵士「ぐくつ！？」

オーブは謝りながら次々と董卓軍兵士を蹴散らしていく

兵士「くそっ！大勢で囲むぞ！」

ずらりつ！

董卓軍はオーブを囲むように攻めてくる。

だが

アンク「フンッ！馬鹿な奴らめ！映司、メダルを変えろ！」

シユツ！ パシツ！

力チャツ！ キンキンキンッ！

アンクが投げたメダルを受け取ったオーズがスキヤンをせると

ドライバー『ライオン・トラ・バッタ』

ジャキンッ！

オーズはトラバにコンボチェンジした。

そして

オーズ「ハーツ！」

ビカーッ！

ライオンヘッドの能力である強力な光を董卓軍ライオナルフラッシュに向けると

兵士「ぐわつ！？」

兵士「眩しそぎて目が見えない！？」

そして兵士が怯んだ隙に

オーズ「ごめんなさい！」

ドカカツ！

オーズは傷つけないよう殴るのだった。

桃香「」のまま一気に攻めちやえー！」

だが桃香達は気づいていなかつた。

このシ水関の戦いにてまだ将である華雄と霞が出陣していなことを見

シ水関・董卓軍サイド

霞「あいつすげー奴やなー…」つの兵士が簡単に倒されると「？」

シ水関にて戦況を見ていた霞がオーズの強さに驚いていると

華雄「驚いている場合か！我が軍がおされているのだぞ！」

霞の態度に怒る華雄

ホントは彼女達だつて戦にいきたいのだがそれを止められていたの  
だつた。その理由は：

網切ヤミー「お前達邪魔な人間は退くべザンス！」

と網切ヤミーに言われたからである。ちなみに彼女達は月が逃げた  
ことは伝えられておらず逆らえば月に危害をくわえると脅されてい  
るのでつた。

網切ヤミー「やはり来たかオーズ、私が行くザンス！」

そして網切ヤミー率いる董卓軍が攻めていく。

シ水関・劉備軍サイド

愛紗「映司殿が頑張つてゐるのだ！我々も頑張るぞー。」

少しでもオーズの相手を減らすため勇猛に戦つ愛紗達

だがその時！

兵士「ぐはつ！？」

ドサツ！

愛紗の田の前にいた董卓軍の兵士が胴体を真つ一いつ切られて倒れてきた。

愛紗「（）の傷は剣で切られたにしてはおかしい、まさか…？」

愛紗が切つたものの正体に気がつくと

網切ヤミー「その通り！」

シユツ！

愛紗「なつー？」

サツ！ ビリリツ！

網切ヤミーの鍔ハサワが不意打ちを仕掛けていきなり襲いかかつてきただ。だが愛紗は持ち前の反射神経でうまく避けたのだがその時服をかすめてしまい胸のところを切られてしまった。

網切ヤミー「私の名前は網切ヤミー！あなた達を切り刻みに来たザンス！」

愛紗「くつー？」

愛紗が胸を隠しながら考える。愛紗とてヤミーの実力が自分を越えていることは気づいているのだが

愛紗「この関羽、敵に後ろを見せるようなものではない！」

ジャキンッ！

愛紗は青龍偃月刀を握りしめて網切ヤミーに向かっていく！

そしてそのよつすを遠くから見ていた桃香達は

桃香「大変！？愛紗ちゃんがやみーに襲われてる！？」

朱里「アンクさん、映同さんに伝令をお願いします！」

アンク「ちつ！仕方ねえな」

シユツ！

アンクは通信機能のあるバッタカンドロイドをタカカンドロイドにつれさせてオーブのモードに届ける。

ピキーン！

オーズ「あれはタカちゃん、何かあったのかな？」

オーズが戦いの最中空を飛ぶタカカンドロイドを見つけると  
バッタカンドロイド『映司さんー愛紗ちゃんがやみーに襲われて危  
ないからすぐに向かってー』

つれているバッタカンドロイドから桃香の声が聞こえてきた。

オーズ「何だつてー? わかった。今すぐこぐよー」

ダツ!

そしてオーズは愛紗のといひに急いでいった。

その頃、愛紗はといひと

愛紗「ハアハア…ー?」

愛紗は服をボロボロにされながらも田嶋オーズと鍛練していたおかげでヤミーの攻撃を急所からずらしていく。

ちなみに今の愛紗の上半身は下着だけである。

網切ヤミー「(この私の攻撃を避けるとはー?) いつなつたら服を  
気にせず惨殺してあげるザンスー!」

ジャキンッ!

網切ヤミーは鋏を広げて愛紗に襲いかかる。

だがその時！

オーズ「ちょっと待ったー！」

ブンツ！

網切ヤミー「なつ！？」

ガキンツ！

愛紗の危機にオーズが駆けつけるがオーズの攻撃は網切ヤミーに防がれた。

愛紗「映司殿！？」

オーズ「助けに来たよ愛紗！聞こえてるだろアンク、まだ董卓軍は大勢いるし時間もあんまりかけられないからコンボでいくしかない！あとバイクもね！」

このオーズの声はバッタカンドロイドを通じて桃香達と一緒にいたアンクのもとに届けられた。

アンク「フンツ！人使いの荒い奴だ！」

ブルンツ！

アンクはライドベンダーに乗つて向かおうとするが

桃香「待って！」

バツ！

桃香に前を塞がれた。

アンク「退きやがれこの野郎！」

アンクは桃香に退くよう叫びながら

桃香「どうしても行くと言うのなら、私も行く！もう見守っているだけなんて嫌だもん！」

桃香自身、自分が無力なのはわかっている。だからこそ何かの役に立ちたいのだった。

桃香の叫びを聞いたアンクは

アンク「フンッ！お前も少しほマシになつたようだな、死んでも構わねえなら乗りな！」

シユツ！

アンクは桃香にメットを渡すと

パシツ！

桃香「はいっ！」

ブルルンッ！！

桃香を乗せてオーズの元に走らせるアンクだった。

その頃、オーズは

オーズ「ぐはつ！？」

網切ヤミーに苦戦していた。

網切ヤミー「コンボでないオーズなんて私の敵ではないザンス！」

オーズ「くつそー！」

オーズが苦しんでいたその時！

ブオオンッ！

アンクと桃香を乗せたライドベンダーがやつて来た。

アンク「待たせたな映司！ほらよつ！」

シユツ！ パシツ！

アンクはオーズにチーターメダルを投げ渡す。

アンク「飛び降りるぞ！」

桃香「えつ！？」

バツ！

桃香「ひえーつー？」

そしてアンクは桃香と一緒にライドベンダーから飛び降りた。

オーズ「よしハー！」

バツ！

そしてオーズがライドベンダーに飛び乗ると

オーズ「一応持ってきて正解だったね！」

プシュッ！

オーズは持ってきたトラカンドロイドを起動させた。

すると…

ズズズッ… ガシャンッ！

『ガオーッ！…』

トラカンドロイドはライドベンダーと合体してライドベンダーに変形した。

オーズ「これでよしーあとは…」

カチヤツ！ キンキンキンッ！

オーズはメダルをドライバーにセットしてスキャンせざる

ドライバー『ライオン・トラ・チーター』

ドライバー『ラタラタ、ラトラーラー！』

ジャキンッ！

オーズはトラーラー・コンボに変身した。

桃香「あつー？ こんばを使つたら疲れるのにー？」

普通なら桃香の言ひ通りだが

「トライター・コンボはトライドベンダーに乗ることで体力減少を減らすことができるのだ。

おまけにトライドベンダーに乗れば高熱波のライオティアスも発動しないのであった。

オーズ「それそれーっ！」

ブオォンッ！

兵士達『ぐわーっ！？』

オーズはトライドベンダーで次々と兵士達を傷つけなにより倒していく

綱切ヤミー「おのれっ！ そんなバイクなんて切り裂いてやるザンス！」

網切ヤミーは鋏を構えてトライドベンダーを迎え撃とうとする。

だが

ベキベキッ！

網切ヤミー「なーつー!?」

トライドベンダーは逆に網切ヤミーの鋏を裂いていく！

そして網切ヤミーは無惨にもトライドベンダーに食いつかれるの  
だった。

オーズ「よし次は！」

そして網切ヤミーを撃破したオーズは

オーズ「逃げないと危ないですよ～！」

ブロローッ！

兵士達『うわーっ！？』

トライドベンダーで兵士達の中を暴れまわる。

そして兵士達はたまらず次の虎牢関へと逃げてこき、シ水関は連合軍に制圧されたのだった。

馬超「マジかよ！？たつた八人でシ水関を制圧しやがった！？」

美羽「七乃、妾は夢を見ておるのか！？」

七乃「お嬢様、私も見ているので夢ではありませんよ！？」

そして麗羽も

麗羽「・・・！？」

口を大きく開けながら驚いていた。

そしてシ水関を制圧した後

シユンツ！

映司「さすがに疲れちゃったな！？」

オーズが映司に戻ると

愛紗「映司殿、助けていただきありがとうございました！」

愛紗がお礼をいいに来た。

映司「気にしなくていいよだつて俺達仲間じやん それよりもや…  
服着なくていいの？」

愛紗「えつ？」

愛紗が自分の姿を見てみると

バーンッ！

今の愛紗は上半身下着姿だった。

そして愛紗は

愛紗「キヤーッ！－／／／」

戦いに夢中で今頃気づいたようだ。

バッ！

愛紗が胸元を隠すと

映司「気づいてなかつたの！？とりあえすこれで隠して！」

当然映司が渡したものは

バンッ！

もちろんパンツだった。

愛紗「上着を貸してください！」

## 16 「シ水闘とえびと猛獸バイク」（後書き）

ヤミーファイル

網きり  
切ヤミー

両手が鉗<sup>ハサミ</sup>になつている海老<sup>えび</sup>のような姿のヤミー。語尾にザンスをつけて話す。

## 17 「同盟と離脱術と公布」

シ水関を制圧した反董卓連合

そして一番の手柄を立てた劉備軍は約束通り麗羽に土下座で謝つて  
もうおうと本陣にやつてきたのだが

麗羽「い…今は大事な戦の最中でしょつ…土下座している暇なんて  
ありませんわ」

自分から言い出したくせにどうしても土下座をしたくない麗羽は長  
く引き伸ばして忘れてもらつ作戦にでてきた。

麗羽「とはいえシ水関を制圧した」褒美に劉備軍には休暇を与えま  
すのでゆつくりとお休みなさい！」

そして桃香達は次の虎牢関の戦いには参加せず休むことになつた。

劉備軍本陣

アンク「ちつ！絶対あのバカ女が土下座なんてするはずじゃないと  
思つていたぜ！」

映司「まあ待てよアンク、袁紹さんもいづれ土下座してくれると

」

散々バカにされながらも麗羽が約束を守つてくれる信じている映  
司に対して

アンク「お前バカか？人を信じるものもい加減にしろ。」

ダッ！

本陣を出でていこうとするアンク

映司「どっこくんだよー？」

映司が聞くと

アンク「これ以上ここにいたらあのバカ女にこき使われちまうからな、俺は少し別行動だ！念のためメダルは渡しておくれー！」

シユツ！

そしてアンクはタカ・トラ・バッタのメダルを投げてどこかにいつしました。

鈴々「アンコのお兄ちゃんが勝手に出でていったのだ

朱里「どっこくんだじょうか？」

映司「まああいつも桃香よりは強い方だし何とかなるでしょ

桃香「ふー！どうせ私は弱いですよーだ！」

プクツ！

映司「ごめんなさいー！」

ふくれる桃香に謝る映司

桃香達が愉快な会話をしていたその時

バサツ！

馬超「よつー邪魔するぜ」

桃香達の天幕に馬超が入ってきた。

愛紗「お主は確か馬超殿、何か用ですか？」

愛紗が馬超に聞くと

馬超「実はさ、あたしさつきシ水関を占領したあんた達を見直してな、協力しにきたんだよ！」

なんと馬超は桃香達に同盟を持ちかけてきたのだ。

馬超「軍議の時はバカにして悪かつたな、でもあんたの姿が変わって兵士を倒してるのを見たら胸がうずうずしてよ、あんた達と一緒に戦いたいって気分になつたんだ。頼む！せめてこの戦いの間だけでも同盟を組んでくれ！」

ガバツ！

馬超が頭を下げてお願いすると

桃香「馬超さん、頭をあげてください。私達に協力してくれるなら大歓迎ですよよろしくお願ひします」

桃香は馬超をむかえたことにした。

馬超「ありがとよー同盟の話だ。あたしの真名の翠をあんた達に預けるぜ！」

桃香「それじゃあ私達もだね」

そして桃香達が真名を交換しあつてゐる頃、

洛陽

華雄「それは本当の話か！？」

詠「ええ、月は洛陽から脱出させたわ」

靈「つちと恋が修理に手を抜いたおかげやな」

シ水闘の戦いの後、洛陽に戻された一人は詠と共に牢屋に閉じ込められたが詠から月が脱出したといふ話を聞いてほつとしていた。

肩ヤマリー「ギギーンお前達つるやこだー」

靈「へんつーもつあんたらの洛陽をめぢやくぢやにするといつ計画はおしまいやで！次の虎牢闘には恋があるからな、恋は勘が鋭いかりきつと月が脱出したことに気づくことねー！」

靈が肩ヤマリーに向つて

？「果たして、それはどうかな？」

バンッ！

霞達の前にラグルと恋が現れた。

華雄「お前ー」

田の前に現れたラグルに怒る華雄に対し

霞「恋ー？お前もおつたんかいなーちょっとどうええ、恋、月は逃げた  
んやー。うちらに構わずこいつらをぶつ倒したれ！」

霞はラグルの側にいた恋（畠布）に詫ひが

恋「…………」

霞「恋ー？どないしたんやー？」

いくら恋が無口だからといつてもいいまで言つていいのに黙つてい  
るのはおかしい。そんなとき

ラグル「張遼（霞）、我が田を見るのだ！」

霞「へつー？」

ギインッ！

そして霞がラグルの田を見た瞬間

霞「…………」

華雄「おい霞、どうしたんだ！？」

急に黙りこんだ霞を華雄が心配すると

ラグル「張遼よ、貴様はこれから虎牢関に向かい、他の軍を足止め  
しておけ！」

ラグルが言つと

霞「（じくんつー）」

頷く（うなづく）霞

詠「あんた霞に何したのよ！」

詠がラグルに怒鳴ると

ラグル「催眠術をかけたのさ、初めからこうしていればよかつたぜ

」

霞と恋はラグルの催眠術にかかってしまい完全に操り人形と化して  
いた。

ラグル「だがこれを使うと体力を考えずに力任せに暴れてしまうた  
め長期決戦にはむかないから使わなかつたがオーズが出たとなると  
そもそもいつてられん！張遼は連合軍を一呂布はオーズの相手をしろ

！」

恋・霞『（じくんつ）』

ラグルに操られた二人はラグルの言いなりになってしまった。

華雄「まさか一人まで！？」

華雄が驚いていると

詠「ちょっとあんた！ねねはどうしたのよ！」

詠が恋の側にねねがないことに気づきラグルに聞くと

ラグル「ねね？ああ、あのチビのことか、生憎俺の催眠術はガキには効かなくてな、痛め付けて皇帝兄弟と一緒に牢屋に入れてやつたよ！」

詠「あんたねねまでひどい日に…」の悪魔！」

詠がラグルに向かつて言つと

ラグル「悪魔？大いに結構、俺にとつて悪魔や悪人は誉め言葉さ！」

「

スツ

そしてラグルは恋と霞を連れて牢屋の前からいなくなつた。

しばらくして

ラグル「いいか！俺は逃げた董卓とガメルを殺しに行くから牛鬼は皇帝兄弟を見張れ！塗り壁は万が一呂布達が倒された時のためにこ

の城には誰一人として入れるなよ！」「

ラグルが牛鬼ヤミーと塗り壁ヤミーに指示を出すと

牛鬼ヤミー「わかりましたラグル様！」「

塗り壁ヤミー「任せたダス！」「

了解する二人

ラグル「それとだ…」「

チャラリッ！

ラグルは手からゴリラメダルとゾウメダルを出すと

ラグル「塗り壁、お前の体にメダルを入れておけ！そつすりやもつ  
と強くなれる！」「

塗り壁ヤミー「わかつたダス！」「

スッ！

塗り壁ヤミーはコアメダルを体に吸収した。

ラグル「牛鬼はどうする？」「

ラグルは牛鬼ヤミーにメダルは必要かと聞くと

牛鬼ヤミー「結構です。私はメダルがなくても強いのでね」「

ラグル「そうかわかつた。あの事はお前らに任せんから頼んだぞ

」

ザツ！

そしてラグルは去つていった。

その頃、虎牢関では

ズランッ！

袁紹軍30万の兵士が立ち並んでいた。

麗羽「（劉備軍は8人で5万の兵を倒したわけですから虎牢関には約十万の兵、確實にわたくしが勝つに決まっていますわ、呂布だろうが誰だろうがかかるべきなさい！おーほっほっほっ！）

麗羽が心中で高笑いをしていると

猪々子「あれつ？麗羽様、道の先に誰かがいますよ

スツ！

そして猪々子が指差した先には

バンッ！

恋が立ちはだかっていた。

斗詩「麗羽様、あれって呂布じゃないですかー？」

麗羽「あ～ら、それは好都合ですわー皆さんで呂布を討ち取つてしまいなさい！」

袁紹軍兵士達『うおーっ！』

『ドドドオーッ！』

袁紹軍兵士達が一斉に恋に向かつていぐ！

だが

チャキンッ！ ブォンッ！

恋が得物の方典画戟を振るつた瞬間

ズバッ！！

向かつていつた袁紹軍兵士達は一瞬のうちに首が飛んでしまった。

麗羽「へつー？」

猪々子「何が起きたんだー？」

斗詩「兵士の首が飛んだー？」

麗羽達が驚いていると

ジャキンッ！

恋は方典画戟を麗羽達に向けて

恋「…オーブ呼ぶ、恋と戦う」

そしてそれを聞いた麗羽達は

麗羽達『ひいーつ！？』

ビビビビオーッ！？

一日散に逃げていった。

連合軍本部

麗羽「といふわけで呂布のにおーずとこゝものをつけでくるよう言  
われました。劉備さんに聞いたらおーずとは映司さん、あなたの  
ことだそりですわね」

映司「そうですけど何か？」

麗羽「何かではありませんわよ！すぐに呂布を倒しここをなさい。  
化け物には化け物で対抗ですわ！」

オーズを化け物扱いする麗羽

映司「でも…」

この場にはアンクがいたためタトバ以外には変身できないのだ。

映司が言い渡ると

麗羽「じれったいわね！わかりました呂布を倒したら土下座してあげますからよろしいですわね！」

強引に話を決めた麗羽はその場から立ち去つていった。

映司「困ったなあ、呂布の力はわからないけれどアンクがないから大変だな！？」

映司が困つていると

愛紗「大丈夫ですよ映司殿」

鈴々「鈴々達も手伝うのだ！」

星「我らとて映司殿との鍛練で多少は力をつけましたからな」

翠「今回があたしも手を貸してやるぜー！」

桃香「みんながいるんだから大丈夫だよー！」

桃香達がみんなを励ました。

映司「わかつたよーみんながいればなんとかなるよね！」

そして映司達は虎牢関に向かつていった。

そしてその数時間後

月「はあはあ……やつと着きましたね！？」

ガメル「着いたー！」

月とガメルが連合軍本部にたどり着いたのだった。

## 1-8 「救出と眞実とお知りせ」

ついに反董卓連合の本部にたどり着いた月とガメル  
だが肝心の連合軍は

月「誰かいませんか？」

シーン…

誰一人としていなかつた。

実は全員が虎牢関に向かっているため連合軍はどこの軍もいなかつたのだった。（理由は劉備軍の手助けをするため、オーズが負けるところを見るため）

月「そんな、せっかくたどり着いたのに！？」

ガクンッ！

親友の詠がひどい目にあわされるとわかつていながら月の助けを待つていてるのに連合軍がいなくては水の泡である。

ガメル「月…」

うなだれる月を少しでも慰めようと近づくガメル

だがそのとき

ガメル「（ピクンッ！）」

スッ！

ガメルは何かを感じ取つて歩いていった。

月「ガメルさんどにいくんですか？」

月が聞くと

ガメル「こつちに俺のメダルの氣配する。人もたくさんいる」

ガメルが指した方角は虎牢関のある方角だった。ガメルが言うと

月「たくさんの人…もしかして連合軍かも！」

タタッ！

そして月はガメルと共にいくことにした。

その頃、虎牢関では

麗羽「（おーほっほっほっ！あの男がふざまに畠布に負けてくれればわたくしは土下座しなくてもよろしいわけですわ！まあはじめからする気はありませんがね）」

華琳「（いくらオーブの力が強いとはいえ、相手はあの畠布、おまけに化け物じみた力を持つと聞くわね！？）」

雪蓮「（オーブが危機になつたときに借りを返してもうつとして袁

術を攻めるのを手伝つてもらひつゝていうのもありね」

様々な思惑が漂うなか、劉備軍は虎牢関にたどり着いてしまつた。

桃香「敵は何人いるんだろう？」

朱里「袁紹さんの話によると虎牢関には呂布一人しかいないようですが」

鈴々「じゃあ呂布は一人で数万の兵を倒したのか！？」  
「いやつなのだ！」

星「まあ大将が袁紹だつたからかもしれないだろう

愛紗「どちらにせよ油断してはならん！」

翠「今回はあたしも手伝つから任しとけ！」

映司「（アンクの奴どこ）いつたんだよ！」

映司達がそれぞれいつていると

バンッ！

洛陽の城の前に一人の人影がうつっていた。

難里「あわわ！？あそこに人がいます！？」

愛紗「あのものが呂布なのか！？」

人影に驚く愛紗達

そんなとき

映司「あの～、君が呂布ですか？」

ズコッ！

人影に名前を聞く映司に愛紗達がずつ二けた。

愛紗「なに普通に聞いてるんですか！」

翠「お前バカかよ！」

みんなが映司に囁つと

恋「…（じゅりつ）恋は呂布」

素直に答える恋だった。

映司「そうかい、なら悪いけどそこを通してくれないかな？俺達は董卓を救いたいんだ！」

バンッ！

麗羽「董卓を救うですって！？」

実は映司達は虎牢関に着く前、翠からあることを聞かされていた。

愛紗「それは本当なのか翠！？」

翠「ああ、大マジな話さー。董卓って奴は悪いことではない奴なんだよー。」

翠が映司達に董卓について話していた。

翠「あたしの母様である馬騰は董卓をよく知つていてね、董卓は税を重くするどころか逆に民が苦しんでいたら税を減らすつていう甘い奴なのさ。あたしは母様からこの戦いの真実を調べてこいと言われて連合に参加したんだ。そして参加してみたらあんな化け物<sup>ヤミー</sup>が出てきたもんだから驚いちまつたぜ！」

翠が自分が連合に来た目的を話すと

星「もし董卓が翠の言つ通り優しき者となると、誰かが董卓の名を語つて悪ををしていくことになる」

鈴々「そんなことする奴なんているのかなのだ？」

みんなで考えてみると

映司「あつーあいつだ！」

桃香「映司さん、あいつって誰？」

映司「ほり、前に桃香からヤミーを取り出したあのグリードだよー。」

映司はラグルの名前を知りません

愛紗「なるほど、確かにあいつならばー…」

鈴々「悪人だから可能性があるのだ！」

朱里「誰のことですか？」

雛里「わからないです」

翠「やみー？ぐりーど？あたしにもわかるよ！に教えてくれよ！」

映司「そうか、朱里達はあいつに会つてなかつたよね」

「

そうだつたつけ？

説明中

翠「なるほどな、さつきの化け物がヤミーでその頭（大将）がグリードってわけだな」

朱里「はわわ！？そんな悪人がいたなんて！？」

雛里「あわわ！？驚きです！？」

映司「でもこれでわかつたよ！董卓は悪人なんかじゃない！…きっとあのグリードが関連している！」

映司が言つと

鈴々「お兄ちゃん、何で董卓が悪人じやないつて信じるのだ？」

鈴々が聞くと

映司「だつて同盟を結んだ翠が董卓は悪人じやないつて言つてるんだもの、仲間のこゝとは信じないとね！」

翠「へつ！お人好しな奴だな」

星「映司殿がそのような性格だからこそ我々は集まつたのだよ」

愛紗「そうだな」

映司「よし決めた！俺達は董卓を助けに虎牢関に向かおう！」

桃香「うん、私も賛成だよ」

こうして映司達は連合軍の意志を無視して董卓を助けにいくことにしたのだった。

現在

桃香「あちやーーー！みんなの前で言つちゃつたよーーー！」

星「こいつなつたらもう逃げるしかないのでしょうな」

それもそのはず

董卓を倒しに来た仲間の中に董卓を助けようとする者がいる=反逆者

劉備軍は反逆者になつてしまつたのだった。

麗羽「何ですってー猪々子、あの人は今わざと董卓を助けると言いましたよね」

「

猪々子「はい、言いましたよー!?」

華琳「呆れた。自分が何を言つて居るのかわかつて居るのかしらー。?」

雪蓮「まあ、彼らしいといえば彼らしいけどね」

連合軍が劉備軍を見ていると

麗羽「皆さんー! ひなつたら董卓!」と劉備軍を蹴散らしてしまーな  
さいー!」

袁紹軍兵士達『おおーーー』

ズンズンッ!

袁紹軍兵士達は桃香達劉備軍を捕らえようと進軍していく。

だがそのとき

ズォンッ!!

袁紹軍兵士達『なつー!?』

袁紹軍兵士達がいきなり現れた屑ヤミー達に驚いた。

しかも、

霞「悪いが…」  
は通さへんで！」

バンッ！

肩ヤミー達を率いていたのはラグルに操られた張遼（真名は霞）だった。

霞「アンタらの相手はウチと肩ヤミーがしたる！恋とオーズの戦いは邪魔させへん！」

肩ヤミー達『ギギーン…』

麗羽「まさか董卓軍に化け物がいただなんて！？」

そして肩ヤミー達が連合軍を襲つたを見た映司達は

愛紗「まさにこの戦いはグリードが絡んでいるな！」

星「法えきつてこら連合軍では肩ヤミーの相手はできまじ

星が冷静な判断をしてくると

映司「わかった！みんなは連合軍を助けにいってくれ、呂布の相手は俺がする！」

この映司の言葉に

愛紗「何をいっていりますか！？」

「

映司「脣ヤミーとの戦い方はみんなの方が詳しいし、俺達が勝ったとしても連合軍が負けたらお仕舞いなわけだ。呂布の力がどんなものかは知らないけど俺が呂布の相手をする。それに連合軍を助ければ裏切りを許してくれるかも知れないしね」

この映司の呆れるような言葉に

愛紗「仕方がないな！」

鈴々「お兄ちゃんは優しすぎなのだ！」

星「まったくだな」

桃香「わかつたよ映司さん、私達は連合軍を助けにいく。だから映司さんは呂布を必ず倒してね約束だよ」

映司「わかつた。必ず約束するよ」

力チャ力チャンッ！

キンキンキンッ！

映司「変身！」

そう言いながら映司はメダルをオーブドライバーにセットしてスキンセシ昂せると

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャキンッ！

映司は仮面ライダー オーズに変身した。

オーズ「いくぞ呂布！」

恋「…負けない！」

ババッ！

そして二人は互いにとんでいった。

そしてその頃、映司達の元から離れたアンクはといつと

アンク「ちつ！映司達はどこかにいったようだな。まあこれでの馬鹿女（麗羽）の顔を見なくてすむし、会いたければ置いていったライドベンダーで追いかけばいいしな」

ライドベンダーは目立つので天幕の中に収納しているのだった。

アンクが散歩をしていたそのとき

アンク「おやつ…あれば…」

アンクがなにかを見つけた。それは…

キランッ

アンク「俺のコアメダルじゃないか！？何でこんなところにあるかは知らないがラッキーだぜ！」

スツ！

アンクは落ちていた自分のコアメダルを拾いに向かおうとすると

アンク「！？」

サツ！

急にアンクは方向転換をして下がつていった。その直後

ドオーッンッ！！

アンクがそのまま進めば当たる地点に上空から何かが落ちてきた。

アンク「この気配、やつぱりお前だつたとはな！」

落ちてきたものは…

ラグル「久しぶりだなアンク」

バンッ！

ラグルだった。

## 18 「救出と眞実とお知らせ」（後書き）

アンク「次回はいよいよオーブVS呂布、俺VS謎のグリードの戦いだな楽しみだぜ！」

アンクが言ったその時

ピペッ！

映司「バッタカンドロイドから通信だ！」

パカッ！

映司がバッタカンドロイドのスイッチをいれると

西森『どうも西森です。この作品を待っている人には申し訳ありませんが、別の作品を進めてほしいという要望と西森が洛陽の戦いの後を考えていなためこの小説はしばらくの間不定期更新になります。申し訳ありませんでした』

ブツンッ！

通信が切れた瞬間…

映司・アンク『（何・何だよ）それっ！？』

二人の活躍はしばらくお待ちください

## 19 「最強武人と卑怯手段と董卓登場」（前書き）

皆さんの要望に答えてこれからはローテーションで投稿していきます。

フランチエスカ 乙女大乱 オーズ フランチエスカの順です。

## 19 「最強武人と卑怯手段と董卓登場」

虎牢関

オーズ「ハッ！」

ブンッ！

オーズは恋にメダジャリバーを振りかざす！

だが

ガキンッ！

オーズ「えつ！？」

恋はオーズの攻撃を軽く受け止めると

ボンッ！！

オーズ「うわっ！？」

ドシャンッ！

そのままオーズを投げ飛ばした。

オーズ「（さすがは三國志最強と呼ばれる呂布だ！？強さが桁違い（けたちがい）だ！？）」

それに今はもとからの恋に限界以上の力がつけられたためその力は  
オーズをも越えようとしていた。（オーズは恋が操られていること  
を知りません）

恋「…お前、弱い」

オーズ「やっぱタトバコンボじやむりか、アンク！メダルを貸してくれ！」

オーズはアンクに言つが

しーんっ

オーズ「しまつた！？」

いまアンクは一人で別行動しているのだった。

そのためオーズはメダルを変えることができないのだった。

その頃、アンクは

虎牢関から少し離れた場所

アンク「まさか直接俺を狙つてくるとはな」

ラグル「勘違いするな！俺はちょっと用があつて来ただけだ。お前に会えたのは偶然だ」

ラグルは逃げた月とガメルを探しに来ただけで本当にアンクと出会えたことは偶然なのだ。

ラグル「まあ」ここで会えたのも何かの縁かもしれん!アンク、貴様のメダルもいただぐぞ!」「

スッ!

ラグルが構えると

アンク「上等だ!」しつこお前が持っているメダル全ていただくぜ!」「

スッ!

アンクも構える。

アンク「(とはいって、あいつは怪人形態の俺を軽く追い詰める実力者、しかもオーブがいなから少しばかりヤバイかもな)」「

いつもは強気なアンクでも今回は勝てないかもしれないと感じていた。

ラグル「冥土の土産に教えてやろう、俺の名はラグルだ!」「

アンク「なんの真似だ!」「

ラグル「決まつているだろ?。自分を倒したやつの名前くらい覚えておかなければな!」「

ビュンッ!

アンク「なめやがつて！」

ビュンツ！

これからではアンクvsラグルの戦いが始まひとつとしていた。

その頃、虎牢関では

ガキンツ！

オーズ「おわつ！？」

オーズが恋に苦戦していた。

鈴々「あつーーお兄ちゃんが危ないのだ！？助けに行くのだ！」

ザツ！

鈴々が属ヤミーの相手をおいてオーズを助けにいくとすると

愛紗「いくな鈴々！」

鈴々を止める愛紗

鈴々「何故なのだーー愛紗はお兄ちゃんが心配じゃないのかなのだ  
！？」

鈴々が言つと

愛紗「心配に決まつてこるであろうーだが映司殿は言つてこたでは

ないか！呂布は俺に任せてみんなは連合軍を助けてくれと、その約束に答えるのだ！」

愛紗だつてオーブを助けにいきたかった。だが助けに向かえば映司との約束を破る形になつてしまつため助けにいかなかつたのだった。

麗羽「この化け物達はなんですか！？みなさんわたくしを守りなさい！」

『肩ヤミー』「ギギーン！」

『肩ヤミー』達は麗羽に襲いかかる。

星「まあ 映司殿をほつておいてあの馬鹿を助けるといつのは気がひけるがな！」

翠「同感だぜ！」

そして他のみんなは

美羽「ぴきりつー！何をしこじるのじゃ 孫策！早く妾わらわを助けるのじゃ

！」

雪蓮「はいはい（あとで覚えときなさいよー）！」

美羽を不本意ながら助ける雪蓮

このまま美羽がやられた方がいいと思つたがそれだと助けなかつた雪蓮に罪がかかってしまう。

そのため雪蓮はいやいや美羽を助けるのだった。

美羽「さすがは孫策、主君のために働くとは天晴れ（あつぱれ）な  
のじや！」

七乃「さすがは我々の犬ですねお嬢様」「

雪蓮「おほほつー当然ですよ（お前らーあとで泣いても勘弁しねえ  
からなー）」「

表には出でず心の中で怒りまくる雪蓮だった。

霞「おらおらーー」いつから先はこの神速の張遼が通さへんでーー」

バンッ！

恋と同じくラグルに催眠術をかけられた霞は超人的な力で連合軍を  
圧倒していく。

春蘭「さすがは神速の張遼ーー？ ものすこーーに早さですね華琳様ーー？」

華琳「ええそうね（だけど張遼の様子が変ね。まるで何かに操られ  
ているみたいだわ）」「

華琳は何かを感じていたのかもしれない

そしてその頃、

アンク「がはつーー？」「

バタッ！

アンクがラグルに苦戦していた。

ラグル「フフフッ！コアメダルの足りないお前がメダルを9枚持つ俺に勝てるわけなかろう」

たとえメダルがあつたとしてもアンクの持ちメダルは全部で6枚、ラグルにかなうはずがないのだ。

ラグル「さて」

ぐいっ！

ラグルは倒れたアンクの体を持ち上げると

ラグル「お前のコアメダルを頂くぜ！」

ブンッ！

ラグルはアンクのコアメダルを奪おうと拳を突き出す！

アンク「くわッ！」

アンク自身もうダメだと思ったその時…

？「そこに誰かいるのか？」

誰かの声が聞こえてきた瞬間

ピタッ！

すんでのところでラグルの拳が止まった。

その隙を見逃すアンクではない

アンク「今だ！」

ブンッ！

ジャリンッ！

ラグル「ぐつ！？」

ズボッ！

アンクはラグルの隙をついて手を出し、ラグルからメダルを抜き取つた！

アンク「よしつ！俺のメダルだ！」

アンクは見事自分のコアメダルであるクジャクメダルを奪い取つた。

そしてメダルを奪い取られたラグルはメダルを取り返すのかと思いきや

ラグル「ちつ！」

パツ！ スツ！

アンクを離して立ち去ろうとする。

ラグル「悪いが俺はまだ多くの人に見られるわけにはいかないんで  
な、次こそは貴様のメダルを奪い取つてやるから覚悟しておけ！」

スッ！

そしてラグルは立ち去つていった。

アンク「とりあえずは命拾いつてところか（しかしあいつの強さは  
恐ろしい、おそらく今のオーズでも敵わねえだろうな、もつとメダ  
ルを集めないと）」

そしてアンクがよろめきながらも立ち上がると

? 「何があつたんだ？」

ザツ！

奇跡的にアンクを助けてくれた声の主がやつて來た。その主とは…

白蓮「お前大丈夫か！？」

バンッ！

何と白蓮だつた！？

アンク「何でお前がここにいるんだよ！」

アンクが聞くと

白蓮「実は恥ずかしい話なんだがちょっと廁かわせ・トライに行つている間に連合軍に置いてきぼりにされたんだ」

自分の兵にすら忘れられるとほたすがは存在感の薄い白蓮である。

白蓮「そして急いで虎牢関に向かおうとしたらいきなり角の生えた黒い体をした奴に撥ね飛ばされて、田たが覚めたらこじで声が聞こえたんで来てみたらお前がいたってわけさ」

アンク「角の生えた黒い体の奴…」

アンクはその人物に覚えがあった。その人物とは

アンク「ガメルか!? 何で生きているかは知らないが好都合、奴のメダルは俺がもらつ!」

スツ!

白蓮「おいつ！？待てよ」

そしてアンクと白蓮は虎牢関に向かつていった。

その頃、虎牢関では

恋「…お前、弱すぎる」

オーズ「くつ！？」

相変わらずオーズが恋に苦戦していた。

オーズ「（やは三三國志最強はだてじやないか！？卑怯なことせ  
たくないけど一瞬の隙を作るためだ仕方ない！）」

スツ！

オーズは腰に用意していたあるものを取り出す

恋「…死ねつ！」

シユツ！

そして恋がオーズに止めをさすべく戟を突きだしてきたその時！

オーズ「くらえつ！」

サツ！ カチツ！

オーズは手に持っていたものを起動させる。手に持っていたものは

ピカーン！

鴻上会長から渡されたトランクの中に入っていた新しいカンドロイ  
ド・ライオンカンドロイドだった。

ライオンカンドロイドから発せられた光によつて

恋「…うつー？」

恋が一瞬怯んだ！

オーズ「もう一つ！」

ボンツ！！

そして恋が怯んだ隙を狙つてメダジャリバーを振りかざすオーズ  
オーズ「（卑怯なまねして）めんなさい！でもこれは董卓さんを助  
けるためなんだ！」

そしてメダジャリバーが恋に当たるつとしたその時！

? 「やめろーつ！」

連合軍側から突然声が聞こえてきた。

愛紗「今の声は誰だ？」

愛紗達連合軍が声の主を探してみると

「ドードオーッ！！

ガメル「どけーつ！」

怪人形態になつたガメルが誰かを背負いながら連合軍の後ろから現  
れた。

麗羽「なんですかー？あの化けも…」

ガメル「どけーつ！」

ドンッ！　＝

麗羽「さやーつ！？」

猪々子「麗羽様！」

麗羽はガメルによつて撥ね飛ばされた。

キキィーッ！

そしてガメルはオーズの前で立ち止まると

ガメル「月、着いた」

月「ありがとうございます」

スッ！

そしてガメルは背中に背負つていた人物、月を下ろすと

月「恋さん、もうやめてください！」

恋「…月！？」

月「連合軍の監さんに話したいことがあります。私の名は董卓です  
！」

ビシッ！

月は自分が董卓だと叫ぶと

麗羽「なんですって！？おーほっほっほっほー！」んなところで洛陽の悪魔に出会えるなんて好都合ですわー！皆さん、早く董卓を殺し…」

月「まずは私の話を聞いてください！洛陽が董卓に支配されたといふのは怪物が私の名を語った大嘘なんです！あの城には詠ちゃんや皇帝様が捕らわれています。皆さんも力を貸してくださいー！」

董卓は力一杯叫ぶが

連合軍『・・・・』

連合軍は誰一人口を出さなかつた。

月「（やはり私なんかでは…）」

月が諦めかけたその時

オース「俺は信じるよー。」

月「えつー？」

オースが月に近寄ってきた。

オース「君の目は嘘をついていない！俺がそう感じたんだ！」

そしてオースに続いて

桃香「映司さんが信じるなら私も信じるよ

「

鈴々「鈴々も信じるのだ」

愛紗「無論私もです」

「

桃香達劉備軍

華琳「やつぱりね、おかしいと思つたのよ」

雪蓮「袁術様、こゝは董卓を倒すより皇帝に話を聞いた方がいいんじゃない?このまま董卓を殺してもし本当なら皇帝から自決(自殺)を言い渡されるわよ」

美羽「じ…自決じゃと…?妾は死にたくないのじゃー妾も一応董卓の言つていることを信じるのじゃ!」

華琳に雪蓮、美羽までも信じてくれた。

恋「…月」

靈「月つち」

そして恋と靈は

恋「…恋、詠達を守れなかつた!」

靈「ウチもいつの間にか操られてしまつてすまん!」

ペ一一つづり一

月に出会つた」とで催眠術が解けた一人は月に謝つた。

月「いいんですよ。恋さんも霞さんも一生懸命頑張ったんですから

」

ガメル「俺も月を守る！オーズ、目的は同じだし今の間は休戦しよう！」

オーズ「ああガメルよろしくな！」

ガシッ！

オーズとガメルは握手を交わしあつた。

こうしてほとんどが納得したのだがいまいち納得していない人物がいた。

麗羽「（董卓が言つたことなんて全部嘘に決まつてますわ！いざれ化けの皮を剥がしてやりますから覚悟なさい…）」

執念深い麗羽であった。

オーズ「さてとみんなが仲良くなつたところです！」

ビシッ！

オーズが指差した先には

肩ヤミー「ギギーン！」

洛陽の城への道を防ぐ肩ヤミー達がいた。

オーズ「全員でいいから倒そう！」

愛紗達『はいっ！』

「うして連合軍は皇帝を救出するため一丸となつて城を目指すのだった。

## 19 「最強武人と卑怯手段と董卓登場」（後書き）

オリジナルカンドロイド

ライオンカンドロイド

スイッチを入れると強烈な光を発する。

## 20 「塗り壁と願いと重量系コンボ」（前書き）

前回までの三つの出来事

一つ、オーズが操られた恋と戦い苦戦する。

二つ、アンクがラグルに襲われるが逆にアンクはメダルを奪う

三つ、オーズが恋に切りかかろうとしたところ、ガメルと月が現れて洛陽の真実を話し連合軍は一丸になる。

## 20 「塗り壁と願いと重量系コンボ」

虎牢関にて洛陽の真実を知った連合軍

そして一行は皇帝兄弟と月の親友である詠と華雄、ねねが捕らわれている洛陽の城を目指して進軍するが

屑ヤミー「ギギーン！」

屑ヤミーが行く手を阻むように現れる。

だが皇帝を助けるという目標を立てて一丸となつた連合軍の前に

オーズ「せいやーっ！」

ズバツ！

ガメル「ふんっ！」

ドガツ！

愛紗「はっ！」

ズバツ！

華琳「くたばりなさい！」

ズバツ！

雪蓮「それ一つ！」

ズバツ！

もはや屬ヤミーは連合軍の相手ではなく、連合軍は進軍していく

桃香「みんなやつぱりす」によね！？」「

朱里「そりやせつですよ。連合軍が一丸になれば勝てる人なんていませんし」

もはや連合軍は反董卓連合から皇帝救出連合へと名を変えていたのだ。

そして城に向かつ途中のこと

オーズ「それにしても董卓がこんなにかわいいとは思わなかつたよ  
」

月「可愛いだなんて／＼／＼

（ポツー）

ガメル「月、顔が赤い」

かわいいと言われて頬を赤くする月

愛紗「映司殿！戦いを前にして何を遊んでいるのですか！」

ドッカーンツ！！

戦いを前にして遊んでいる映司に愛紗の雷が落ちる。

オーズ「（別に遊んでいたわけじゃないけど）『めんなさい…』

映司が謝ると

星「愛紗よ、映司殿が董卓に夢中になつてゐるからつて嫉妬はいかなぞ」

鈴々「愛紗は焼きもちを妬いているのだ」

愛紗「うるさい！」

愛紗をからかう星と鈴々

そして連合軍がもつ少しで洛陽の城にたどり着いたとしたその時

ズオーンッ！

巨大な城壁が立ちふさがった。

雪蓮「これは何なの！？」

月「ここの城にこんなに大きな城壁はないはずですけど！？」

みんなが驚いていると

ズズズンッ！

華琳「えつ？」

壁からいきなり手が動き出してきて

ヌーッ！

ガシッ！

兵士「うわっ！？」

兵士をつかむと

ぬめりつ！

兵士「た…助けてく…？」

ズボツ！

壁は兵士を飲み込んでしまった。

離里「あわわ！？あの壁はただの壁じゃありませんよ！？」

離里の言つ通りあれはただの壁ではない

みんなが考えていたその時！

ガメル「オーズ、あの壁からヤヤーの気配を感じる」

オーズ「何だつて！？」

アンクと回じグリードであるガメルもヤマーの気配を感知でせるのだ。

そしてヤマーだとバレた壁は

塗り壁ヤマー「バレてはしおうがないダス！」

ズズズンシ！

正体である塗り壁ヤマーに姿を変えた。

塗り壁ヤマー「ソロから先は通さんダス！」

城への道を塞ぐ塗り壁ヤマー

麗羽「董卓さん、他に道はあつませんの」

麗羽が月に聞くと

月「裏口にあることはあるんですが……ソロからだとどうなに急いで三日はかかりますので」

三日もかけていたら皇帝兄弟がどんな目にあわされるかわかったようなものではない！？

麗羽「こいつなつたら一刻も早く皇帝様をお助けするためにも強行突破しますわよ！」

ビビビオーッ！…

無謀にも塗り壁ヤミーに突撃を仕掛ける袁紹軍

だが道は塗り壁ヤミーが道を防げるほど狭いため一度入れば簡単に出られない

塗り壁ヤニー かかつたなダス！

三ノ二

麗羽一えー！？

塗り壁ヤードはその巨体から抜けられないように飛び上がる

塗り壁ヤミー・メガ・スタンフ!!!

ズオオーーンッ！！

袁紹軍用掛けて倒れてきた。

『袁紹軍』把半——！？

アシジー・ノート

あわれ逃げ場のない袁紹軍達は塗り壁ヤニーに潰されてしまった。

そして麗羽達はこうと

猪々子一あ…危なかつたあゝ！？

斗詩「もう少しど瀆されてしまつといひでしたね！」

麗羽「そ… そうですわね！？（少しチビりましたわ！？）」

悪運高く何とか助かっていた。

ズズズツ

そして塗り壁ヤミーは起き上がってまた道を塞ぐ

麗羽「こうなつたら化け物には化け物ですわ、劉備軍の坊主さん出番ですわよ！」

オーズ「オーズだつてば！」

ちなみにオーズのことについては連合軍に説明済みである。

麗羽「構図でも坊主でも構いませんわ！とにかくあの化け物を退治しなさい！でないと全員打ち首（首切り）ですわよ！」

もう総大将でもないような気がするのに大将ぶる麗羽

オーズ「まあ打ち首なんて嫌だし、相手がヤミーなら仕方がない！」

「

バッ！

オーズは塗り壁ヤミーに迫っていく！

オーズ「（アンクがいないからメダルチェンジできないけど仕方がない！）」

その頃、アンクはとこと

虎牢関

アンク「ちつー連合軍がいないじゃねえか！」

連合軍はみんな洛陽の城に向かつたため虎牢関には誰一人としていなかつた。

白蓮「はあ、まさか大将を置いて先にいくなんてな」

自分の軍にすら忘れられる残念な白蓮であつた。

アンク「おいハム公！連合軍が行くとしたらどうすだ！」

白蓮「ハム？何を言ひてるんだよもう戦いが終わつたからみんな引き上げたんだろ？」

白蓮が言つと

アンク「バカかお前！もしそうならどうかですれ違つてているはずだろうが！」

白蓮「あつ、そつか！だつたらこの先にある洛陽の城かもな」

アンク「よしこべぜー！」

ダッ！

アンク達も洛陽の城目掛けて急ぐのだった。

アンク「（ガメルが復活しているなら好都合、奴のメダルは全ていただくぜ！）」

その頃、洛陽の城前では

オーズ「ぐはつ！？」

ドサツ！

オーズが塗り壁ヤミーに苦戦していた。

無理もない、オーズはさつきまで呂布と戦っていたため体力が少なくなっているのだ。

おまけに…

ガメル「オーズ、あいつは俺のコアメダルを一枚持つてる」

オーズ「何だつて！？」

ガメルの言つように塗り壁ヤミーは体の中にゴリラとゾウのコアメダルを持っているのでパワーが増しているのだ！

オーズ「くそつ…メダルチーンジできれば倒せるの！」

残念ながら今のオーズはアンクがいなためタカ、トラ、バッタのコアメダルしか持っていない

タトバコンボでは塗り壁ヤミーを倒せない、オーズがそう感じていると

ガメル「オーズ、俺いく！」

オーズ「えつ！？」

ガメル「俺が奴に突撃してコアメダル奪つてくる！」

オーズ「待てよ！？俺ですらもあいつの攻撃を受けたら大ダメージなんだぜ、コアメダルの少ないお前が行つたら消滅してしまうかもしないんだぞ！？」

グリードは倒されても核となるコアメダルに傷が入つていなく、大量のセルメダルがあれば復活は可能なのだが核となるコアメダルが破壊された場合、復活は困難になるのだ。

ガメル「それでも行く！」

ダツ！

オーズ「ガメル！？」

ガメルはオーズが止めるのも聞かずに塗り壁ヤミーに突撃する。

ガメル「俺のコアメダル返せー！」

ドンッ！！

塗り壁ヤミー「うおつ！？」

ぐらりつ

ガメルの全力の突進に塗り壁ヤミーはぐらつくが

塗り壁ヤミー「生意氣な奴めダス！」

ブォンツ！ ドガツ！！

ガメル「ぐほつ！？」

ズザザーツ！

塗り壁ヤミーの反撃の拳をくらいオーズのところまで吹っ飛ばされるガメル

オーズ「ガメル大丈夫かよ！？」

月「ガメルさん！？」

そして倒れたガメルの元にオーズと桃香達が駆けつけた。

ガメル「やつぱり俺じゃ奴に勝てない。だけど…」

スツ！

ガメルは手を出すと

パツ！

ガメル「コアメダルは取り返した」

ガメルの手にはゴリラとゾウのコアメダルが握られていた。

ガメル「だけども俺ももうヤバイ。オーズ、頼みがある」

オーズ「何だよ」

オーズがガメルに聞くと

ガメル「俺のコアメダル全てやるからあいつを倒してほしい！任せた」

スッ

ガメルはオーズにゴリラとゾウコアメダルを渡すと

ジャララーン！

ガメルの体はセルメダルになつた。

月「ガメルさん！？」

桃香「死んじゃつたの！？」

桃香達が怯えるなか

スッ

オーズはセルメダルの中からサイコアメダルを取り出すと

オーズ「セルメダルがあればガメルは復活できるよ。そのためには  
あいつを倒さないとね」

オーズは塗り壁ヤミーを見ると

オーズ「ガメル、お前の頼みは絶対叶えてやるぜ！」

力チャカチャンッ！

キンキンキンッ！

オーズはガメルのメダルをオーズドライバーに入れ換えてスキヤン  
させると

ドライバー『サイ・ゴリラ・ゾウ』

ドライバー『サゴーゾ・サゴーゾー!』

ジャキンッ！

オーズはサゴーゾコンボに変身した。

ちょうどその時

アンク「おじどうなってるんだよ！？」

アンクと白蓮が連合軍に合流した。

桃香「あつーアンクちゃん！」

愛紗「お前は今までどこにいたんだ！」

鈴々「アンコのお兄ちゃん、映司お兄ちゃんが新しい姿になつたのだ！」

アンク「新しい姿だと？」

スッ

アンクがオーブを見てみると

アンク「あれはサーキュレーションボー？あいついつの間にメダルを集めただ！？」

アンクはさつきまでの様子を見ていないので驚くばかりだった。

そしてサーキュレーションボに変身したオーブは

オーブ「つまーつー

デンドンッ！

「ココハのよひで元気ハング（胸昂）をすると

ぐりつ

塗り壁ヤマー「えつー？」

ズオンッ！

塗り壁ヤマリー「なつ！？」「

塗り壁ヤマリーの巨体が浮き上がった。

サゴーボンボの能力は重力操作。ドリミングをすることによって周囲の重力を自由に操れるのだ。

ドカツ！ バキンッ！

塗り壁ヤマリー「ぐほつ！？」

重力操作によつて浮き上がつた塗り壁ヤマリーはどんどん崖に激突されていく

そしてオーズは小さないだずらとして

ズシンッ！

麗羽「きやあつ！？」

バタンッ！

なかなか土下座をしてくれない麗羽に対しても麗羽の重力を操り、無理矢理土下座させるのだった。

そしてオーズは

キンキンキンッ！

ドライバー『スキャニングチャージ!』

止めをあわべくスキャンせると

オーズ「ハツ！」

ビヨンッ！

高く飛び上がり

ズシンッ！！

降りてきた衝撃で地面に地割れを起こすと

ズシンッ！！

塗り壁ヤミー「ぐほつ！？」

塗り壁ヤミーは地割れにはまり

ズズズーン！

塗り壁ヤミー「なーつ！？」

そのままオーズに向かってくる。

オーズ「ハアー…せいやーつ！」

ドカンッ！！

そしてオーズは向かつてきた塗り壁ヤミーに掛け頭突きとフックパンチを繰り出した。

サゴーボンボの必殺技・サゴーボンパクトを食らつた塗り壁ヤミーは

塗り壁ヤミー「ぐえーっー？」

ドッカーンッ！！

粉々に粉碎された。

ジャララーッ！

そして塗り壁ヤミーが倒されたことでセルメダルが辺りに散らばると

アンク「セルメダルはもらつたぜ！」

スッ！

アンクがセルメダルを取ろうとするが  
ガシッ！

アンク「何をしやがるー！」

アンクは愛紗達に押さえつけられた。

シュンッ！

そしてオーズが映司に戻つて

チャリンッ！

ガメルのメダルを見つめると

アンク「映司、それを俺に寄越せ！」

だが映司はアンクの言葉は聞かずには

スツ！

アンク「あっ！？」

サイコアメダルをセルメダルの山に投げ込んだ。

その瞬間

ズズズーッ！

ガメルは復活を果たした。

ガメル「オーズ、何で俺を生き返らせた？」

ガメルが映司に聞くと

映司「だって俺達はもう仲間だろ、仲間なら助けるのは当然じゃん

」

ガメル「仲間…俺はオーズと月の仲間！俺、仲間ができる嬉しい！」

「

月「ガメルさん」

桃香「仲間が増えて私も嬉しいよ」

ガメルが仲間になつたことに喜ぶ桃香達だったが

アンク「ちょっと待ちやがれ！」

アンクが黙つていなかつた。

アンク「映司、勝手にガメルを復活させやがつて！セルメダルを弁償しろ！」

映司「悪かつたつてアンク！？あつちに帰つたらスペシャルアイスやるからさー！」

アンク「帰る手段もわからねえのに誤魔化されるかよ！」

このあと、アンクをなだめるのに数時間かかつてしまつたという

20 「塗り壁と願いと重量系コンボ」（後書き）

SCOUNTS MEDALS

現在オーズの使えるメダルは

ゾウ	ゴリラ	サイ	クジヤク	ライオン	クワガタ	チータ	カマキリ	バッタ	トラ	タカ
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2

## 2-1 「猛進バイクと救出と不意打ち」

洛陽の城の前にいた塗り壁ヤミーを何とか撃破し、連合軍はござ城内に入らうとしたのだが

映司「あつひや～！？」

桃香「あらひや～！？」

アンク「暴れすぎだバカが！」

何と洛陽の城に入る唯一の道が…

ボローン！

粉碎された塗り壁ヤミーの残骸が当たってしまい道が塞がれていた。

麗羽「あなた達のせいですわよー責任とつて城への道を開きなさい！」

さつき助けてもらひた恩を忘れて劉備軍に命令をする麗羽

アンク「ちっ！あの馬鹿女め、恩を仇で返すような態度をとりやがつて！」

映司「まあまあアンク、今回は俺達が悪いわけなんだし瓦礫を退かそつよ！」

ちなみにアンクはガメルを復活させたことについてはこの世界では

アイスが作れないの後でたくさん「ひやう」を食べやせるといつことで約束した。

アンク「瓦礫をどかす必要ないだる。映司、ガメルをメダルに戻せ！」

シユツ！　パシッ！

アンクが映司に投げたメダルを受けとる映司

映司「これは『コラヒゾウ』のメダル！？それにガメルをメダルに戻すつてどうじことだよー？」

映司がアンクに聞くと

アンク「決まってるだる、サゴーヴでこんな瓦礫をぶち壊すんだよ。こいつも使ってな」

スッ！

アンクはカンドロイドの入ったトランクから新たなカンドロイドを取り出した。

アンク「心配するな、瓦礫を退かしたらガメルを復活させて構わねえ、やつの力はずいぶん役に立つからな」

映司「（アンクのやつこの世界に来てから変わったな。前なら絶対復活させなかつたのに）」

と口に出したらアンクに怒られてしまうので心中で思つ映司だつ

た。

しづくじ

ガメル「ふんっ！」

ジャララーッ！

ガメルがサイコアメダルに姿を変えると

映司「頼むよカンドロイド！」

ブショウッ！

映司は新たなカンドロイドを起動させた。

ガチャーンッ！

サイカンドロイド『ブホッ！』

新たなカンドロイド・サイカンドロイドはアニメマルモードになると

ダッ！ カチャーンッ！

トランジistorのよつてリライドベンダーと合体し、

『ブホーッ！…』

サイライドベンダーへと変化した。

映司「合体した後で…」

力チャヤカチャンッ！

キンキンキンッ！

映司はメダルをオーズドライバーにセットしてスキャンせると

ドライバー『サイ・ゴリラ・ゾウ』

ドライバー『サゴー・ゴー・ゾー』

ジャキンッ！

映司はいきなりサゴー・ゴンボに変身した。

メダルを入れれば好きに変身できるため別に最初がタトバコンボでなくとも構わないのだ。

オーズ「ハツ！」

シユツ！

サゴー・ゴンボに変身したオーズはサイライドベンダーに飛び乗ると

『ブホッ…』

さつきまで暴れていたサイライドベンダーが急におとなしくなった。

サイライドベンダーはトライドベンダーと回りこむ『ゴー・ゴー・ゴー

ンボでの体力消費をおさえることができるのだ。

アンク「よし、愛紗達はサイライドベンダーのすぐ後ろからついて  
こい！遅れたら取り残されるぞ！」

桃香達『？』

桃香達は？を浮かべるがここはアンクの言つ通りにすね」とした。

アンク「よし、ぶつ飛ばせ映同！」

オーズ「わかつたよ！」

ブルンツ！！

サイライドベンダーを運転するオーズはそのまま瓦礫に向かっていき

ドガガツ！！

ブルドーザーのよつに瓦礫を粉碎しながら突き進んでいった。

麗羽「これはチャンスですわ！皆さん、劉備軍が開けた道をいきますわよ！」

麗羽達はサイライドベンダーが開いた道を進もうとするが

ドッシャーンツ！！

開いた道は再び瓦礫で塞がれていた。

麗羽「これはどうなつてますの…？」

猪々子「どうやらあたい達取り残されたみたいですよ」

斗詩「劉備軍に一杯食わされましたね」

実はアンクは初めから碎いた瓦礫で再び道が塞がれるのを計算に入れていた。

そのため桃香達と一緒に進ませ、瓦礫の被害が一番少ない後ろを歩かせたのだった。

洛陽の城・目前

ドッ、ローンッ！

瓦礫の中をサイライドベンダーが現れた。

アンク「どうやらいるさこ女（麗羽）をまいたようだな」

オーズ「でもいいのかよ連合軍を置こうとして…？」

アンク「あの馬鹿（麗羽）だけならともかく曹操と雪蓮は何とかなるだろうよ」

ちなみに今この場にいるメンバーは

映司<sup>オーズ</sup>、アンク、愛紗、桃香、鈴々、朱里、雛里、月、星、恋、ガメル、翠の12人である。

そしてオーズは変身を解いて映司に戻り、ガメルを復活させると

映司「それじゃあ皇帝を助けに出発！」

全員『おおーっ！』

全員で城内に侵入するのだった。

洛陽の城・城内

愛紗「しかし静かな城ですね、いつもなりば彌ヤミーが出てくれるといつのに」

実は城内に入つてからまだ一度も彌ヤミーに出てくわしていないのだ。

星「敵も我々に恐れを抱いてきたのだろう何にせよ楽に進められるのだからいいではないか」

朱里「でも油断しちゃダメですよ。早く人質を救出するためにもふたてに分かれた方がいいですね」

皇帝兄弟とねねが捕らわれていると思われる玉座の間は城の上部、詠と華雄がいる地下牢は城の下部にあるので確かにふたてに分かれた方が得策である。

映司「だつたら多分玉座の間は絶対皇帝兄弟を奪われないためにも強いやつがいるかもしれないから玉座の間には俺とアンクと愛紗と朱里と桃香と皇帝の顔を知っている董卓さんでいいね。残りの六人（鈴々、星、翠、恋、雛里、ガメル）は地下牢の方を頼むよ」

映司が行き先を伝えると

全員『了解！』

バツ！

全員が納得して散つていった。ちなみに桃香を映司組に入れたのは入れないとこつそりつこしてくるという映司の考え方である。

地下牢

肩ヤミー「ギギーン！」

ズラリッ！

この地下牢にはたくさんの肩ヤミー達が詠と華雄を見張っていた。

詠「霞と恋は大丈夫かしら？逃げた月もあいつらに捕まつてなきゃいいけど」

華雄「くそっ！この手枷（てかせ・巨大な手錠のようなもの）さえ外れればあんなやつらなんて！」

前に月を逃がされたことがあったので詠と華雄には手枷がはめられていた。

肩ヤミー「もつむ前達はお終いだーこの世はラグル様のものになるのだ！」

肩ヤミーが詠達に話していると

? 「それは無理な話だ」

「肩ヤミー 「なにっー?」

ぐるりー!

後ろから声が聞こえ肩ヤミーが振り返った瞬間

ザクッ!

肩ヤミー 「ぐえつー?」

肩ヤミーは槍に突き刺された。

星 「油断大敵だな」

肩ヤミー 「なぜここに!?.他のやつらはどうした!?.」

肩ヤミーがくたばりながらも聞くと

鈴々 「他のやつらはすべて倒したのだー!」

バーンッ!

周りは鈴々達に倒された肩ヤミー達で埋め尽くされていた。

恋 「..詠、華雄助けに来た」

恋が牢屋にいる一人に話しかけると

詠「恋！？よかつた、催眠が解けたのね！」

華雄「しかし回つねつらは連合軍のようだが」

華雄が鈴々達を見つめると

恋「…大丈夫、みんな恋の仲間」

翠「董卓も無事だぜ」

翠が言つと

華雄「董卓様が無事だつて！？よかつた」

月が無事なのを聞いて安心する華雄

詠「そんなことより早くここから出でてよ。鍵ならそいつが持つて  
いるからさ」

スツ

詠は肩ヤミーを指差すが肩ヤミーはみんな同じ姿をしているので見  
つけられるわけがない。（まだウォーリーを探せの方がマシ）

こんなたぐさんの肩ヤミーの中から鍵を持ったやつを見つけるのも  
時間の無駄なので

雛里「ガメルさんお願いします」

ガメル「任せろー！」

詠「誰よこいつー？」

詠はガメルの姿に驚くが説明している時間がないので

ガメル「ふんつ！」

ガシツ！

ガメルはさくを掴むと

ガメル「ふんぬーつ！」

べ「やりつ！」

怪力でさくを広げて通り道を作った。

詠「なんて怪力なのー？さくは鉄でできているのにー？」

華雄「私だつて本氣を出せばあれくらい…」

翠「そんなことよつ早く逃げよつせー！」

詠「ちよつと待ちなきよー月はびづかるのよー？」

詠が言つと

星「それは心配無用だ。董卓には我が軍最強のものが一緒にいるからなー」

詠「はつ？」

いまいち理解できない詠だつたがこのあと無理矢理担がれて（かつがれて）運ばれるのだった。

一方玉座の間では

月「ここの先が玉座の間です！」

映司達はよつやく玉座の間にたどり着いた。

桃香「ここのお城広いし迷いそうであるで迷路だよー？」

愛紗「桃香様、ここの城は万が一敵が来ても大丈夫なようにできているのですよ！」

朱里「案内役の董卓さんがいなかつたら迷子になつていきましたね」

アンク「こんなときにのんきな会話をしゃがつて映司、先にメダルを渡しておくから変身しどけ！」

スツ

映司「わかつたよアンク

力チャカチャンッ！

キンキンキンッ！

アンクからメダルを受け取った映司がメダルをオーブドライバーにセットしてスキヤンさせると

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ!』

ジャキンッ!

映司は仮面ライダー オーズに変身した。

オーズ「それじゃあいくよ!」

ドンッ!

そして映司達が武器を前にして玉座の間に突入すると

桃香「あれ? 誰もいないよ?」

朱里「てっきり敵が待ち伏せているかと思つていましたけど

確かに敵の姿はなかつたが

?『ンンーッ!!』

玉座の間の椅子に誰かが猿轡(さるくわ)・声を出させないようとする道具)をつけられて縛り付けられていた。

月「あれば劉弁様と劉協様!? それにねねちゃん! ?」

縛られていたのは人質であつた皇帝兄弟となねだつた。

愛紗「これはひどい」とを

桃香「今すぐ猿轡をほどきますからね」

ダツ！

そして桃香が三人に近付いたとき

バツ！

桃香の上から何かが降りてきて桃香に襲いかかりつとする。

オーズ「桃香、危ない！」

ドンッ！

桃香「きやつ！？」

オーズは桃香を突き飛ばすと

ザシユツ！

オーズ「ぐはつ！？」

桃香の代わりに攻撃を食らってしまった。

愛紗「映司殿！？」

朱里「まさか上に潜んでいただなんて！？」

上からオーズを襲つたものの正体は

？「やはり網切と塗り壁は負けてしまつたか、役立たずな奴らめ！」

「

バンッ！

牛の頭に背中には蜘蛛くもの脚をはやした牛鬼ぎゅきヤミーだった。

牛鬼ヤミー「俺は他の二人とは違うぜ！」

オーズ「くつ！？」

不意打ちを食らつてしまつたオーズだがヤミーと戦えるのはオーズしかいない

## 22 「牛鬼と猛毒と爬虫類コンボ」

皇帝兄弟を助けに洛陽の城に突入した映司達

そして映司達はふたてに分かれて詠と華雄、皇帝兄弟とねねを救いにいこうとする。

鈴々、星、翠、恋、雛里、ガメル率いる部隊は詠と華雄を救出することに成功。

そして映司、アンク、愛紗、桃香、月、朱里の部隊は皇帝兄弟とねねを助けに玉座の間へとたどり着いたが三人の姿はあつたものの敵の姿はどこにも見えない。

これなら楽勝とばかりに桃香が三人に近づいたとき上に潜んでいた牛鬼ヤミーが桃香を襲うがオーズが何とか底う（かばう）！だがオーズは牛鬼ヤミーの不意打ちを食らってしまった。

オーズ「ぐつ！？」

牛鬼ヤミー「フフフツ！俺の一撃は効いたようだな！」

ギラリンッ！

牛鬼ヤミーの背中にある八本の蜘蛛の脚は一振りしただけで鋼鉄を切り裂く一撃である。常人ならば真っ二つになつているがオーズの装甲のおかげで真っ一つは避けられていた。

だが重傷なのには変わらない。背中を切りつけられてうまく動けな

いオーズ

アンク「映司、メダルを変える！」

シユツ！ パシツ！

オーズ「サンキューアンク！」

力チャカチャンツ！

キンキンキンツ！

ドライバー『タカ・ゴリラ・バッタ』

ジャキンツ！

オーズはタカゴリバにコンボチョンジした。これにより背中の傷は無くなつたがダメージが消えたわけではない。

オーズ「ハアーツ…！」

オーズは手を後ろに構えると

オーズ「せいやーつ！」

ドッゴーンツ…！

両手に構えたガントレット状武器ゴリバゴーンを飛ばして相手にぶち当てる（要するにロケットパンチ）バゴーンフレッシュヤーを牛鬼ヤミーに食らわせようとする。

牛鬼ヤミー「そんなものが効くか！」

ガキンッ！

だが牛鬼ヤミーに弾かれてしまった。

アンク「不味いな、ダメージがある分オーズのパワーが落ちてやがる！？」

不意打ちを食らつたせいでオーズは力を100%出し切れていないのだ。

アンク「だつたらこいつを使え！」

シユツ！ パシツ！

アンクはオーズにメダルを渡す。

力チャ力チャンッ！

キンキンキンッ！

ドライバー『タカ・クジャク・バッタ』

ジャキンッ！

今度はタカジャバにコンボチェンジするオーズ

オーズ「くらえつ！」

ドンドンッ！！

今度は左腕につけられている武器タジヤスピナーから火炎弾を発射するオーズ

牛鬼ヤミー「ちつ！」

カカカンッ！！

弾かれたものの威力は衰えていない。

オーズ「ならば決めてやるぜ！」

スツ：

オーズは必殺技を発動させようとするが

ドクンッ！

オーズ「急に眩めまいが！？」

アンク「どうした映司！？」

よろめくオーズをアンクが不思議がると

牛鬼ヤミー「いい忘れていたが俺の蜘蛛の脚には遅効性の猛毒が塗られている。ほっておいてもお前は直に死ぬが…」

ドンッ！！

オーズ「ぐえつ！？」

牛鬼ヤミーはオーズにのし掛かると

牛鬼ヤミー「お前は俺の手で殺してやるぜ！」

ドカカツ！！

オーズ「ぐほほっ！？」

のし掛かつた牛鬼ヤミーはオーズにマウントパンチを繰り出しまくる。

アンク「ちつ！たとえ牛鬼ヤミーを振り払ったとしても毒を消すようなメダルはない！？」

たとえ今、コンボ等をしてのし掛けた牛鬼ヤミーを振り払ったとしても牛鬼ヤミーの猛毒でオーズは死んでしまうのでアンクは援護ができないでいた。

そんなとき

ブチッ！

月「劉弁様、劉協様、ねねちゃん大丈夫ですか！？」

月達は捕らわれていた皇帝兄弟とねねの縄を切っていた。

ねね「ふはっ！苦しかったのです」

「

劉弁「おお董卓よ！助けに来てくれたのか」

劉協「それにしてもある黒い男はオーストリアの何者なのじゃ！？」

月「あの人はオーストリアといつて私達の強い味方なんです。今では連合軍の皆さんも味方なんですよ」

月が説明すると

劉協「兄上、さっきのオーストリアが入れ換えていた硬貨をどこかで見ませんでしたか？」

劉弁「そういえば確かここに…」

スツ

劉弁は懐から木箱を取り出して

パカッ！

蓋を開けると

キランツ

そこには三枚のコアメダルがあつた。

朱里「これはコアメダル！？」

桃香「これをどこで手にいれたんですか！？」

劉弁「<sup>イギリス</sup>英國の皇子から友好の証に」と変な笛と一緒にもらつたのじや

」

この時代にイギリスがあるかどうかは西森は知りません。

愛紗「ともかくお借ります!」

スツ!

愛紗は箱から「アメダルを取り出すと

愛紗「アンク殿!」

アンク「なんだよ!」

スツ

愛紗「私があの怪物(牛鬼ヤミー)を引き付けておきますから映司殿にこれをお渡ししてください」

愛紗はアンクに「アメダルを渡すと

愛紗「そこの怪物!私が相手だ!」

ダツ!

アンク「おい待てよつ!?」

愛紗は青龍偃月刀を片手に構えて牛鬼ヤミーに向かっていった。

もちろん愛紗自身ヤミーに勝てるだなんて思っていない。ただ時間稼ぎをしたいのだった。

牛鬼ヤミー「んつ？」

そして牛鬼ヤミーが愛紗に気づいたとき

ズバッ！

牛鬼ヤミーは愛紗に切られた。

牛鬼ヤミー「この野郎…よくも俺の体に傷をつけやがったな！」

ダッ！

牛鬼ヤミーは標的をオーブから愛紗に変えて襲いかかる。

愛紗「そらそらこっちだ！」

ダッ！

だが愛紗の目的は牛鬼ヤミーをオーブから引き離すだけなので愛紗は逃げまくる。

そして牛鬼ヤミーがオーブからだいぶ離れると

アンク「受けとれ映司！」

シユツ！ パシッ！

アンクはオーズにメダルを投げる。

オーズ「このメダルは！？よしつ！」

力チャカチャンッ！

キンキンキンッ！

オーズはメダルを入れ換えてスキヤンさせると

ドライバー『ゴブラ・カメ・ワニ』

ジャキンッ！

オーズはブラカワニコンボに変身した。

オーズ「よしつ！体が動くぞ！」

ブラカワニコンボの能力は再生能力。生体強化物質・ソーマ・ヴェノムによって傷や毒を回復させるのだ。

そしてその頃、

愛紗「くつー？」

牛鬼ヤミー「さて、もう逃げ場がないぜ！」

牛鬼ヤミーが愛紗を追い詰めていた。

牛鬼ヤミー「死になつ！」

ブォンツ！！

牛鬼ヤミーが猛毒の脚を振り上げると

オーズ「ハツ！」

ドカツ！

牛鬼ヤミー「ぐえつ！？」

後ろからやつて来たオーズの蹴りを食らつてしまつた。

牛鬼ヤミー「正義の味方が後ろから不意打ちしていいのかよ！」

オーズ「よそ見しているそつちが悪い！」

どつちが悪いのだろう？

牛鬼ヤミー「どうやつて猛毒を解毒したのかはしらんがもう一度く  
らえ！」

シュシュツ！

牛鬼ヤミーは猛毒の脚をオーズに繰り出しまくる。

だが

オーズ「同じ手は一度も効かないよ！」

ガチンッ！

オーズは両手につけられたゴウラガードナーを合わせると

ガキガキンッ！！

牛鬼ヤミーの脚を防いだ。

ゴウラガードナーは合わせることによりゴーラシールデュオとなり  
どんな攻撃も防ぐ盾となるのだ。

オーズ「せいやーっ！」

ブォンッ！！

ブチブチンッ！！

オーズはワニレッグの蹴りで牛鬼ヤミーの脚を切り裂いていく！

牛鬼ヤミー「よくも俺の脚を切りやがったなーっ！！」

バッ！

怒りの牛鬼ヤミーがオーズに向かってくる。

サッ！

キンキンキンッ！

ドライバー『スキヤニングチャージ』

オーズ「ハアーッ…！」

シャーッ…！

オーズはスライディングしながら牛鬼ヤミーに迫ると

オーズ「せいやーつ！」

ズバンッ…！

必殺技のワーニングライドを牛鬼ヤミーに食らわした。

牛鬼ヤミー「ぐまつ…？」

ドカッ！ バリンッ！

ドッカーンッ…！

そのまま爆発していった。

そしてそのすぐ後、爆発を見て連合軍が城にやつて来たのだった。

## 22 「牛鬼と猛毒と爬虫類コンボ」（後書き）

SCOUNTS MEDALS

現在オーズの使えるメダルは

タカ	2
クジヤク	1
ライオン	1
トラ	1
チータ	1
クワガタ	1
カマキリ	1
バッタ	1
ゴリラ	1
ゾウ	1
コブラ	1
カメ	1
ワニ	1

## 23 「褒美と没収と逆恨み」（前書き）

前回までの三つの出来事

一つ、劉備軍が洛陽の城に潜入

二つ、ガメル達が詠達を救出する。

三つ、オーズが牛鬼ヤミーの不意打ちをくらひ苦戦するが皇帝から  
もらひたメダルで逆転する。

## 23 「褒美と没収と逆恨み」

洛陽にて悪党董卓を名乗り悪さをしていたラグル一味

奴らは本物の董卓（月）だけではなく皇帝兄弟をも人質にとり袁紹（麗羽）を騙して反董卓連合を作り出し洛陽を攻めさせた。

だが洛陽に現れた網切、塗り壁、牛鬼ヤニーは連合軍（主にオーズ）の手により全滅し皇帝兄弟は救出され洛陽に平和が訪れたのだった。

そして洛陽の城・玉座の間

ズラリッ！

いまこの場所には各軍の代表者である麗羽、曹操（華琳）、孫策（雪蓮）、袁術（美羽）、公孫賛（白蓮）、馬超（翠）

月、賈駆（詠）、董卓軍の武将達

皇帝兄弟である劉弁と劉協

劉備軍である桃香、愛紗、鈴々、朱里、離里、星、ガメル（人間態）、アンク、そしてオーズである映司が集められていた。

劉弁「皆のもの、集まつてもらつたのは他でもない。この度の戦いは朕（ちん・皇帝の使う一人称）達兄弟が人質になつたばかりに起きたようなもの、朕達にも責任があると感じておる」

劉弁が頭を下げると

華琳「頭をあげてください皇帝陛下！？」

桃香「そりですよ。知らなかつたとはいへ攻めこんだ私達も悪いんですから」

劉弁「じゃが朕は皇帝として眞に褒美を『えなければならぬ、まず  
劉備よ』」

桃香「は…はいっ…？」

劉弁が桃香を呼ぶと

劉弁「お主達は朕達を助けてくれただけでなく怪物退治までしてくれた褒美として益州の土地とたくさんのお兵達をやろう。益州の太守として益州を発展させるがよい」

劉弁が言つと

桃香「え～つ…？土地なんでもうえませんよー私達はただ当たり前のことをしただけで！？」

桃香が褒美を断つるとすると

映司「桃香、断つちやダメだよ

桃香「でも～」

映司「素直に褒美を受け取らないと褒美をくれた人に恥をかかせることになるんだよ」

つまり桃香が褒美を受け取らざる断ると皇帝兄弟に恥をかかせることになるのだ。

それを思つた桃香は

桃香「わかりました皇帝陛下。」の劉備玄徳、褒美を貰わせていた  
だきます」

桃香の堅苦しい言葉に

アンク「ふつーあの能天氣女があんな口調をいつなんてな

アンクが笑うと

桃香「あつーアンクちゃんそれじゃあ私がいつもぽけーっとしてゐ  
みたいじゃない!」

アンク「違うのか? それとかやん付けするなー」

皇帝の前だとこの二つものような二人

普通のよつた態度をとると斬首されてもおかしくないのだが

劉弁「ほつほつほつ おかしな奴らじやな」

笑つて許す皇帝だった。

劉弁「董卓、お主らがやつていた悪党行為は偽者がやつていたため不問にする。だが洛陽が世間では連合軍の手に落ちた以上好きなどこのに行くがよい」

劉弁が言つと

月「あのう劉弁様、どこに行つてもいいのなら希望があるのですがよろしくですか？」

劉弁「うむかうへ、どこにでも好きなところに行くがよい」

月「それでしたら…」

スツ

月は桃香の方を見ると

月「劉備様、私達を助けてくれた恩としてあなた達の国・益州に入れてください」

桃香「えつ！？私は構わないけどいいの？」

月「はい。劉備様には助けてもらつた恩がありますし今度は私が劉備様をお助けしたいんです」

月が言つと

詠「月が行くならボクも行くわよ！」

恋「…恋も行く」

ねね「恋殿が行くのならねねも行きますぞ！」

華雄「もちろん私もな！」

次々と桃香に集まつていいく董卓軍だが

華雄「張遼（霞）、もちろんお前も来るだらう！」

といひが

霞「悪いけどウチはいかへん、先客があるからな！」

スツ

そう言つて霞が見た先にいたのは

華琳「そういうことよ、張遼は私が先にもうつたんだからね！」

バンッ！

華琳であった。

霞「ちゅーわけで今度会つ時は互いに敵同士になるわけやからよう  
しゅうな！」

華雄「そういうなら仕方あるまいな！」

恋「…霞と本氣で戦つの楽しみ！」

霞「ウチもや！あつ、それより映司はんぢょつとええか？」

映司「何ですか？」

映司が霞に近づくと

霞「月つちの」とは任せたでー（ボソッ）

回つに聞こえないように映司に話すのだった。

映司「<sup>ボソッ</sup>了解」

そして映司も回つに聞こえないように言つと

劉弁「それでは各軍の褒美についてじやが…」

劉弁は迷惑をかけたといって他の各軍にも褒美を下された。

翠率いる西涼軍と孫策率いる吳軍には大金を

白蓮率いる貧乏軍には食料を

美羽率いる袁術軍には蜂蜜を渡し

残るは麗羽と華琳の軍だけになつた。

麗羽「（おーほつほつほつ！わたくしは連合軍の総大将だったのですからもしかして將軍の地位がもらえるかもしませんわね）」

麗羽がまだかまだかと待つていると

劉弁「続いて袁紹」

とつとう麗羽の番がやつてきた。

麗羽「はーはー」

麗羽が勢いよく立ち上ると

劉弁「お主には…」

麗羽「（ドキドキッ！？）」

麗羽がドキドキしながら待つていると

劉弁「褒美は一切なし、代わりにお主の地位と土地と財産をすべて  
没収じや」

麗羽「それはもつ喜んで…ってええ…っ！？」

麗羽が驚いている間に

劉弁「袁紹の土地は曹操、お主がもうひとつよこ

華琳「はつーありがとひざこませす陛下」

勝手に話が進んでいく

麗羽「ちよつとお待ちください陛下、何故わたくしには褒美がない  
ばかりかすべてを取り上げるのですか…？」

「

麗羽が抗議すると

劉弁「何故じやと、自分の胸に手を当ててみい！」

麗羽「胸ですか？」

「ほこりゅう

麗羽が自分の胸に手を当てると

麗羽「大きいですわね」

劉弁「馬鹿者！ わからぬのならば教えてやるわ！」

劉弁「本来朕を守るべき立場のお主が偽者の口車にのつたあげく連合軍を作り上げ、総大将の立場を利用して自分はなにもせずに他のものにやらせてばかり！ そんなお主にやる褒美なんて1元（げん・日本円で約10円）も無いわ！ 本来ならば斬首にしてもおかしくないのじやぞ！ わかったらとつと立ち去るがよい！」

劉弁の説教を聞きまくつた麗羽は

麗羽「はい、わかりました」

素直に従つ。ホントは麗羽だつて逆らいたいのだが逆らつたら斬首にされてしまつので言ひ返せないでいた。

劉弁「朕からの話は以上じや、皆のものはそれぞれ国に帰るがよい

「ついで娘さんにわたる反董卓連合は解散したのだった。

華琳「（あのオーブスの力、絶対もひつさだからね）」

雪蓮「（あの力があれば袁術なんて簡単にやつしちゃられるんだけどな～）」

そして名軍は解散していく

桃香「そうか、翠ちやんは帰つちやうのか」

翠「ああ、この戦いのことを母様に話せなきゃいけないからな。でもこつか必ず益州にいくからその時はよへじへな！」

ダッ！

そして翠も去つていった。

映司「それじゃあ俺達も益州に行かなくちやね」

鈴々「楽しみなのだ」

星「つまごメンマがあるとよこのだがな」

愛紗「お前達ー！我々は遊びに行くわけではないのだぞー！」

詠「ねえ月、ホントにここつまごによかつたの？何だか不安を感じるんだけど」

月「大丈夫だよ詠ちゃん、みんなとつても優しい人達だから」

ガメル「俺も月と一緒にいれて嬉しい」

そして桃香達一行は益州に向かうのだった。

さてその頃、

とぼとぼ

とある道を行く宛のない麗羽達が歩いていた。

猪々子「麗羽様、これからどうするんすか？」

斗詩「土地も財産もお城も兵達もみんな奪われちゃったからね～」

いまの三人に残されているのはわずかな所持金と一着しかない鎧と服だけである。

斗詩「こうなつたらどこかの城に仕えるしか道はありませんよ」

麗羽「冗談じゃないですわ！わたくしのような高貴な人物が何故人につかわれなくちゃいけませんの！」

プライドの高い麗羽が人に仕えるわけがなかつた。

猪々子「このままじゃアタイ腹へつて死んじまつよ～。そうなつたら斗詩、あとは任せたぜ！」

斗詩「文ちゃん！そんな言い方やめてよ！私一人じゃ麗羽様の面倒

みきれなーいよー！」

麗羽「どうしてですか……」

三人がもめていると

?――すべてが憎いから?

何処からか声が聞こえてきた

猪々子一あー！あそこには誰かがいますよ！？

すると猪々子が岩の上に誰かかいるのを見つけた。

岩の上にいたのは

テケ川 何なし俺が手を貸してやるぜ！」

ハンツ!

ラケル（怪人態）であった。

斗詩・あの怪物は何ですか!?

麗羽一と二世は洛陽に現れた怪物と関係があるまいですか」と

麗羽が聞くと

ラグル「そんな」とせどりでもいい！ 一つ聞くがお前は誰を憎んで

いる」

麗羽「えつ？」

ラグル「自分からすべてを取り上げた皇帝か？自分の土地を譲り受けた曹操か？それとも…こんな結末にした劉備か？」

この中から麗羽が選んだ答えは

麗羽「劉備ですわ！あの人さえいなければわたくしがこんなことになるはずがありませんでしたのに！」

完全な逆恨みである。

ラグル「俺もあのオーブには因縁があつてな、よかつたら手を貸すぜ！」

ラグルが言つと

麗羽「了解ですわ！劉備をここにできるのならば怪物の手でも借りなければいけませんからね！」

斗詩「麗羽様！？」

猪々子「簡単に決めちゃつていいんですか！？」

二人が抗議すると

麗羽「（お黙りなさい…）のわたくしがあんなやつに仕えるはずがないでしょ。利用するだけ利用してあとはポイですわ」

「

悪い性格である。

ラグル「では俺についてこい」

## 24 「袁紹と同盟と復活のグリーード」

ラグル「俺についてきたければしつかりと拘まりな

そして麗羽達は

麗羽「こうなつたらついていきますとも！」

猪々子「まあ麗羽様を置いとけないしな

斗詩「今さら他のところにも行けないしね

がしつ！がしつ！

そして三人はラグルに拘まると

シウンッ！

麗羽達とラグルは消えてしまった。

そして現れた先は…

名もなき城

パツ！

ラグル「着いたぞ

麗羽「えつー？」

斗詩「ここは一体！？」

猪々子「あたい達さつさまで荒野にいたのに何で城の中に入るのは…？」「

三人が驚いていると

ラグル「お前達をあの方に会わせるからつっこい」

猪々子「（どうするんですか麗羽様！？）

斗詩「（あの人（？）胡散臭い（うさんくせ））から信用できませんよ。逃げるなら今ですよ！）

だが麗羽は

麗羽「（お黙りなさい！あの怪物を利用するまでわたくしは帰りません。帰りたいなら一人で帰りなさい…）

しかし麗羽を置いとけないし、ここがどこだかわからないので帰れない二人はしぶしぶ麗羽についてこくのだった。

ラグル「何をもたもたしているー早くつっこい！」

なかなか来ない三人にラグルが怒鳴る。

ラグル「（まったく、あの方も何を考えているのだ？あんな馬鹿な女が何の役に立つといつんだ？）

実は麗羽達をつれてきたのはラグルではなくあの方に命令されて  
つれできただけであった。

そしてラグルは三人を城の玉座の間のような場所につれていく。

ギィーッ！

扉が開いて中を覗いてみるとここにいたのは…

左慈「この外史で会うのは初めてだつたな袁紹」

バンッ！

ラグルのボスであり電王に倒されたはずの左慈だった。

電王の外史で左慈は麗羽達をよく知っていたが、この外史の麗羽達  
は左慈を知らないので

初めて左慈を見た三人は

麗羽達『ギャーッ！？』

ビビビビオーッ！？

驚きながら逃げていった。

猪々子「見たかよ斗詩、緑色の変な液体の中に入がいたぜ！？」

斗詩「見た見た！おまけにその人の頭しかなかつたよね！？」

左慈は電王に殺された傷を癒すため特殊な液体に入り、現在殺された衝撃で頭と上半身の一部しか再生できていないのだった。

麗羽「やはりここは化け物屋敷だったのですね！？さつさと逃げますわよ！？」

今さらながら麗羽達は逃げよつとするが

スツ！

ラグル「どこへいく？」

前をラグルに阻まれた。

斗詩「いつの間に前へ！？」

猪々子「麗羽様、止まってくださいよー？」

麗羽「おーほっほっほっ！急に止まれるわけないでしょー。」

三人は一列で逃げていたため

前にいた麗羽が

ドシンツー！＝

ラグルにぶつかると

ドシンツー！＝

ドミニノ倒しのように後から来た猪々子と斗詩もぶつかり合つのだつた。

ラグル「世話の焼ける奴らだぜ」

スツ

そしてラグルは三人を抱ぎ上げて玉座の間に行くのだった。

城の玉座の間

麗羽「お止めなさい！わたくしを殺したら全世界の人やこの小説を読んでくれている人が泣きますわよ！」

そんな人がいるのやら？

ちなみに麗羽達は逃げられないよう柱に縛り付けられていた。

左慈「騒ぐな！別にお前を殺す気はない！お前の力が必要なだけだ

」

左慈が言つと

猪々子「斗詩、麗羽様に力なんてあつたか？」

斗詩「うーん、大きな声が出せるとか？」

左慈「そんなもんじやない！お前は他にはない（欲望の）力の持ち主だ。俺は仮面ライダーを倒したい、お前達はライダーと一緒にいる劉備を倒したい。目的が同じならば手を組んでも互いに損はない

はすだ

左慈が言つと

麗羽「うふふ、このわたくしの（天分（てんぶん・生まれつき持つている才能）の）力を見抜くだなんてなかなかいい日をお持ちですわね。いいでしょ、この袁紹、及ばずながら（力不足ですが）手を組んであげますわ！」

左慈「交渉成立だな」

「ひして悪の同盟が誕生してしまった。

猪々子「（ちよつと麗羽様！？）

斗詩「（あんな化け物みたいな人と手を組んでいいんですか！？）

「

二人が麗羽に言つと

麗羽「（お黙りなさい！今は相手を喜ばせておくのがいいに決まつてますわ。同盟を組む振りをしてこの場所を皇帝陛下に教えてあげれば…）」

（麗羽の妄想）

劉弁「なんじゃとー？洛陽を地獄にした一味の城を見つけたとな！？」

麗羽「その通りですわ皇帝陛下」

劉弁「袁紹、よくぞ知らせてくれた。それに引き換え劉備は何をしておったのじゃ！」

桃香「スミマセンー？ 引越しに夢中だったんで…」

劉弁「馬鹿者！ 罰として劉備にやつた益州は袁紹に渡す。見事知らせてくれた袁紹には大將軍の地位をやるが…」

麗羽「ありがとう！」わざわざ皇帝陛下

桃香「ふえ～ん…！」

（妄想終了）

麗羽「（ぐふふつ！ わたくしは大將軍の地位がもられ、劉備は領地没収。なんて輝かしい未来なんでしょう！ おーほつほつほつ…）」

都合のいい妄想である。

だが世の中はうまくいかないものだ。

ラグル「回贈の証としてこの腕輪をつけて」

キランツ

ラグルは箱からキラキラした腕輪を取り出すと

麗羽「ありがとうございますわー！」

力チャリッ！

さつそく腕輪をつける麗羽

麗羽「あなた達もつけなさい！」

猪々子「えつ！？」

斗詩「あつ！？」

力チャヤ力チャリッ！

そして麗羽が無理矢理二人に腕輪をつけると

麗羽「あ～ら、ちょっと廁トヤに行つてきますわ」

廁に行つた隙に皇帝へ連絡しようとする麗羽だが

左慈「行くのは構わないが城の外に出るなよー俺の許可なく城の外に出た場合、腕輪が爆発するからな」

左慈が言つた直後

麗羽達『えつ！？』

驚く麗羽達

左慈「この腕輪は俺に対する忠義の証だ。つけたら絶対外れないし、無理矢理外そうとすれば爆発する仕掛けになつてゐるんだよ。袁紹、特にお前は信用できないからな」

魔王の世界で麗羽をよく知っている左慈だからこそ、麗羽の性格を理解していた。

麗羽「そんな！？」

### ガツクリ

計画通りいかずガツクリと頃垂れる（うなだれる）麗羽だった。

猪々子「だからあたいは嫌だと言つたんだよ」

斗詩「だいたい今まで麗羽様の妄想がうまくいったためしがないからね」

二人が言つと

左慈「ではそろそろ準備をしろラグル！」

ラグル「了解です。おいつ、お前達も手伝いな」

麗羽「はあ？ 何でわたくしが…」

自分以外の命令は絶対聞かない麗羽だったが

ラグル「今すぐ死にたいらしいな（ギロリッ…）」

ラグルが麗羽を睨み付けると

麗羽「承知しましたわ！？」

ビュンッ！！

さすがの麗羽も強いものには逆らえないのだった。

そして麗羽達がラグルに言われて用意したものは

猪々子「変な硬貨だな？」

斗詩「こんなにたくさんどうするんだろうね？」

大量のセルメダルだった。

ラグル「それはな…」

スッ！ ジヤララッ！

ラグルは手から数枚のコアメダルを取り出すと

ラグル「いりするのやー！」

ひゅんつ！

コアメダルをセルメダルの山に投げ入れた。

すると…

ガガガッ…！！

ガガガッ…！！

「ハハハッ…！」

投げ入れたメダルを中心にセルメダルが人型になつていき  
ジャーンッ！

セルメダルはそれぞれカザリ、ウヴァア、メズールの姿になつた。

猪々子「どうなつてんだよ斗詩…？」

斗詩「文ちゃん、私だつてわからないよ！？」

果たして復活したグリード達はどうなつてしまつのだらつか！？

そして今後の麗羽達の行方はいかに！？

## 24 「袁紹と同盟と復活のグード」（後書き）

オリジナルカンドロイド紹介

・サイカンドロイド

ライドベンダーと合体してサイライドベンダーになる。サイライドベンダーはサゴーゾコンボでしか制御できない。

ヤミーファイル

・塗り壁ヤミー

巨大な体をし、体は相手を飲み込んだり押し潰すことが可能。怪力の持ち主

・牛鬼ヤミー

頭は牛、背中には蜘蛛の八本足を生やしたヤミー。蜘蛛の足は猛毒が塗られておりかすつただけでも致命傷になる。「コロバーン」と炎弾を弾くほどの強敵

## 25 「復活の理由と鍛錬と信頼」

麗羽達を子分にしたラグル一味

そしてラグル達は大量のセルメダルを使ってカザリ達を復活させようとしていた。

ラグル「ただ復活させただけじゃあいうことは聞かないし、こいつらには腕輪の脅し（おどし）は効かなさそうだしな」「

スッ！

ラグルは自分のコアメダル（オニ・テング・キュウビ）を一枚ずつ出すと

ラグル「受けとるがよい！」「

シユツ！　スッ！

完全に復活される前にラグルは自分のコアメダルをカザリ達に入れた。

バンッ！

そしてカザリ達は復活したのだった。

猪々子「これって虎牢闇に現れた怪物に似ているな！？」  
ガメル

斗詩「誰なんですか！？」

ラグル「そうだな、お前達には教えておこう。まず（ラグルから見て）左にいるのは……」

ウヴァ…クワガタの顎状の角<sup>アゴ</sup>、カマキリの鎌、複眼、外骨格、節足的な突起に覆われたボディをもつ昆虫系怪人。考える前に行動する单細胞

カザリ…トレッドヘアー状に編まれたライオンの鬚<sup>ヒゲ</sup>、鋭い牙、トラのような縞模様<sup>しま</sup>のボディを黒いパンクパッションで包んだ容姿をした猫系怪人。ずる賢い策略家

メズール…シャチを模した頭部、ウナギが巻き付いたようになつた首元、タコを模したマント、タコの吸盤状の脚部をしたグリードの紅一点である水棲系怪人。プライドが高い

ラグル「というわけだ」

斗詩「へ～」

猪々子「なるほど」

麗羽「納得している場合じゃありませんわよーこんな怪物達を産み出してどうしようといいますの！？」

ラグル「安心しろ。以前（オーズの世界）の記憶はあるが俺のメダルの力によって俺と左慈様には逆らえないようになっている。（ホントはガメルとロストアンクも復活させたかったができなかつたら仕方あるまい）」

何故ガメル達も復活させなかつたのかと、うとガメルは核となるコアメダルが無いため、ロストアンクはこの小説の時代設定がロストアンクが倒された後の話のためコアメダルが足りないためできなかつた。（ロストアンクが倒された時にコアメダルを三枚破壊されたため）

ちなみにカザリ達のメダルは残りのメダル六枚（メズールは利用価値があるということで三枚はラグルが持つている）とラグルのメダルがそれぞれ一枚ずつ入つていてる。

ウヴァ「何故だか知らないが復活できたようだな」

メズール「ガメルの姿が見えないけどね」

グリード達が話をすると

カザリ「ところでさ、僕達を倒した君が何故僕達を復活させたの？」

「

ギロリツ！

カザリはラグルを睨み付ける。元々カザリ達はラグルによつて倒されたのだ。

ラグル「簡単にいうならば戦力補給だ。お前達はこの俺と左慈様のために働くのだ」

ラグルが言つと

ウヴァ「何で俺達がお前達に従わなくちゃならないんだよ！」

「

メズール「絶対に嫌よ」

当然ながら働きを断るグリード達

ラグル「この世界にオーズも来ている。ガメルもオーズの味方についているといつてもか？」

ピクンッ！

ラグルが言つとグリード達は態度が変わり始めた。

カザリ「そういうことなら話は別だよ。僕達の目的はオーズを倒すことだしね」

ウヴァ「貴様を倒すのはオーズを倒してからでも別にいい」

メズール「まさかガメルがオーズの味方になつていたとはね」

ラグルのメダルが入つているのも理由のひとつだがオーズを倒すと  
いうことで協力するカザリ達だった。

ラグル「こいつらは自由に使え！」

スッ！

と麗羽達を指差すラグル

麗羽「何ですって！何故わたくしがこきつかわれなくちゃ……」

麗羽が抗議しようとする

ラグル「嫌なら無理矢理外に出して爆発させるまでだ」

スツ

ラグルは麗羽達につけられた腕輪を一つ取り出すと

ラグル「こんな風にな」

ポイッ！

城の外に放り投げた。すると腕輪は城から出た直後…

ドッカーンッ！！

麗羽達『・・・！？』

見事に爆発していった。

ラグル「これで脅しじゃないことがわかつただろう。わかつたら素直に従うことだな」

スツ

そしてラグルは去つていった。

猪々子「あの～麗羽様！？」

斗詩「私達ともない人に拾われたんじゃー！？」

麗羽「これは夢に決まつてますわ！？そりでしょ！でなければわたくしが領地を没収されるわけがありませんもの！こんな夢なんてさつさと覚めなさい！」

ポカポカッ！

猪々子「麗羽様完全に現実逃避してるよ！？」

斗詩「気持ちはわからなくもないけどね」

ラグル達が暗躍を進めている頃、そんなことが起きているのも知らず益州に引っ越してきた映司達はといふと

益州・執務室

桃香「ふえ～ん！いくらやつても仕事が終わらないよ～」

ズラリツ！

桃香の皿の前には山のように積まれた仕事があった。

益州に引っ越してきて数日、町について詳しく知る必要があるということで人口、建物の位置、兵の確認、食料の数等を詳しく知らなければならないのだが

愛紗「桃香様が悪いのですよ！毎日毎日、町の子供と遊んでばかりいるから」

桃香は朝は寝て、昼から起きて子供と遊び、夜は疲れて眠るという

毎日をおくつっていた。

だがその間に桃香がやらなければいけない仕事が溜まりこ溜まり、  
今日中にすべてを終わらせなければならなくなつたのだ。

愛紗「まったく、鈴々ですら時折仕事をしていましたのに…」

ちなみに他のみんなは数日分の仕事を終えて数日は休みになつている。

愛紗「それでは今日は私も休みなので休みますが桃香様は仕事を終  
えるまで部屋から出てはいけませんよ…」

桃香「部屋から出でていけないって、廁に行きたい時はどうするの  
!?」

愛紗「部屋の隅すみに丸があるのでそれを使つてください! それでは  
」

バタンツ

愛紗が部屋から出ると

桃香「愛紗ちゃんの鬼一つ! 手伝ってくれてもいいじゃない!」

ちなみに映司や朱里と離里は手伝おうとしたのだが愛紗から『甘や  
かしてはいけません!』と言われたのだった。

桃香「いいもんつ! 勝手に遊びに行くんだから 鬼(愛紗)の居ぬ  
間に洗濯だよ」

鬼の居ぬ間に洗濯…怖い人がいない間にくつろぐ」と

ガララーッ！

桃香は窓から前から作つておいた脱出用の繩ばじーを降らすと

桃香「バイバイ愛紗ちゃん」

繩ばじーから逃げようとする桃香だが

ウホウホッ！！

桃香が部屋から出た途端騒ぎ出す「コラカンドロイド。

桃香「えつー？ちょっと静かにしてよー？」

繩ばじーから止めようとする桃香だが

ぐらつ

桃香「へつー？」

繩ばじーは意外と難しく、足の力が均等でないと

シャーッ！！

桃香「あーつー？」

ドッシーンッ！！

絡まつたり落ちる危険があるので。

映司「んつ？今何か音がしたような気が？」

鈴々「そんなの氣のせいなのだー早く鍛練するのだー！」

映司「わかつたよ鈴々」

力チャカチャンツ！

キンキンキンツ！

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャキンツ！

オーズ「それじゃあいくよ鈴々！」

鈴々「こいなのだお兄ちゃん！」

今日はヤミーとも戦えるようオーズを相手に訓練する武官だった。

華雄「しかしコンボチェンジなしでも勝てないとはさすがにオーズの力は強いな！？」

星「それもあるが強いのは映司殿だらつ。手合わせる」と強くなっているのがよくわかる

「

恋「… 映司は実戦で力をつける系」

そして鍛練していると

月「皆さん、お茶の用意ができましたので一休みしましょう」

月と詠がお茶を持ってきてくれた。だが一人の格好は…

詠「何なのよ、この格好は！」

バンッ！

今の一人の格好はメイド服だった。

オーズ「俺の世界の給仕服だよ。いやー、俺がバイトしていたクスクシエットところで給仕フェアをやっていたのが記憶に残っていてよかつたよ」

給仕服には違いないかもしねないが少しおかしい気がする。

月「でも私はかわいいから気に入っています」

詠「ゆえ〜」

月が変わってしまって落ち込む詠だった。

月「朱里ちゃんと雛里ちゃんとガメルさんも手伝ってくれたからお菓子もたくさん作れましたよ」

朱里「お菓子作りは任せてくれださー！」

雛里「映司さんが教えてくれたお菓子も作ってみましたよ」

ガメル「どれも美味しい」

鈴々「あーっ！ガメルのおじちゃんずるいのだ！鈴々も食べるのだ！」

そしてその頃、城の城壁では

ジャラツ！

アンク「あと手に入れてないのはメズールのコアメダルが、そしてラグルが持つ他のコアメダルもすべて俺が手に入れてやるぜ！だが、そのためには奴ら（愛紗達）の力が必要不可欠だから今の間だけでも利用させてもらひつか！」

アンクがそんなことをいつている影では

愛紗「（アンク殿、私はあなたが私達を利用しようだなんてとても思えない。いつかその考えが消えることを私は信じています）」

アンクを信頼する愛紗だった。

そして数時間後、

窓の近くに桃香が倒れているのを発見され、桃香は愛紗から説教を受けるはめになつたといつ。

## 25 「復活の理由と鍛錬と信頼」（後書き）

映司「劇場版 仮面ライダー×仮面ライダー フォーゼ&オーズMOVIE大戦MEGAMAX 大ヒット公開中！（2011年12月11日現在）」

アンク「俺達オーズとフォーゼの活躍を見逃すな！」

ラグル「次こそは俺も映画に…」

ガメル「あんた小説オリジナルキャラだから絶対出ない」

## 26 「謀反と増援と攻める袁紹」

映司達が益州に引っ越してから数ヶ月、大陸には様々なことが起きていた。

建業

ガキンツ！

七乃「きやあつ！？」

ドシンツ！

美羽「七乃！？」

ぶつ飛ばされた七乃に近付く美羽。いま袁術（美羽）の所では孫策（雪蓮）が謀反むほんを起こしていた。

雪蓮「さうて…」

ジャキンツ！

宝剣・南海霸王を美羽に向ける雪蓮

雪蓮「よくも今まで散々扱き使つて（こきつかつて）くれたわね袁術、覚悟なさい！」

ギロリツ！

雪蓮が美羽を睨み付けると

美羽「あわわ…妾わいわが悪かったのじゃ許してたもう!？」

じょろる~

お漏らしをしながら美羽は許してもらうよう頼むが

雪蓮「ダメよ！よくも人を胸がでかいせいできつくり腰になつただ  
なんて言つてくれたわね！」

美羽「ぴいつ！？」

この噂の発生源は蓮華である。（11話参照）

七乃「孫策さん待つてください！私の命は差し上げますからお嬢様  
の命だけは助けて…」

雪蓮「嫌よ！」

美羽「ならば妾の命をあげるから七乃是見逃してたもう！」

七乃「お嬢様！？」

美羽「七乃是妾にとつて大事な人なのじゃ！」

七乃「お嬢様！」

美羽「七乃！」

ガバッ！

絆の強い二人が抱き合ひのを見た雪蓮は

雪蓮「仕方がない、あんたなんか殺したってつまらないから殺しやしないわよ」

雪蓮は美羽達を許すのだが

美羽「（七乃の言つた通りじゃのうー。）

七乃「（でしょう孫策さんなんて単純なんですから抱き合つていれば許してくれると思つていましたよ）

と一人は思つていた。

だが世の中そんなに甘くはない！

雪蓮「よいしょつとー！」

美羽「ふえつ？」

ひょいつ！

雪蓮は美羽を小脇こわきに抱えると

雪蓮「殺しはしないけど、今までの鬱憤うつぶん払いに扱き使つてあげるわ  
帰つたらお尻百叩きしてあげるから覚悟しなさい」

美羽「なつー？」

「これは計算外であった。

美羽「百叩きは嫌なのじゃ～！」

雪蓮「じゃあ、百叩きと首切りどつちがいい？」

美羽「うつー？ 百叩きで…」

まだ百叩きの方がマシである。

この後、七乃も雪蓮に引き取られるのだった。

そして益州でも

翠「よつ！ 来たぜ桃香！」

翠が軍を率いて益州にやつて来た。

桃香「来ててくれたんだね翠ちゃん！」

翠「ああ、母様が約束したんなら行つてこつて言つたからな。大量の軍馬を連れてきたぜ！」

ズラリツ！

愛紗「これで早く移動できるよ！」となるな

鈴々「さすがは翠なのだ！」

みんなが言つてみると

? 「（じ～つ）」

映司「え～っと、君は誰？」

翠に似た服を着た女の子が映司を見つめていた。

? 「あなたが映司さん？」

映司「そうだよ」

映司が答えると

? 「ふ～ん、お姉様は強いつていうけど見た目は弱そうだね」

翠「いや～ 蒲公英<sup>タンポポ</sup>すまないな映司、ここはあたしの義妹の馬岱<sup>タンポポ</sup>って言うんだ」

タンポポ「馬岱だよ真名はタンポポだよ。よろしくね」

翠「あたしが益州に行くつて言つたらどうしていつもまだから連れてきちゃつたんだ」

タンポポ「にしそつ…だつて連れていかないなりこの間おねしょしたことをおばさま（馬騰…翠の母）にバラすつて言つたらお姉様顔を真つ赤にして…」

タンポポが最後まで黙つてすると

「チンギー＝ミ

タンポポ「いた～い！」

翠「余計なことをいうんじゃねえよ！」

映司「あはは」

そんなこんなで楽しい毎日過ごしていた映司達は知らなかつた。現在魏では大変なことが起きているのを…？

魏の国

華琳「真桜、例の物はできてる？」

真桜「ウチに任しといてや華琳様！いつでも使えまつせ！」

華琳は魏にやつて来た李典（真桜）、樂進（凧）、于禁（沙和）を軍にいれて軍の強化をしていた。

そして真桜にあるものを作らせたのだ。

そんなとき

秋蘭「華琳様大変です！？」

秋蘭が慌てて華琳に向かつてきた。

華琳「秋蘭、そんなに慌ててどうしたの？」

華琳が聞くと

秋蘭「我が國に敵軍が近づいています！？」

華琳「何ですって！？それで旗は誰の旗なの？孫策？劉備？」

ところが秋蘭が答えたのは

秋蘭「それが…袁なのです」

秋蘭が言つと

華琳「ハア～、秋蘭慌て損ね。領土も兵もない袁紹に対して慌てる必要なんてないわ！」

華琳はまるで袁紹を相手にしていない感じだったが

秋蘭「それだけなら私だつて慌てません！とにかく袁紹軍を見てください！」

華琳「は？」

秋蘭がそこまで言つので華琳は城壁から袁紹軍を見てみると

華琳「あれは！？」

華琳は驚いた。何故ならば…

麗羽「おーほつほつほつーーのまま曹操さんをこじらせてやりなさい！」

ズラリツ！

櫓に乗った麗羽の回りにいた兵が肩ヤミーだったからである。

華琳「何であの馬鹿が化け物を率いているのかは知らないけど、我が国内に入った以上は敵とみなす！総員、戦闘準備をしなさい！」

魏軍『了解しました！』

ダツ！

魏の軍達は華琳に言われたように戦闘準備をする。

華琳「袁紹、領土を私に取られて向きになつて私を攻めてきたのならたとえあなたが化け物を率いたとしても返り討ちにしてあげるわ！」

普通の兵より強い肩ヤミー相手でも麗羽に勝つ氣の華琳。確かに肩ヤミーだけならば華琳が麗羽を返り討ちにしていただろう。ところが  
ウヴァ「さつきからあいつ（麗羽）うるさいな」

カザリ「僕達を目立たなくするためとはいえあのおばさん（麗羽）に従う羽目になるなんて残念だよ」

メズール「仕方がないじゃない。あの馬鹿（麗羽）だけじゃ勝てないからお前達も行けつて大将ラグルに言わたんだからさ」「

バーンツ！

肩ヤミーの中に紛れて（まぎれて）ウヴァ達（人間態）がいたのだ。

ちなみにウヴァは緑のジャケットを着たオールバックの青年、カザリは黄色の上着を着た銀髪の青年、メズールは洋服を着た少女の姿をしている。

斗詩「まさか曹操さんと戦うことになるなんてね！？」

猪々子「いまの間だけあの化け物にかけられた腕輪の爆弾は解かれているけどあたい達が裏切つたり逃げた途端に爆発するって言つてたからな！？」

用心深いラグルであった。

そしていよいよ華琳VS麗羽の戦いが始まる。

## 26 「謀反と増援と攻める袁紹」（後編）

「の先を書くと長引かねつなので戦いは次回になります。

## 27 「激戦と秘密兵器と拐われた華琳」（前書き）

前回の二〇の出来事

一〇、雪蓮が美羽を攻める。

一一、桃香の元に翠とタンポポが合流

一二、華琳の領内に麗羽が攻めてくる。

## 27 「激戦と秘密兵器と拐われた華琳」

魏の城・玉座の間

この場所で突然攻めてきた麗羽を迎え撃つべく主要人物が集まり、作戦会議を計画していた。

華琳「まさか麗羽が化け物（屑ヤミー）を引き連れて我が領内に攻めてくるとはね！？」

さすがの華琳も予想外の展開に驚くしかなかった。

桂花「あの馬鹿（麗羽）は目的のためならたとえ悪魔に魂を売り渡しても目的を達成しようという邪惡の塊なんですよ！」

数ヶ月の間、麗羽の所にいた桂花だからこそ言える台詞であった。

華琳「確かに桂花の言つ通りね。稟、風、何か作戦はあるのかしら？」

あの反董卓連合以降で華琳の軍に新たな仲間達が加わった。

稟「我が軍の兵はおよそ10万、それに対しても袁紹の軍は軽く見ても30万以上はいますね。数では絶対不利ですよ」

戦いの基本は兵数である基本通り言つ稟だが

華琳「そうとは限らないわよ。数が多くたって一人が怯えれば恐怖は伝染するわけだしね」

以前の華琳だつたら戦いは数だと言つていたが映司と出会い、その考えが変わつてきいていた。

華琳「ともかく、相手が袁紹だからといつて化け物を率いているのだから油断しないこと！總員、配置について一度と袁紹が攻めてこないようすに叩き潰してやりなさい！」

魏軍『了解しました！』

ダツ！

華琳に言われてそれぞれが配置につく魏の將軍達

華琳「真桜、例の秘密兵器は状況次第で使いなさい！」

真桜「わかりました。任しといてください！」

この会話を聞いていた桂花は

桂花「（秘密兵器つていうと確かに真桜には投石機を頼んでいたはず、それをいよいよ使う時が来たのね）」「

そして華琳が指揮をとるため移動すると

秋蘭「お待ちください華琳様！」

秋蘭が華琳を呼び止めた。

秋蘭「相手が化け物ならば劉備軍の映司オースに助けを求めるのですか

?悔しいですが奴の力は強いですしね…

秋蘭が言つと

華琳「確かにオーズの力を使えば化け物相手でも勝てる。けれども私はあいつに何度も貸しを作っているの、これ以上あいつに貸しを作るのはごめんだわ」

スツ！

そう言つて華琳は去つていった。

そして袁紹軍VS曹操軍の戦況はといふと

?「でいやーっ！」

ドッゴーンッ！！

?「たあーっ！」

バツキーンッ！！

屑ヤミー達『ギィーッ！？』

屑ヤミーを相手に一人の女の子が巨大鉄球と巨大円盤を振り回して暴れまくっていた。

季衣「こいつら力がなくて弱いけど

流琉「数が多いから大変だね！？」

二人が疲れている横では

霞「おりやおりやーつ！洛陽ではよくも操ってくれたなー！」

肩ヤミー達『ギィーッ！？』

ボンシップオンツ！

霞が飛龍偃月刀を振り回しながら肩ヤミー達を追いかけ回していた。

季衣「霞様すごいね！？」

流琉「まるで春蘭様みたいだよー！？」

いつもの霞ではないような気がして驚く一人

そしてその春蘭は

春蘭「くしゅんっ！誰かが私の噂をしているな」

大きなくしゃみをしていた。

数で圧倒する袁紹軍を精銳達で倒しまくる曹操軍だが

肩ヤミー達『ギィーッ！』

秋蘭「くそっ！倒しても次から次へと出でてきりがないー！？」

無限の数で攻めてくる袁紹軍に曹操軍は少しずつ数を減らされてき

ていた。

そして戦況を崖の上から見ている者達がいた。

風「ほほう、真桜ちゃん、我が軍は徐々に数を減らされて危機なのですよ。今こそ秘密兵器の出番じゃないのですか？」

頭に太陽の塔のようなものを乗せた軍師・風が声いつと

真桜「そうやな」

スツ！

真桜は布がかけられた何かに近づくと

真桜「秘密兵器の出番やで！」

バサツ！

勢いよく布を外す真桜

そして布がかけられていたものの正体は…

ジャーンツ！

桂花「何なのよこれ！？」

桂花が驚く限りこれは指示をさせて作らせた投石機ではなかつた。

桂花「ちょっとあんた！投石機を作つてたんじやないの！」

「

桂花が真桜に言つと

真桜「それが…最初は投石機を作るつもりやつたけど、大将から坊<sup>オ</sup>主<sup>オズ</sup>の話を聞いてウチらが持つている硬貨が気になつて調べてみたんや、そしてこの硬貨は物凄い力を秘めてるつてことがわかつて秘密兵器を作つたんや！」

スツ！

そして真桜はズボンから一枚の硬貨を取り出した。

この硬貨は真桜達三人が村を出る時に長老からもらつたお守りである。

ちなみに真桜の硬貨にはドリルが描かれていた。

同じように凪の硬貨には戦車が、沙和の硬貨にはジェット機が描かれていた。

真桜「そしてウチらの持つ硬貨と凪の氣によつて完成した秘密兵器、その名も…眼打流武羅星や！」

ババンッ！

凪「真桜、説明はいいからいくぞ！」

真桜「わかつた。沙和、頼むで！」

沙和「任してなの」

じーつ！

沙和は戦況をじーつと見つめると

沙和「凪ちゃん、右に45度移動させるのー。」

凪「了解！」

ググツ！

凪は沙和に言われた通りに向きを変える。

沙和「そこで良いなのー。」

凪「承知した！」

「オーッー！」

ブ拉斯ターの操縦席にいた凪が気を溜めると

キイインッ！

ブ拉斯ターにセットされていた三人の硬貨<sup>コアメダル</sup>が連動してどんどん凪の  
気の力を強めていき

凪「発射！」

ドキュー——ンッ！

最後には巨大な光線を発射した。

ズガガーッ！！

屑ヤミー達『ギギイーッ！？』

シユ～ツ！

ブラスターを受けて次々と消滅していく屑ヤミー達

真桜「ええで凪！そのまま消滅さしたれ！」

ところが

シユ～ツ

いきなりブラスターが消えてしまった。

凪「ハアハア…少し休ませてくれ！？」

この秘密兵器は凪の気をエネルギーにしているため凪が攻撃をやめると消えてしまうのだ。

真桜「仕方ないなあ、少し休憩にしようか」

沙和「今の一撃でだいたい数万は倒せたなの

秘密兵器がうまくいって喜ぶ三人

その頃、戦場では

春蘭「敵の数が減つたな！？」

秋蘭「真桜の秘密兵器がうまくこつたのだろう」

霞「残りの奴らはウチラで蹴散らしたるで！」

季衣・流琉『おおーつ！』

残りのメンバーは氣合<sup>いきあ</sup>を入れて肩ヤミー達を蹴散らしていく！

袁紹軍本陣

麗羽「これはビックリのことですの！？あの化け物が『この戦いは必ず勝てる！』と言つから私自ら出陣しましたのに負けそうじゃありませんの！？」「

猪々子「あの人そんなこと言つてたか？」「

斗詩「確か『曹操を捕らえてここ！…そもそもくば腕輪を爆発させるだ！』って齎されていたような…」「

麗羽「お黙りなさい！肩ヤミーをつれていれば絶対勝てると思つていましたのにどうしてくれますの！」「

一人で叫ぶ麗羽に

ウヴァ「叫ぶんじゃねえよー！るをい奴め」「

カザリ「この人を見ると人間つて惨め（みじめ）だなって思つてく

るよ」「

メズール「ラグルの言つた通りね、このオバサン一人だつたらこの戦いは負けていたわね」

その展開は読者も予想がついていただろう

ウヴァ「それじゃあそろそろ暴れるとするか」

カザリ「ラグルに従つよつうな形で嫌だけど曹操を勝たせるわけにはいかないしね」

メズール「いくわよ！」

ズズンツ！

そして三人は怪人態に変身した。

麗羽「ひいつ！？」

猪々子「何度見ても不気味だぜ！？」

斗詩「怖いよ！？」

三人が驚いていると

ウヴァ「じゃあ俺達はいくからな！」

メズール「あんた達は祝勝の準備でもしひきなさい」

カザリ「君達にはそれしかできないしね」

スッ！

そして三人は去つていった。

戦場

沙和「んっ！真桜ちゃん、敵陣から不気味な奴らが出てきたなの！」

」

真桜「また化け物かいな。凪、一発お見舞いしたれ！」

凪「わかつている！ハアーッ！」

キィインッ！

休憩を終えた凪が氣を溜めると

凪「発射！」

ドキュ――ンッ――！

ブラスターをカザリ達目掛けて発射した。

だが

ウヴァ「こんなもんに屑ヤリー共は殺られたわけか

」

メズール「弱すぎね

」

スツ！

ウヴァとメズールは構えると

ウヴァ・メズール『ハアツ！』

バチバチッ！ブシューッ！

ウヴァは雷を、メズールは水流をブラスターに当ててきた。

すると

シュンッ！

ブラスターは力負けして消えてしまった。

真桜「ウチの秘密兵器が負けた！？」

ブラスターを設計した真桜が驚いていると

カザリ「ウヴァ、メズール、僕は曹操を連れてくるから時間稼ぎお願  
いね」

ウヴァ「ちつ！わかつたよ！」

メズール「ただし五分以内で帰りなさい！」

カザリ「わかつたよ五分だね！」

シユンツ！

そしてカザリは風のよつに消え去ってしまった。

魏の城

華琳「秘密兵器が打ち消されるなんて…？奴らは一体何者なの…？」

」

城壁から戦場を見ていた華琳が驚いていると

？「僕達はグリード、欲望の怪人や」

華琳「誰っ！？」

突然後ろから声が聞こえ、華琳が振り向いてみると

カザリ「はじめまして曹操さん」

バンッ！

そこにはカザリがいた。

華琳「あなた一体どこから来たの！？警備の兵はどうしたのよ！？」

」

華琳がカザリに聞くと

カザリ「どこからって、もちろん玄関から入ってきたに決まってるじゃん。警備の兵なら弱すぎたから殺しちゃったけどね」

」

スツ！

カザリは一人の兵の首を華琳に見えるように見せる。

カザリ「君の仲間もこうなりたくないければ大人しくついてきてくれない。僕らの目的は君を拐う（さらう）ことなんだからさ」「

カザリの言葉に華琳は

華琳「答えは……」

ギュツ！

華琳「いいえよつ！」

ブオンツ！！

華琳は死神鎌・絶を握りしめてカザリに斬りかかる！

だが

ドグボツ！！

華琳「がはつ！？」

カザリ「残念だよ」「

華琳の攻撃がカザリにとどく前にカザリの攻撃が華琳の鳩尾みぞおちにヒッ  
トした。

ドサッ！

鳩尾をやられた華琳は氣を失つてしまい

ひょいつ！

カザリ「これで任務完了と」

カザリに担げられると

カザリ「さよならね」

ビュンッ！

そのままカザリにさらわれてしまつた。

戦場

秋蘭「んつー妙だな敵が下がりはじめている」

秋蘭は屑ヤミー達が下がっていくことに疑問を感じていたが

春蘭「ハツハツハツー！我々の力を恐れて逃げ出したのだろう！」

豪快に笑う春蘭だが

桂花「大変よ！？」

秋蘭「どうした桂花？」

春蘭「お前、真桜達と一緒にいたんじゃないのか？」

桂花が戦場にやつて來た。

桂花「そんなことどうでも良いわよ！いま城の兵から聞いたんだけ  
ど、華琳様が奴らに拐われたんですって！？」

春蘭・秋蘭『なんだつて！？』

桂花「こうなつたら早くオーズを呼び出すしかないわ！？急いで呼  
んできてよ！」

春蘭「それもそうだな！？いくぞ秋蘭！」

秋蘭「ああ姉者！」

ダツ！

そして華琳を助けるべく益州に向かう一人だが一人が去った後

桂花「フフフツ！？」

シユンツ！

桂花の姿がラグルに変わった。

ラグル「さあオーズよ来るがよい！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6894x/>

仮面ライダーオーズ×真・恋姫†無双 映司とアンクと恋姫達  
2011年12月17日21時47分発行